

科 目 名	保健体育講義 2	担当者名	青 柳 多恵子
-------	----------	------	---------

(半期完結)

講 義 の 目 標	<p>近代文明のめまぐるしい発展と、すさまじい勢いの人口の高齢化や地球環境の変化が急速に進むなかで、豊かで健康な人生を生き生きと送ることは、昔よりも難しくなりつつある。真の健康とは、ともあれ自然に順応した生活の追求と言えます。日本人の食生活は美食・飽食の時代になって早くも30年余であります。夜型生活の浸透と食生活の欧米化に加えて核家族化という中で、健康は自分のライフスタイルの確立に大きく左右されると思われます。我々を取り巻く諸問題を正確に受け止め、自己の将来設計に健康で豊かな生活を送るための真の健康とは何かを考えることを目的とします。</p>		
講 義 概 要	<p>文明の発達をもたらした便利で過ごし易い生活が、健康にとって如何なる問題をもたらしたか。また文明の発達が環境にとって何を残したのか。急速に変化していく生物の健康や地球環境の周辺が、目に付く変化と目に入らない所の変化が生じてきた。高齢化を迎えるためのライフスタイルを自立した生き生きとした健康なものとするには、環境、食生活、心の在りよう、疾病、人間の身体、特に本講座では、東洋医学の用いている人間の本来保持している自然治癒力の考え方を理解することによって、真の健康を考える。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献	<p>加藤 橘夫著 「体力科学からみた健康問題」 村木 弘昌著 「丹田呼吸健康法」 NHK 「日本人の健康観」 内山 興正著 「生死を生きる」 ネット・ローレンス著 「健康・体力づくり」 湯浅 泰雄著 「気とは何か」 立川 昭二著 「病気の社会史」 岩槻 邦男著 「植物からの警告」</p>	
評 価 方 法	出席状況とテストによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	東洋医学的健康方法に興味のある学生。単位取得だけの目的の学生は遠慮してほしい。		

年 間 授 業 計 画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋（中国）身体の捉え方。西洋の疾病の考え方。 東洋的心身観について・「気」について。 2. 健康の捉え方 人体の見方を自然観（見える身体と見えない身体） 3. 病気について 身体の三つの回路について。「経絡」のシステム。 4. 食生活と自然治癒力 現代の食生活の実態の捉え方と未来 5. 健康を意識する事とは。 運動と成人病の関連について。 6. 心（精神）の健康の維持と育成。 東洋的修養法とは...ヨーガや気功について 7. 西洋のエアロビクス理論について。 運動器官・身体訓練を気功との違いについて。 8. トータルフィットネスの意味と必要性 息・食・動・想について。 9. 生活・仕事・家庭・趣味について。 パラダイムの大転換を解析する。 10. 社会生活と健康管理 20 - 40 - 20の考え方と家庭について。 11. 健康教育の必要性 東洋的人間性と健康観 12. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	保健体育講義 2	担当者名	梶 野 克 之
-------	----------	------	---------

(半期完結)

講 義 の 目 標	<p>生涯を通じての健康のためには、年齢、体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の社会生活にとって不可欠な文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要になる。これらの課題を解決するために、体育・スポーツに関する情報を理解したうえで、実践に結びつけることが大切である。体育学に関する知識をいろいろな角度から探求し、社会生活にとって重要な基礎的理論を身につけることにより、現在から将来にわたって健康で有意義な社会生活が送れることを目的としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>体育学に関する知識についていろいろな角度から解説する。 現代社会の特質とスポーツについて、その現状と問題点についての理解を深める。つづいて体育をめぐる心理学的な側面について、個人・集団にわたって解説する。 体育・スポーツの実践にかかわる身体運動について、生理学的な側面から解説し理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。</p>		
使 用 教 材	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糸野豊編『現代社会とスポーツ』不味堂出版 ・ 大学保健体育研究会編『大学生の体育と保健』道和書院 	
評 価 方 法	評価は授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	後期を選択する場合も第1回目の授業に出席してください。		

1. 講義概要の全般的な説明と、現代社会とスポーツについて考える。現代社会の特質と問題点をさぐり、社会の変化とスポーツについて解説する。
2. 現代人の健康・体力問題とスポーツについて考える。積極的な身体運動の必要性やよりよいスポーツ生活をめぐっての理解を深める。
3. 現代人にとってスポーツとは何かについて考える。スポーツの意味とそのとらえ方や、生きがいとスポーツについて理解する。
4. 体育の心理学側面について、発育・発達の意義や発達段階について考え、さらに身体的機能や運動能力の発達などの理解を深める。
5. 体育における運動学習について考える。学習の意義を考えるとともに、運動技能の能率化について理解する。
6. 体育における集団の心理について考える。集団として実施される体育活動について、その集団の形成や集団の構造について考える。
7. 身体活動の生理学的側面について、運動と呼吸から理解する。呼吸数や換気量を理解したうえでエネルギー代謝などを考える。
8. 運動と筋力について考える。筋収縮のメカニズムについて考え、収縮のエネルギー源について理解する。
9. 前回に引き続き、運動と筋力について考える。運動を制御する神経系について理解を深め、疲労についても考える。
10. 体力とトレーニングについて考える。体力の概念について理解するとともに、体力の要素と関係要因について理解する。
11. 体力づくりとトレーニングについて、その意義について理解を深める。さらにトレーニングの一般的な原則について考える。
12. 体力づくりの具体的な方法について考える。筋力にかかれる、ウェイト・トレーニングやサーキット・トレーニングについての理解を深める。

科目名	哲学	担当者名	高尾由子
-----	----	------	------

講義の目標	さまざまな情報が氾濫する現代、「確実な知」はいかにして得られるのか。そもそも知とは何なのか。主に西洋哲学の基本的な概念を用いて、「自分自身の知」の形成を中心課題として、「自分で哲学的に考える」ことをめざす。		
講義概要	西洋哲学史上、主要な思想家の著作を読みながら、何が問題となっているのか、その問題がどのように考えられているのか、を検討する。		
使用教材	テキスト	プラトン「ソクラテースの弁明・クリトーン・パイドーン」新潮文庫 デカルト「方法序説」岩波文庫、カント「純粹理性批判」上巻、岩波文庫	
	参考文献	田中美知太郎「ソクラテース」岩波新書、野田又夫「デカルト」岩波新書 石川文康「カント入門」ちくま新書、その他授業で指示する。	
評価方法	前後期各1回のレポートによる。 テーマその他は授業で指示する。		
受講者に対する要望など	テキストを読んでくること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の予定と授業の進め方の説明。哲学という学問について。 2. プラトンの「ソクラテースの弁明」を読みながら、「知を求めること」と「魂を気づかうこと」の結びつきについて考える 3. " 4. " 5. " 6. " 7. " 8. デカルトの「方法叙説」第一部～第四部を読み、近世哲学の出発点としての「確実な知」について考える 9. " 10. " 11. " 12. 前期のまとめと課題について 13. 「方法叙説」第五部、第六部を読み、哲学と自然科学のかかわりについて考える。 14. " 15. " 16. 自然科学の発展がもたらした哲学への影響について考える。 17. カントの「純粹理性批判」第2版序文を読み、理性自身が理性の吟味をすることによって変革される知と世界のあり方について考える。 18. " 19. " 20. " 21. " 22. " 23. " 24. 1年間のまとめ課題について。 		

科目名	哲学	担当者名	松丸壽雄
-----	----	------	------

講義の目標	諸文化の担い手としての人間存在は存在するがぎり、根源的なレベルから実際のレベルまで様々な問題と遭遇し、これと対決せざるを得ない、その場合に、どのような立場から、どのような方法でこれらの問題に対処するかを、様々な角度から考えることができる基礎力を養うことを目標とする。		
講義概要	実地に現代の諸問題の根源を把握し、これらの諸問題に対処する立場と方法を検討し、解決の可能性をディスカッションを通して思索する。実践的な応用哲学を学習する。みずから問題の根源を見つけだし、みずから考究する態度を身につけるべく、課題が与えられて、それを小グループで討議し、解決の方向を検討する講義である。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	講義中に適宜指示。	
評価方法	最低年2回のレポートとディスカッションへの積極的貢献度により評価。		
受講者に対する要望など	自分で考えようと努力し、ディスカッションへの積極的に参加するつもりのある人。ディスカッションという性質上、人数制限もあり得る。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明。 2. 愛とは何かについての考察。ビデオ鑑賞 3. 愛についての様々な思想(1)プラトン 4. 愛についての様々な思想(2)キリスト教とフォイエルバッハ 5. 愛についての様々な思想(3)西田幾多郎 6. グループ分けと小グループによるディスカッション時の諸注意。 7. ディスカッション(小グループ) 8. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 9. 差別についての考察。 10. 障害者と差別。ビデオ鑑賞。 11. ディスカッション(小グループ) 12. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 13. 生と死についての考察。 14. 生と死についての様々な思想(1)宗教と哲学。 15. 生と死についての様々な思想(3)西田幾多郎と禅。 16. ディスカッション(小グループ) 17. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 18. 脳死と倫理。 19. 生命倫理について。 20. ビデオ鑑賞。 21. ディスカッション(小グループ) 22. ディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 23. 年間を振り返ってのディスカッション(小グループ) 24. 年間を振り返ってのディスカッション(全体でのグループ意見の発表と討議) 		

科目名	心理学	担当者名	杉山 憲 司
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>この授業では、性格、発達、知能、学習と動機づけ、社会などの心理学の諸領域から、なるべく広範囲なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介する。心理学のキー概念や諸理論を学びながら、例えば、「切れる子どもたち」「目標の定まらない学生」などの現代の学校の諸問題や、「ストレスと精神的健康」「高齢者と若者の考え方のズレ」などの日常的な諸課題に適用し、対処法へとつなげる講義をする予定である。</p> <p>心理学から見た、多様な科学的人間性のモデルを理解することが、講義の最終的な目標である。</p>	
講義概要	<p>心理学の研究内容は、道徳性や性格など、日常的で身近な現象が多い。従って、学生は取り上げる現象に対して、既に、一定の意見を持っていることが多い。そこで、科学的な心理学の研究成果を講義することになる。また、心理学は自分自身が研究者であり、且つ、研究対象であるという特徴がある。従って、自己理解は重要なテーマである。</p> <p>心理学の領域を大きく分けると、1 性格や知性などのように、一人一人の個性・個人差の理解と、2 人間という種に共通する、学習・知覚・動機づけなどの一般法則の理解に分けられ、両者の関係や日常生活との関わりについて講義する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>青柳肇・滝本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）1989「こころのサイエンス」福村出版 ¥1900、青柳肇・滝本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）1989「トピックスこころのサイエンス」福村出版 ¥1900</p>
	参考文献	<p>教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。</p>
評価方法	<p>前後期2回の試験で評価する（追試は教務課を通すこと）。リーディング・レポートの実施については授業の始めに相談する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>この授業を自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用することを提案する。授業を聞く際、自分の専攻（将来の職業）や、現代の諸問題との関連を考えながら聴講することを希望する。</p>	

1. 心理学への導入：心理学の体系について、心理学の研究対象と方法、心理学と他の学問との比較。人間に共通な一般法則と一人一人の個性や個人差を理解することの意味。
 2. 1章 パーソナリティ：パーソナリティの緒理論は人間性のモデルである。1)精神力動的モデルとロールシャッハ検査。
 3. 2)行動主義モデルとM P I、3)認知的モデルと自己意識、4)パーソナリティの特性論とビッグ5
 4. 5)人間学的モデルとクライアント中心療法、6)標準心理検査、7)パーソナリティの形成・発達と病理
 5. 2章 知能と創造性：あなたの能力観は？ 知能検査で測られているのは何か？ 新たな能力観を求めて。1)知能研究の源、2)新しい知能観（能力か動機づけか）
 6. 創造性：知能検査で測られていないもう一つ的能力、創造性、1)Guilfordの知能構造モデルと拡散的思考 2)創造性の育成と活性化
 7. E Qとは何を指しているか、1)適性という概念、2)対人関係に必要な社会的スキル。
 8. 3章 生涯発達：高齢者も発達する、生涯発達視点から現在を捉える。1)研究の源と発達観の変遷、2)研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
 9. 初期発達 1)乳児の気質の型とアタッチメント、2)コンピテンスと自己原因性の獲得
 10. 社会性の発達：1)道徳性と向社会性の発達段階、2)仲間関係のルールとスキル、3)青年期の自己意識
 11. シルバーエイジと生きがい：1)アイデンティティの確立と自分らしさ、2)喪失の時期と統制感・自己効力感
 12. 前期のまとめ：一人一人の個性・個人差を理解することの意味・大切さ、1)心理学研究の2つの目標
 13. 4章 行動：行動の視点から人間を見る、行動の獲得・形成としての学習。1)学習とは、自発的に学ぶことと他者に教えることの違い
 14. 学習の基礎過程、1)行動の種類と発達・進化、2)学習の基本型（1）レスポナント条件づけ、しつけ、情緒の統制、他律から自律へ
 15. 3)学習の基本型(2)オペラント条件づけと強化随伴性（の認知）行動結果の持つ意味、4)観察学習とモデリング、模倣の役割と意義、
 16. 社会的行動：社会心理学の課題と研究方法、1)攻撃と愛他（利他）行動のバランスと育成、2)同調行動と服従、実験室のアイヒマン
 17. 3)リーダーシップ行動、変革期のリーダーには何が求められるか、4)集合行動とマスコミュニケーション
 18. 5章 認知：認知とは対象の意味づけのこと、客観的状況と主観的現実、1)感覚と知覚、2)感覚受容器、絶対閾、錯視、恒常性
 19. 3)認知のプロセス、原因帰属の構造と特徴、4)課題達成行動の原因帰属による理解
 20. 5)人間の記憶の情報処理モデル、1)情報処理モデルの例、トップダウンとボトムアップ、2)短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶
 21. 6章 動機づけと情緒：学習動機を中心とした動機づけの理解、1)さまざまな動機、食行動と摂食障害、ホメオステシス
 22. 2)内発的動機づけ、自発的な学び、知的好奇心、自己決定と最適不適合とズレ理論
 23. 3)対人社会動機、愛着、共感性と愛他動機、4)動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション
 24. 後期のまとめ：行動の一般法則を理解することの意義、1)心理学から見た人間とは、2)現代の問題にどれだけ答えられたか、3)残された問題
- 以上

科目名	心理学	担当者名	瀧本孝雄
-----	-----	------	------

講義の目標	本講義では心理学全般にわたって具体的に話を進めていきたい。 心理学研究の対象とその方法論について学習し、心理学とは何かというテーマを最終の目標としたい。		
講義概要	まず初めに心理学全体についての領域や対象について述べる。前期では主にパーソナリティ、知能、カウンセリング、心理テスト、発達など個性理解のための心理学について概説する。後期では感覚、知覚、記憶、思考、社会的行動など人間の意識と行動についての一般的原理について概説する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	新版「カウンセリングと心理テスト」林 潔 他著 プレーン出版 「こころのサイエンス」青柳 肇 他著 福村出版	
評価方法	出欠席、レポート提出（前・後期）により評価する。		
受講者に対する要望など	出欠を重視するので、授業に休まないことを要望する。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の対象と方法 2. パーソナリティの定義と理論 3. パーソナリティの測定 4. パーソナリティの異常 5. 知能の定義と理論 6. 知能の形成と知能検査 7. カウンセリングの定義と方法 8. クライアント中心カウンセリング 9. カウンセリングの実習 10. 心理テストについて 11. 心理テストの実習 12. 発達心理学（乳幼児期～青年期） 13. 発達心理学（成人期～老年期） 14. 感覚と知覚 15. 記憶と思考 16. 行動の獲得 17. 社会的行動 18. 人間関係と性格 19. 動機づけと情緒 20. フラストレーションとコンフリクト 21. 流行の構造 22. グループ討議（1） 23. グループ討議（2） 24. アサーショントレーニング 		

科目名	心理学	担当者名	三本 茂
-----	-----	------	------

講義の目標	- 人間行動を理解するために - 心理学は、人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。本年の講義は、行動を個人的要因と社会的要因の二つの面に関係付けて考察する。		
講義概要	<p>行動の個人的要因として、パーソナリティ（性格、知能、集団的パーソナリティ）や適応のメカニズムなどを取り上げる。</p> <p>社会的要因については、集団の特性と機能、コミュニケーション、リーダーシップ、社会的態度、文化と社会現象等を扱う。</p>		
使用教材	テキスト	刊行されているものから、講義内容とほぼ一致するものを各自用意すること。	
	参考文献	講義の際に適時指示する。	
評価方法	前期に提出するレポートと年度末の筆記試験による。この他に、随時レポート等の提出を求めることがある。		
受講者に対する要望など	よく出席し、質問すること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とパーソナリティ 性格の理論（1） 2. 性格の理論（2） 3. パーソナリティの形成 4. 集団的パーソナリティ 5. パーソナリティの診断（1） 6. パーソナリティの診断（2） 7. 適応のメカニズム 8. 知能の構造論 9. 知能検査 10. 知能の分布とその特性 11. 人間の集団の特性 12. 集団の機能（1） 13. 集団内のコミュニケーション 14. リーダーシップ 15. 集団の機能（2） 16. 社会的態度（形成と変容） 17. 社会と文化（1） 18. 社会と文化（2） 19. 社会現象（マス・コミュニケーション、流行） 20. 社会現象（流言、パニック） 21. 22. 23. 24. 		

科 目 名	倫 理 学	担当者名	市 川 達 人
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>前半は倫理に関する倫理的な理解を目的として、倫理学上の基礎概念について説明する。後半は、今日の実践倫理の主要な関心となっている環境倫理について考える。時代をみずえる方法を倫理的視点から確立することが目標である。</p>		
講 義 概 要	<p>倫理とは善き生を目指しての共同の努力である。善き生とは何かを扱うのが価値の問題である。共同の努力を導くのが規範の存在である。講義の前半は、価値と規範を軸として倫理に関する原理的な理解をめざす。私たちが論理的な判断を下すとき、そこにいかなる思考のメカニズム、あるいは論理が働いているかを考えるということである。後半では、「環境倫理」を取り上げ、人間・自然関係の組み直しを課題とする倫理的議論を紹介し、地球環境の時代に倫理学が何をなすべきかを考えてみたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参 考 文 献	尾関周二編「環境哲学の探求」大月書店	
評 価 方 法	<p>学年末の試験によって評価。場合によっては夏休みにレポートを要求することもある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	なし		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一年間の予定。倫理学の対象と課題 2. 倫理の概念 3. 規範としての倫理(1) 動機 - 行為 - 結果の連関と倫理的判断 4. 規範としての倫理(2) 法の問題 5. 規範としての倫理(3) 風俗の問題 6. 価値としての倫理(1) 価値と欲求構造 7. 価値としての倫理(2) 価値と事実 8. 価値としての倫理(3) 人格と人間性の価値 9. 倫理的問題状況と倫理学の歴史(1) 10. 倫理的問題状況と倫理学の歴史(2) 11. 功利主義 12. 自由主義 13. 環境をめぐる問題状況 14. 環境と自然の概念(1) 15. 環境と自然の概念(2) 16. 人間中心主義とエコ中心主義(1) 17. 人間中心主義とエコ中心主義(2) 18. 共生とは? 19. 人間存在の特異性と自然との関係 20. 社会的公正と環境倫理 21. フェミニズムと環境倫理 22. マルサス主義と環境倫理 23. 風土の理論と環境倫理 24. まとめ
----------------------------	--

科目名	国語学	担当者名	小島幸枝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>世界の言語を使用人口の割からみると、ドイツ語に並んで第6位に位置づけられる日本語を、日本人自身は、学校教育を通して体系的には学んでいないのではないだろうか。国際社会にあって日本人の海外進出が日常的になっている現今、単に日本で生れ成長して日本語で用が足せる程度では日本語を修得しているとはいえない。</p> <p>本講では日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根差す日本語の、基本知識の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>国語学とはどのような内容をもつ学問なのか、国語学の分野を、音声音韻・文字・文法・語彙・文体の領域に分けて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>福島邦道著 国語学要論（笠間書院）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岩波講座日本語（岩波書店） ・講座日本語学（明治書院） ・橋本進吉：国語学概論（岩波書店） ・金田一春彦：日本語（岩波書店） ・築島裕：国語学（東大出版会） ・国語学会編：国語学大辞典（東京堂） ・佐藤喜代治：国語学研究事典（明治書院） 	
評価方法	<p>原則として前期はテスト、後期はレポートとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日本語教師を旨とする学生は受講することが望ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語学とはどのような学問か。その周辺領域の学問について 2. 国語学の研究領域と研究法 3. 国語の音韻 - 音声と音韻 4. 音韻史（古代語と現代語のちがい） 5. 五十音図といろは歌、天地詞、たゐにの歌 6. アクセント 7. 文字 漢字、国字 8. かな 万葉仮名、片仮名、反切、ひらがな 9. かな 万葉仮名、片仮名、反切、ひらがな 10. かなづかい 定家仮名遣、契沖仮名遣 11. ローマ字 ポルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字、日本式ローマ字 12. 文法と文法論 13. 文、文節、単語 14. 品詞 15. 文法史 16. 敬語法 17. 語彙 - 語彙と語彙量 18. 語形、語義 19. 外来語 20. 位相、語彙史への試み、辞書 21. 文体 - 文体と文体論 22. 方言 - 方言と方言研究史、言語地理学 23. 日本語系統論 24. (予備)
----------------------------	---

科 目 名	国 語 学	担当者名	桂 千佳子
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>私達は、毎日、当たり前のように言葉使っている。しかし「なぜ、言葉が通じるのか」「自分の言葉と他の人の言葉は、本当に同じなのか」と、問われ、即座に答えられる人は少ないだろう。</p> <p>本講義では、このような素朴だが本質的な言語への問いを軸に、自分にとって言葉とは何か、ということを考えていきたい。その中で、自分の在り方、ひいては、人間の在り方を問うていきたい。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、原初期のコトバの修得のプロセスや、ソシユール概念などについて学びながら、私達が、言葉によってどのように表現しているのかについて、できる限り心の深いところで理解していくことを目指す。また、夏休みの提出のレポートの完成度をあげる事を目標に、作文の添削を行っていく。</p> <p>後期は、前期で学んだ言語の機能が、文法にどのように反映しているかを、主に、日本語の文の特徴を通してみていく。文法上の特徴も、国語学史の変遷を辿ることで、結果として導き出された規則だけでなく、その考え方も理解できるようにする。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	テーマごとに配布するプリント	
	参 考 文 献	テーマごとに文献一覧をまとめ配布する	
評 価 方 法	前期のレポート（作文）と後期のテストの総合評価とする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回自分のことを振り返り、真剣に考えて欲しい。作文の添削方法は受講者数により、変更する事がある。実作の前に、作文提出を求めることもある。どんな場合も期限を厳守すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の方針について 「国語」と「日本語」 2. コトバへの想い - 言霊の伝統 3. 自分のコトバを見つめる - 「母語」と「母国語」 4. コトバが話せるのは本能か 5. コトバはなぜ通じるのか - 現象と認知と言語表現 6. コトバはなぜ通じるのか - ソシユールの言語理論その 7. コトバはなぜ通じるのか - ソシユールの言語理論その 8. コトバはなぜ通じるのか - 表現するということ 9. コトバと取り組む - 実作（作文を書いて提出する） 10. コトバと取り組む - 作文返却と講評 11. 日本人の世界観とコトバ 12. 以心伝心の文化 13. 頭の中の文法 14. コトバの構造と文法観 15. 文とは何か - コトとムード コトの分類 16. 文とは何か - コトとムード 文末の表現 17. 文とは何か - 「桜が咲く」は文か 18. 日本語の文の階層構造 - 南不二男による4つの分類 19. 日本語の文の階層構造 - 文の構造のまとめ 20. 日本語の「時」の表現 - テンス 絶対テンス 21. 日本語の「時」の表現 - テンス 相対テンス 22. 日本語の「時」の表現 - アスペクト 静態と動態 23. 日本語の「時」の表現 - アスペクト 動詞分類とアスペクト 24. まとめと質疑応答、テストについて
----------------------------	---

科目名	国語表現	担当者名	飯島一彦
-----	------	------	------

講義の目標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行う。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>		
講義概要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	<p>毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行われる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>		

年
間
授
業
計
画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3.)
4.)
5.)
6.)
7.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8.)
9.)
10.)
11.)
12. 夏休み課題ガイダンス。
13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。
14.)
15.)
16.)
17.)
18.) 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
19.)
20.)
21.)
22.)
23.)
24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。

科目名	国語表現	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の収集および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。</p>		
講義概要	<p>前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。</p>		
使用教材	テキスト	松村明編『国語表現法』おうふう	
	参考文献	・都度、紹介する。	
評価方法	提出物による平均点、および出席点。		
受講者に対する要望など	授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなるとお考えください。		

科目名	国語表現	担当者名	肥田野 昌之
-----	------	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。		
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。		
使用教材	テキスト	特に使用せず、その都度プリント配布。	
	参考文献	特になし。	
評価方法	授業への出席と実作および年度末試験によって決定する。		
受講者に対する要望など	30%程度の学生は単位がとれないものと思われます。遅刻・欠席・私語・居眠りの多い学生、学習意欲の乏しい学生は登録しないで下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語・国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。 2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。 3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。 4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。 5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。 6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。 7. 豊かな内容とは - 物の見方や読書などについて考える。 8. 国語表記の問題 - 段落の分け方や送りかななどについても言及する。 9. 原稿用紙の使い方や校正などについて説明する。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字の書き取りを行う。 10. 作文を書く（添削と採点） 11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。特に誤字の問題、常体・敬体の混在など。また学生が黒板に出て、四字句の完成など行う。 12. 教養としての文学史 - 能・狂言について 13. 教養としての文学史 - 歌舞伎について 14. 文字について - 特に「漢字御廃止の儀」から常用漢字までを概説する。 15. 仮名づかいについて - 仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいを現代かなづかいに力点を置いて説明する。 16. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。 17. 文章のさまざま - 実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など - 18. 学生が黒板に出て、漢字検定2級の問題を中心にとく。 19. 手紙の書き方の実習 - 手紙の形式を中心にして説明する。 20. 教養としての文学史 - 俳句を中心にして 21. 課題作文を書く（添削と採点） 22. まとめとしてプリントを二枚を配布し、年度末試験について傾向と対策を説明する。 23. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字の書き取りを行う。 24. ことばと社会 - ことばの乱れや敬語法について考える。 		

科 目 名	日 本 文 学	担当者名	飯 島 一 彦
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文藝と言ってよいが、庶民文藝であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	その都度教室で配布する。	
	参 考 文 献	その都度教室で指示する。	
評 価 方 法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「お伽草子」とは何か? 2. 「浦島太郎」を読む 3. 「浦島太郎」を読む 4. 「浦島太郎」を読む 5. 奈良時代の「浦島太郎」 日本書紀 6. 奈良時代の「浦島太郎」 万葉集 7. 平安時代の「浦島太郎」 8. 平安時代の「浦島太郎」 9. 昔話・伝説の中の「浦島太郎」 10. 国定教科書の「浦島太郎」 11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間 12. 予備日「絵本の中の浦島太郎」 13. 「一寸法師」を読む 14. 「一寸法師」を読む 15. 「一寸法師」を読む 16. 奈良時代の「一寸法師」 17. 奈良時代の「一寸法師」 18. 平安時代の「一寸法師」 19. 平安時代の「一寸法師」 20. 藝能に見る「一寸法師」 21. 国定教科書の「一寸法師」 22. 昔話の「一寸法師」 23. まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。 24. 予備日『絵本の中の一寸法師』
----------------------------	--

科 目 名	日本文学	担当者名	肥田野 昌之
-------	------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講義概要	<p>前期は主として、初期万葉の歴史的事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。それとともに代表的な歌人たる柿本人麻呂や山部赤人などについて考察する。</p> <p>後期は主として、伝説・説話の歌や東歌。防人歌の問題、また山上憶良・大伴家持などの有力歌人について広く検討してみたい。</p>		
使用教材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上・下（岩波新書）	
評価方法	授業への出席と前・後期の試験によって決定する。		
受講者に対する要望など	出席は原則として 3 分の 2 必要、前期の試験で極端に悪い学生は単位をあきらめてもらいます。		

1. 一年間の講義概要を説明。『万葉集』についての名義・成立・注釈書などを概説する。
2. 巻一 1番・雄略天皇の歌について考える。
3. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
4. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5. 柿本人麻呂とその長歌を中心によむ。
6. 大津皇子・大伯皇女について、謀反事件との関連でそれらの歌をよむ。
7. 穂積皇子と但馬皇女との悲恋と歌物語について。
8. 有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。
9. 柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
10. 前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。
11. 山部赤人「不尽山を望る歌」を中心によむ。
12. 大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にしてよむ。
13. 真間娘子の歌 - 赤人と虫麻呂 -
14. 山上憶良とその歌 - 貧窮問答歌を中心にして -
15. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしてその歌を説明。
16. 高橋虫麻呂の伝説歌について - 浦島子・菟原処女など -
17. 寄物陳思・正述心緒 - 卷十一の歌をよむ。
18. 万葉集の用字法 - 特に義訓・戯訓 -
19. 東歌について説明と歌。
20. 中臣宅守と狭野弟上娘子の悲恋と贈答歌について
21. 卷十六有由縁并雑歌を中心によむ。
22. 後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。
23. 大伴家持とその歌についてよむ。
24. 防人歌についての説明と鑑賞。上代特殊仮名遣についても説明する。

科目名	外国文学	担当者名	北澤 滋 久
-----	------	------	--------

講義の目標	文学を味わうこと愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講義概要	<p>英米の文学に観る人間像</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1 講義、1 作家、1 作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていれば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	テキストは特に定めません。	
	参考文献	参考文献は、2 回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評価方法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）その感想文（小論文）を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受講者に対する要望など	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年 20%以上の不合格者が出ています。		

1. 登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2. 開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3. 現代文明下のアメリカの少年たち
『ハックルベリィの冒険』：イノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4. 『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5. 『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩
THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6. 19世紀、イギリスの娘たち
『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE DURBERVILLES by Thomas Hardy
7. 『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて
THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8. 『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9. 19世紀、英米文学の驚異
『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS by Emily Brontë
10. 『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY - DICK by Herman Melville
11. 英雄不在の20世紀の英雄たち
『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12. 『老人と海』：一老漁師にみる英雄的姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
13. 海洋（冒険）小説の諸相
『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
14. 『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
15. 近代芸術観の極致
『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
16. 『アッシュャー館の崩壊』他：至上の美を求めて
THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allen Poe
17. 『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って
THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
18. 父なるもの、母なるものの原像
『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by William Shakespeare
19. 『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
20. 『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて
A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
21. 倫理と欲望の峡間
『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
22. 『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて
THE HEART OF THE MATTER by Graham Greene
23. 『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
24. 閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答

科 目 名	外国文学	担当者名	石 崎 晴 己
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>フランス文学は、中世におけるその成立以来、一貫してヨーロッパ文学の主流をなして来たと言える。それはフランス文学が、ギリシア・ローマの古典古代の文学を最も正統的に継承したからでもあるし、フランスが中世に作り出した騎士道恋愛物語がヨーロッパ全体に広まって、ヨーロッパ文学の最初の共有財産を形成したからでもある。フランス文学のアウトラインをたどることは、ヨーロッパ的な考え方と感性とはいかなるものかを知る上で大いに意味深いはずである。</p>		
講 義 概 要	<p>学生が読んでもない作品のタイトルを次から次に羅列して、教師が一方的に語るという形には、できるだけならないようにしたい。基本的には言及される作品には学生諸君も一通り目を通して、という形で進めたいと思う。そのため基本的には、毎回一つの作品を取り上げて、分析し、その抜粋（邦訳の）を味わうということを中心に進めることになる。また関連する絵画やオペラ等の音楽作品、映画や劇のビデオなども積極的に利用して、作品を享受することの楽しさを可能なかぎり追求したい。なお、学生諸君の読書の便宜を考えて、十七世紀古典劇がら始めることにする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし。必要に応じて、プリントを用意する。	
	参考文献	教場にて指示。	
評 価 方 法	<p>前・後期ともレポートによって評価を決める予定であるが、場合によっては、きわめてレポートに近い形の筆記試験（問題予告による記述試験）を行なうかもしれない。またできれば学生諸君にも発表をして貰いたいと思っているので、それも評価の手段となるだろう。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>少しでも多く読むこと</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 方針説明。課題図書の設定と分担決定。 2. ラシーヌ「アンドロマック」(ヨーロッパ文学の基層としてのギリシア神話・伝説の典型としてのトロイ戦争) 3. ラシーヌ「フェードル」(フランス古典主義の絶頂。その作劇法) 4. モリエール「ドン・ジュアン」(リベルタンの伝統。cf. モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」) 5. 「ロランの歌」(フランス文学の発生。cf. ニーベルンゲンの歌) 6. 「トリスタンとイゾー」(cf. ワグナー「トリスタンとイゾルデ」) 7. 「狐物語」 8. ラブレ「ガルガンチュアとパンタグリユエル」(ルネサンスの展望。cf. パーサー) 9. モンテーニュ「エッセー」(自己検討・モラリストの伝統) 10. デカルト「方法叙説」(フランス的合理主義の伝統) 11. ラ・ロシュフーコー「箴言」 12. ラ・ファイエット夫人「グレーヴの奥方」(フランス心理小説の伝統) 13. パスカル「パンセ」(神の問題) 14. マリヴォー「愛と偶然の戯れ」(フランス十八世紀のイメージ。雅びな宴。cf. モーツァルト「フィガロの結婚」) 15. アベ・ブレヴォ「マノン・レスコー」(cf. マスネ「マノン」) 16. ルソー「告白」 17. バルザック「ゴリオ爺さん」 18. スタンダール「パルムの僧院」 19. フローベール「ボヴァリー夫人」 20. ボードレー「悪の華」(フランス作詩法の基礎) 21. ジイド「背徳者」 22. プルースト「失われた時を求めて」 23. マルロー「人間の条件」 24. サルトル「嘔吐」
----------------------------	---

科目名	外国文学	担当者名	山路朝彦
-----	------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。		
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。		
使用教材	テキスト	カフカの作品『変身』、『城』、『審判』	
	参考文献		
評価方法	前期レポート、後期試験		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. 文学の理論へ	感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質	
	2. 3. 4. 5.	カフカの作品紹介	
	6. 文学の理論へ	伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌	
	7. 8.	「小説」の誕生とその歴史	
	9. 10.	文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究	
	11. 12.	芸術の自律性、アヴァンギャルド	
	13. 文学研究の立場と方法	精神史的方法	
	14. 15.	作品内在解釈（インタープリテーション）の方法	
	16. 17.	マルクス主義の立場から	
	18. 19.	構造主義的方法	
	20. 21.	文学社会学的方法	
	22. 23.	「エッセイ」という方法	
	24.	新たな立場と方法	

科 目 名	歴史学（日本史）	担当者名	新 井 孝 重
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	14 世紀の内乱期は、日本の歴史の大きなまがり角であった。社会は南北朝の内乱を通過するなかで、どのように変化したのか。内乱期の諸相をながめながら、歴史の深いところに分け入り、社会の変化の様相をつかまえる。		
講 義 概 要	悪党とはどのような人々のことを云うのか。悪党の生態を観察することによって鎌倉末期の社会矛盾をつかまえる。そのさいの視点として、「武勇」と「武装」の問題は重要。つぎに、内乱の諸相を、なるべく具体的に、人間の行動と思想を通して観る。そのあとで、戦乱のなかで安穩をもとめる民衆のすがたを注目したい。		
使 用 教 材	テキスト	新井孝重『悪党の世紀』、吉川弘文館、1997年。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	評価は、後期の試験成績と年間の出席状況をもってする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	30 分以上の遅刻者は出席者とみなさない。 紳士的な態度で気楽に聴いていただければよい。		

年 間 授 業 計 画	1. 大仏を領主にする村 伊賀の農村、出作をする人びと。
	2. 大仏を領主にする村 奈良寺院社会の風景、南京大衆の周辺 在地住民の寄人（よりうど）・神人化による「僧兵」の出現
	3. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
	4. 悪党の活動 村の悪党 荘園在地武士の悪党化
	5. 寺の悪党 武装する僧徒
	6. 寺の悪党 預所（あずかりどころ）の僧、悪党になる 東大寺僧快実について
	7. 崩れる一揆の「作法」 中世の一揆とは 一揆の淵源である寺僧の衆会について
	8. 崩れる一揆の「作法」 荘園体制の一揆的構造 荘民の一揆の「作法」、「武」をともなわない一揆
	9. 崩れる一揆の「作法」 悪党の登場 「武」をともなう悪党の行動様式が荘園制の一揆的構造を破壊
	10. 武装の行粧 民間における武装の禁忌性 甲冑を着ることの意味
	11. 武装の行粧 武装すがたの異形性 中世の祭礼と武装
	12. 武装の行粧 悪党の武装……禁忌と異形との関連で武装は“悪”そのものである
	13. 内乱の風景 楠木の勢力 身体の武装の拡大したすがた……館の武装化
	14. 内乱の風景 楠木の勢力 在地に城郭がつくられることの意味
	15. 内乱の風景 金剛山の攻防 戦争を社会史的に観察すると
	16. 内乱の風景 移動する大軍 北畠顕家奥州軍長征の実相
	17. 内乱の風景 戦いの日々 内乱期武士の戦争観をみる
	18. 内乱の風景 軍忠と恩賞 武士はなぜ戦うのか
	19. 内乱の風景 傭われる凡下（ぼんげ）の輩 凡下と呼ばれる人々の生態をみる
	20. 内乱の風景 戦争に疲れて 合戦にあけくれる武士の人生、負傷・討死・没落
	21. 内乱の風景 武士たちの生きるための知恵 国人（こくじん）一揆
	22. 悪党の美学 バサラをみる
	23. 地下（じげ）の芸能と民衆 猿楽の形成 伊賀の猿楽
	24. 悪党の終焉 「平和」をもとめる民衆

科 目 名	歴史学（日本史）	担当者名	齊 藤 博
-------	----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三つの視点から日本人像に照射を加えたい。</p> <p>1. 共同体、2. 村落、3. 天皇制、4. 幕末維新时期、5. 英雄論、6. 民衆信仰、7. 民衆史、8. 差別史、9. 昭和十五年戦争、などが講義中のキーワードである。</p>		
講 義 概 要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考や CM 調流行ムード、あるいは大河ドラマの趣向によって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>日本人であるからといって日本史学習が容易であり気安く分かってしまうことはない。やはり丁寧に、きちんと出席しないとわからない。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 齊藤 博『歴史の精神』学文社 ・ 齊藤 博『民衆史の構造』新評論 	
	参 考 文 献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい、最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。割合と日本史百話的な「講談調」ではあるが、講義にでていないと無論、わからない。</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。とにかく、できる限り出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 日本および日本人について。日本史の特徴、日本人が日本史を学ぶ困難性
	2. 日本史の特徴、風土と歴史、日本史研究者像、新井白石、本居宣長、伴信友（近世史）
	3. 日本史研究者像、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎（近代、現代史）
	4. 日本史研究者像、瀧川政次郎、渡部義通、石母田正（古代史、中世史）
	5. 日本史研究者像、芳賀登、色川大吉、井上幸治（地域民衆史の視座と方法）
	6. 「天への想い」、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
	7. 「天への想い」（天皇制論を含む）
	8. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	9. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	10. 明治維新論（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰を含む
	11. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	12. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	13. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	14. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	15. 幕末維新 島崎藤村『夜明け前』を読む
	16. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	17. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	18. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む
	19. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む
	20. アジア的共同体と差別 島崎藤村『破戒』を読む
	21. 近世史と近代史の問題点 高橋貞樹『被差別部落一千年史』を読む
	22. 近世史と近代史の問題点 民衆信仰（中山みき、金光大神、出口王仁三郎）を考える
	23. 日本近代化をどう考えるか（北村透谷、石川啄木、夏目漱石、永井荷風）
	24. まとめ（総括）日本および日本人論をめぐって

科 目 名	歴史学（東洋史）	担当者名	熊 谷 哲 也
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、人々が何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>前半は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教の拡大によって広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>後半はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する、今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	とくにさだめない。	
	参考文献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。	
評 価 方 法	試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2. イスラーム教の誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。 3. 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。 4. 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。 5. ウマイヤ朝の歴史について考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。 6. アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。 7. イスラーム教の聖典であるコーラン(クルアーン) 預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想と学問について学ぶ。 8. アッバース朝時代から発達したアラビア科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義について考察する。 9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現しはじめた軍事政権とその展開について概観する。 10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。 11. ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作り上げたヨーロッパの人々の歴史観について検討する。 12. 同 その2 13. オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。また、キャピチュレーションの問題をとりあげる。 14. 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。 15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義(復興主義)の基本的メカニズムを理解する。 16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・ズーフイズムなどの問題について考える。 17. エジプトの近代化とその過程について考える。 18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。 19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえんについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。 20. 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事項をとりあげ、近代化との関係について検討する。 21. 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 22. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえん、マイノリティーの問題をとりあげる。 23. 現在のアラブ諸国のかかえる問題を検討する。東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。 24. (予備) まとめをおこなう
----------------------------	---

科目名	歴史学(西洋史)	担当者名	高橋正男
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>近年われわれはユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東・アフリカで起こった政治情勢の変転に際し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は、文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点を置いた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とする。受講生とともに複眼的視点から西洋史を現代国際関係から見直し、あわせて現代社会の根底を理解する素材を提供し、21世紀を展望してみたい。</p>		
講義概要	<p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(第5刷)時事通信社、1999年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』(第4刷)時事通信社、1999年 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・D = ハバト著(高橋正男訳)『図説 エルサレムの歴史』(第2刷)東京書籍、1994年 ・高橋正男著『エルサレム』(世界の都市の物語 14)文藝春秋、1996年 ・高橋正男・榊山紘一編『地中海の暦と祭り』刀水書房、近刊 ・他その都度紹介する。 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期の筆記試験による。 ・講義資料(年間約40枚)等は出席者のみに配布する。 		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	前期
	1. 歴史とは何か、史学研究法
	2. 先史時代と歴史時代とのメルクマール
	3. 古代オリエントの地理的範囲、文明の発生 - 前第四千年紀末 -
	4. 古代オリエント史の推移(1)
	5. 古代オリエント史の推移(1) V I D E O
	6. 族長時代からイスラエル王国成立まで(1) - 前19世紀～前11世紀 -
	7. 族長時代からイスラエル王国成立まで(2)
	8. 第一神殿時代(1) - 前10世紀～前586年 -
	9. 第一神殿時代(2)
	10. バビロニア捕囚時代 - 前6世紀 -
	11. 第二神殿時代(1) - 前538年～後70年 -
	12. 第二神殿時代(2)まとめ・V I D E O
	後期
	13. ローマ時代 - 70～330年 -
	14. ビザンツ時代 - 330～638年 -
	15. 初期ムスリム時代 - 638～1099年 -
	16. 十字軍時代 - 1099～1187年 -
	17. アイユーブ朝およびマムルーク時代 - 1187～1517年 -
	18. オスマン=トルコ時代 - 1517～1917年 -
	19. イギリスの委任統治時代 - 1917～1948年 -
	20. イエルサレムの東西分断 - 1948～1967年 -
	21. イエルサレム再統合 - 1967年以降
	22. 第二次世界大戦後の中東情勢
23. 現代歴史学の諸問題	
24. 後期のまとめ・V I D E O	

科目名	歴史学(西洋史)	担当者名	古川 堅治
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>本講座は、「ヨーロッパの歴史」と題して、前期をその統合と分裂の側面から通観し、今日のヨーロッパ連合(EU)がどのような発展の可能性をもっているかを考えること、後期をバルカン情勢の現在という視点から取り扱い、ヨーロッパの不安定要因としてのバルカン地域がもつ意味を考えることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義は概説的に進めていくが、関係するテーマのビデオや映画・LDなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提示し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問・疑問・意見が出ることを期待されている。その意味でも自由な発言が出るようなアット・ホームな雰囲気、小じんまりとしながら進めていく。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用することはしない。	
	参考文献	その都度指摘する。	
評価方法	<p>前・後期二回のレポートと数回の小レポートで評価。テーマ、〆切日、枚数等については、授業中に提示する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>歴史が不得意であったとか、これまで学んだことがなかったという人も関係なく、歴史に興味関心のある人、その必要性を感じている人ならだれでも歓迎。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 「はじめに」</p> <p>1 年間授業計画 2 ヨーロッパとは何か</p> <p>2. 「第一部ヨーロッパの歴史～統合と分裂の視点から～」</p> <p>(1) 地中海世界 1) ギリシア文明の歴史的意義(古典文化の発展とその遺産)</p> <p>3. 2) ローマ帝国の歴史的意義(ローマの世界帝国とヨーロッパ)</p> <p>4. 3) ビザンティン世界と西欧世界(東方世界と西方世界の関係)</p> <p>5. (2) 中世キリスト教世界～ヨーロッパ封建制とキリスト教の普遍化</p> <p>6. (3) ルネサンスと新世界～文化変容とヨーロッパの拡大</p> <p>7. (4) 宗教改革と絶対主義～宗教戦争とヨーロッパの分裂</p> <p>8. (5) 啓蒙の時代と自由の思想～「グランドツアー」、自由主義と民族主義</p> <p>9. (6) ヨーロッパの近代化～都市化と工業化、社会改革</p> <p>10. (7) 分裂から相互理解へ 1) 統合への理念(その1)</p> <p>11. 2) 統合への理念(その2)</p> <p>12. 3) 統合への理念(その3)</p> <p>13. 「第二部 バルカン状勢の現在」</p> <p>(1) 映画『ユリシーズの瞳』(その1)</p> <p>14. (2) 映画『ユリシーズの瞳』(その2)</p> <p>15. (3) バルカン地域の共通の歴史体験～諸帝国の支配</p> <p>16. (4) バルカン地域における民族意識の覚醒～諸地域のネットワーク</p> <p>17. (5) バルカン地域の独立運動～バルカン諸国の独立とヨーロッパ状勢</p> <p>18. (6) バルカン諸国の対立と領土問題～国家形成と民族分断</p> <p>19. (7) ギリシアをめぐる諸問題～ギリシア近・現代史とヨーロッパ列強</p> <p>20. (8) アルバニアをめぐる諸問題～民族統合の問題</p> <p>21. (9) 旧ユーゴ・マケドニアをめぐる諸問題～「マケドニア人」のアイデンティティ</p> <p>22. (10) キプロス問題～分断国家の歴史的背景と統合の可能性の問題</p> <p>23. (11) バルカン諸国の協力と連携～その他のバルカン諸国についての諸問題と新たなバルカン諸国の地域協力に向けて</p> <p>24. 「まとめ：一年間の総括」</p>
----------------------------	---

科 目 名	人文科学特殊講義 A (現代社会と教育問題)	担当者名	川 村 肇
-------	------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>学生諸君の関心がある現代社会の教育問題(「受験戦争」/ 荒れ/ いじめ/ 体罰/ 不登校その他)を、学生諸君の手で様々な角度から調査・報告し、参加者間で討議することを通じて、問題解決への道筋を探求する。</p>		
講 義 概 要	<p>現代社会と教育について、テキストに基づいて概説したあと、関心のあるテーマごとにグループを作って、文献調査を行い、複数の文献に基づきながら報告する。</p> <p>各グループの報告が一巡したあと、討議内容を受けて、夏休みを通じさらに調査を深め、報告・討議を重ねる。特に夏休みの調査は、現場に足を運ぶことを原則とする。これを通じて、各グループとも最終的なレポートを仕上げていく。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書	
	参 考 文 献	授業中に指示する	
評 価 方 法	出席による平常点と、最終提出レポートによる		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>受講前にテキストを読了しておくこと。</p> <p>積極的に討議に参加すること。欠席する場合には事前に連絡をすること</p> <p>参加者が少ない場合には個人調査・個人発表とする。</p> <p>なお、教職課程登録の有無に関係なく自由に参加されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介と各自の問題意識の交流 授業の進め方についての説明 2. テキストに基づく講義と討議 3. グループ分けとグループ活動計画の作成 4. グループによる第一次報告 5. グループによる第一次報告 6. グループによる第一次報告 7. グループによる第一次報告 8. グループによる第一次報告 9. グループによる第一次報告 10. グループによる第一次報告 11. グループによる第一次報告 12. 夏休みの計画について 13. グループによる第二次報告 14. グループによる第二次報告 15. グループによる第二次報告 16. グループによる第二次報告 17. グループによる第二次報告 18. グループによる第二次報告 19. グループによる第二次報告 20. グループによる第二次報告 21. グループによる第二次報告 22. グループによる第二次報告 23. グループによる第二次報告 24. 全体討論
----------------------------	---

科 目 名	人文科学特殊講義 A (西洋哲学史)	担当者名	谷 口 郁 夫
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	われわれは今、環境問題、臓器移植問題、性転換手術、終末医療など、人類が初めて直面するさまざまな問題に囲まれています。前例がないだけに、歴史を振り返っても何の役にも立たないと思われるかもしれません。しかし、根柢にはやはり「人間とは何か」という最も根源的な問いがあります。この問いには唯一の答えはありません。動物学者には動物学者の解答(裸のサル)があります。哲学者の解答もありますが、実にいろいろな答えがあります。われわれは誰かに答えを教えてもらうのではなく、自分で答えを見つけなければなりません。そのヒントをみつけるために、われわれは過去を振り返るのです。
講 義 概 要	哲学や倫理学の書物に触れる機会はあまり多くないだろうと思いますので、できるだけ多くの関連書物を読むことを中心に授業を進めます。具体的には、年間を通じていくつかの問題を取り上げ、プリントを使って関連する書物の一部を読むという形になります。
使 用 教 材	テキスト テキストは使用せず、プリントを使いますが、基本的にこちらで準備します。
	参 考 文 献 プラトン「饗宴」、パスカル「パンセ」など。 詳細は年間授業計画を見てください。授業の中で読むのはごく一部ですから、興味を持てるものがあれば、全体を読んでもらいたいと思います。
評 価 方 法	前・後期にそれぞれ 5 から 6 の課題の中からひとつ選んで、1000字以上のレポートを書いてもらいます。内容はもちろんですが、レポートの書き方の基本を押さえることに注意してください。出席をとり、評価に際して参考にしますが、レポートの評価を優先します。
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	年間の授業計画は以下の通りですが、学生からの要望があれば、変更もありえますので、要望があれば申し出てください。

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プラトンの「饗宴」におけるエロスについて。エロスの存在としての人間について。 2. 前回に続き、特に、アリストテレスの言う「ポリスの動物」としての人間を取り上げ、現代の動物行動学の成果なども踏まえながら、人間について考えます。 3. プラトン・アリストテレス以外の古代ギリシャの思想家たちを紹介します。 4. 前回に引き続き、古代ギリシャの哲学者の断片を読みます。 5. ベーコンの「ノヴム・オルガーヌム」。近代的な自然観がここで初めて明瞭に現れています。ここに含まれる問題点について。 6. パスカルの「パンセ」を読み、「考える葦」「気晴らし」などの言葉を手掛かりに、生と死、人間存在についてパスカルがどのように考えたか。 7. 前回の続き。 8. ホブブスの「リヴァイアサン」を読みます。彼は人間を性悪説でとらえられていますので、その点に特に注目したいと考えています。 9. ルソーの思想に現れた人間観について考えます。ルソーはホブブスとは逆に性善説で人間をとらえられていますので、その点でホブブスとの比較を試みます。 10. 前々回と前回の講義のまとめを試みます。 11. カントの「単なる理性の限界内における宗教」における根源悪の問題について考えます。 12. 前回に引き続き、カントの思想について考えます。 13. 悪の問題を取り上げますので、「悪」についての現代の思想（動物行動学、心理学なども）を紹介し、「悪」の問題の難しさについて論じます。 14. ヘーゲルの「歴史哲学」を読み、歴史と個人の問題、歴史における個人の役割について考えます。 15. マルクスの「共産党宣言」から、前回と同じ問題について考えます。 16. ヘーゲルとマルクスの思想の対比を改めて行います。 17. キルケゴールの「おそれとおのき」から、倫理的なものとは何かについて考えます。また、彼の生涯において婚約破棄がどういう意味を持ったのかについて。 18. キルケゴールの日誌から、彼の主体的真理について考えます。 19. 前回に引き続き、キルケゴールの著作から、彼において人間はいかにあるべきものとして捕らえられたのかについて論じます。 20. フォイエルバッハ「キリスト教の本質」「作家と人間」を読み、あまり知られていませんが、この思想家が「愛」を説く思想家であったことに注目します。 21. サルトルの「実存主義とは何か」を読みます。 22. 前回の続き。無神論的実存主義を標榜したサルトルにおいて、人間とは何かという問いがどのように問われなおされているかを論じます。 23. 予備 24. 予備
----------------------------	---

科 目 名	人文科学特殊講義 A (西洋倫理思想史)	担当者名	谷 口 郁 夫
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>学問は現実の前では実に脆い面をさらけ出すことがあります。哲学や倫理学など、その点から見て典型的なもので、現実の前では何の役にも立たないものだと思われるかもしれませんが。しかし、現実には振り回されないためには、自分なりに納得した価値観や人生観が必要です。われわれは何のために生きているのか、生きる意味とは何か。自身の生き方を見つけることが必要です。もちろん、これは非常に難しいことでもあります。最も難しいかもしれませんが。最も必要なものが最も手に入れにくいというジレンマにわれわれは曝されているのです。</p>		
講 義 概 要	<p>19世紀の末、ニーチェは次のように書いています。「ニヒリズムとは何を意味するのか？ - 至高の諸価値がその価値を剥奪されるということ。目的が欠けている。『何のために？』への答えが欠けている。」ニーチェがこの言葉を発したとき、その重要性に気づいた人は一人もいませんでした。狂人の戯言だったのです。二度の大戦を経験した現代人は、ニーチェのこれらの言葉こそ、われわれの状況を言い当てていることに気づいたのです。この講義では、ニーチェを中心に、ニヒリズムの問題について取り上げ、生の意味、労働の意味、人間であること、自由、価値、善と悪などについて考えていきます。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>プリントを使って授業を進めます。プリントは基本的にすべてこちらで準備します。</p>	
	参 考 文 献	<p>ニーチェの特に後期の著作。「ツァラトゥストラはこのように語った」「この人を見よ」「遺稿」。キルケゴール「現代の批判」など。詳細は年間授業計画を見てください。授業の中で読むのはごく一部ですから、興味の持てるものがあれば全体を読んでもらいたいと思います。</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期にそれぞれ5から6の課題の中からひとつ選んで1000字以上のレポートを書いてもらいます。内容はもちろんですが、レポートの書き方の基本を押さえることに注意してください。出席をとり、評価に際して参考にしますが、レポートの評価を優先します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>ニーチェが中心となりますが、古代ギリシャやキリスト教についての知識が必要です。このふたつについての知識は他のところでも役に立ちますので、勉強してもらいたいと思います。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋において文化の根柢にあるのは言うまでもなくキリスト教です。当然、キリスト教についての知識が要求されますので、数回にわたってキリスト教について論じます。 2. キリスト教について[1]ユダヤ教との関係・歴史的イエス・原始キリスト教会などについて。 3. キリスト教について[2]イエスの教え・パウロの教えについて。キリスト教における罪の概念・終末思想など。 4. キリスト教について[3]ローマ帝国へのキリスト教の広まり・カトリック教会の成立・中世ヨーロッパについて。アウグスティヌスの思想。 5. 中世の最も有名な書物であるアウグスティヌスの「神の国」を取り上げます。罪、歴史などについて中世の人々がどのようにとらえたかについて考えます。 6. ルター・カルヴァンの宗教改革・プロテスタンティズムの誕生。17、18世紀のキリスト教会について。近代的意識の成立。特に労働の意味について。 7. 中世の人々の生活、特に職業について考えながら、現代との対比を試みます。マルクスについてもここで取り上げます。 8. ニヒリズムの背景となる19・20世紀のキリスト教会、社会思想について。フォイエルバッハ、マルクスなど。特に、労働の意味の変質について。 9. キルケゴール「現代の批判」(岩波文庫)を読む。キルケゴールにおける水平化、大衆化の問題としてのニヒリズムについて。キルケゴールにおける主体的真理について。 10. ツルゲーネフ「父と子」(新潮文庫)を読む。この小説は、「ニヒリスト」という言葉を大衆化した作品である。 11. ドストエフスキー「罪と罰」(新潮文庫)「悪霊」(新潮文庫)を読む。 12. 前回に続き、ドストエフスキーの作品における、超人の問題。ドストエフスキーにおけるニヒリズム克服の試みとその挫折について。 13. ドストエフスキー「カラマゾフの兄弟」に含まれる「大審問官」で自由に関する独特の思想が展開されています。自由についてもう一度考えます。 14. カミュ「シーシュポスの神話」におけるドストエフスキー解釈について。特に自殺の問題をめぐって。 15. ニーチェ「悦ばしき知識」を読む。ニーチェにおける「神の死」の宣告。特に時代状況との関連に顧慮する。 16. ニーチェ「力への意志」を読み、このニーチェの遺稿を手がかりに、ニーチェにおいてもっとも明瞭に示された「ニヒリズム」とは何かについて。 17. 前回に引き続き、ニーチェの「力への意志」を読む。ニーチェ思想のキーワードとなる「超人」「永遠回帰」「価値転換」などについて。キリスト教批判の問題。 18. ニーチェ「ツアラトウストラはこう言った」を読む。「超人」「自己超克」について。 19. ニーチェ「道徳の系譜」。この著作で、善や悪が歴史的に形成されていくものとされています。この問題について考察します。 20. ニーチェ「この人を見よ」における「運命愛」について。新たな価値観としての「力への意志」「ディオニュソス的なもの」について。 21. エーリッヒ・フロムの「悪について」を読み、現代の大衆社会におけるニヒリズムの危険性について考える。 22. フランクル「夜と霧」。フランクルの言う「ニヒリズムの克服」、「生の意味」などについて考える。 23. 前回の続き。「死と愛」「苦悩の存在論」などを併読予定。個と個、個と社会の関係性について。 24. 一年間のまとめとして、さらに広く現代社会におけるニヒリズムの問題をその克服の試みについて考える。
----------------------------	---

科 目 名	人文科学特殊講義 A (キリスト教史)	担当者名	中 島 文 夫
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸長・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目することもある。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられるであろう。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本的認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。</p>		
講 義 概 要	<p>キリスト教史 : 古代・中世前期 キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなく、ヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中に神の摂理を読み取ろうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が形成されて行った過程を丹念に跡づけて行くことにする。その範囲を古代から中世前期までに限定し、普遍的教会という理念のもとに教皇を頂点とするゲルマン的キリスト教世界ができ上がるまでの経緯を明らかにする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。代りに、レジユメのプリントを配布する。	
	参考文献	<p>キリスト教について全く予備知識のない人には、予め下記の本を読んでおくことをお勧めします。</p> <p>井上洋治『キリスト教がよくわかる本』(PHP文庫)</p>	
評 価 方 法	<p>前期・後期とも、期末に筆記試験を課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>特に予備知識を要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者及び同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序説 1 . キリスト教大観。序説 2 . キリスト教史の意義。</p> <p>2. 序説 3 . ヘブライズムとヘレニズム。第 1 章 原始キリスト教団の誕生。§ 1 . イエスとその弟子たち。</p> <p>3. § 2 . 原始教団の成立と発展。§ 3 . 「異邦人の使徒」パウロ</p> <p>4. § 4 . 新約諸文書の成立。§ 5 . 「キリスト論」の展開。</p> <p>5. 第 2 章 古カトリック教会の成立。§ 1 . 2 世紀のキリスト教</p> <p>6. § 2 . 初期異端と「カトリック」教会の成立。§ 3 . ローマ教会の優位。</p> <p>7. § 4 . ログス・キリスト論の確立。§ 5 . アレクサンドリア学派。</p> <p>8. 第 3 章 「帝国の教会」 § 1 . 教会の制度的発展。</p> <p>9. § 2 . 「秘蹟」制度の発展。</p> <p>10. § 3 . 「帝国の教会」への歩み。</p> <p>11. § 4 . ニカイア抗争 アレイオス主義の問題</p> <p>12. § 5 . 修道生活の発祥と普及。</p> <p>13. 第 4 章 キリスト教世界の再編成。§ 1 . ゲルマン民族大移動とキリスト教。</p> <p>14. § 2 . 修道院制度の発展。§ 3 . 正統キリスト論の確定。</p> <p>15. § 4 . 西方教会の独自の発展。</p> <p>16. § 5 . 西方教会の権威の確立。</p> <p>17. 第 5 章 ゲルマン的キリスト教世界の形成。§ 1 . フランク教会の形成。</p> <p>18. § 2 . カルル大帝とカロリング帝国。</p> <p>19. § 3 . 帝国の崩壊と再建 神聖ローマ帝国。</p> <p>20. § 4 . 修道生活の革新と聖者・聖遺物崇敬。</p> <p>21. § 5 . 西欧キリスト教世界の拡大。</p> <p>22. § 6 . グレゴリウス改革と叙任権闘争</p> <p>23. (予備)</p> <p>24. (予備)</p>
----------------------------	--

科 目 名	人文科学特殊講義 A (古典古代の遺産)	担当者名	古 川 堅 治
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本年度は「ギリシア神話 - ギリシア悲劇を中心に - 」と題し、ギリシア神話のもつ豊かな内容と、その現代にまで通じる普遍性を考える。講義の内容は、タイトルの性格上、ギリシアの歴史・演劇、とりわけ悲劇論（演劇を社会現象ととらえる）そして悲劇作品の鑑賞と分析などに及ぶことになる。</p>		
講 義 概 要	<p>テキストを中心に概説的に進めるが、ギリシアの歴史・文化にも幅広く触れていくつもりである。また、ビデオや写真なども豊富に使い、イメージを豊かにしていくことにも意を用いたい。授業は、アト・ホームな雰囲気で行なうつもりであるが、積極的な意見や感想が提起されることを期待したい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	第一回目の授業時に指示する。	
	参 考 文 献	その都度指示する。	
評 価 方 法	<p>前・後期二回のレポートで評価する。テーマ・枚数等は授業中に指示をする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>主体的・積極的に授業に参加することを希望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 「はじめに」 (ギリシア神話と現代のわれわれの関わり方について考える。)</p> <p>2. 「第一部 演劇文化論」 1. ギリシア演劇とその社会(ギリシアの「ポリス社会」と演劇の関係について考える。)</p> <p>3. 2. ギリシア悲劇の構造(ギリシア悲劇の起源・構造について考える。)</p> <p>4. 3. コレギア(ギリシア演劇上演を支える財政負担について考える。)</p> <p>5. 4. 演劇と政治的弁論(演劇がいかに社会活動の一部であるかを当時の政治弁論との比較から考える。)</p> <p>6. 5. ビデオ(1)古代アテナイ社会とギリシア演劇～『トロイアの女』(映画)</p> <p>7. 「第二部 アテナイ伝説圏の諸神話」 6. ギリシアの神々(ギリシアの神々の系譜について考える。)</p> <p>8. 7. アッティカの諸王(その1)(古代アテナイの神話伝説上の王統について考える。)</p> <p>9. 8. アッティカの諸王(その2)(エレクテウス王とパンアテナイア祭について考える。)</p> <p>10. 9. アッティカの諸王(その3)(アイゲウス王と『メデア』について考える。)</p> <p>11. 10. ビデオ(2)メデアの悲劇～『王女メデア』(舞台公演)</p> <p>12. 11. テセウス王の時代(その1)(テセウス伝説とアテナイの歴史について考える。)</p> <p>13. 12. テセウス王の時代(その2)(テセウス家の悲劇について考える。)</p> <p>14. 13. アテナイの歴史的発展とペルシア戦争(神話と歴史的現実について考える。)</p> <p>15. 「第三部 テーベ伝説圏の代表的神話とアルゴス伝説圏の諸神話」 14. ラブダゴス家の悲劇(オイディプスの悲劇とテーベの歴史について考える。)</p> <p>16. 15. ビデオ(3)オイディプスの悲劇～『アポロンの地獄』(映画)</p> <p>17. 16. アトレウス家の悲劇(その1)(タンタロスとペロプスにまつわる神話について考える。)</p> <p>18. 17. アトレウス家の悲劇(その2)(アトレウスとテュエステス兄弟の争いについて考える。)</p> <p>19. 18. アトレウス家の悲劇(その3)(アガメムノンの運命について考える。)</p> <p>20. 19. その他の諸神話(その1)(アルケステイスをめぐる神話について考える。)</p> <p>21. 20. その他の諸神話(その2)(ペルセウス伝説について考える。)</p> <p>22. 「第四部 ギリシア神話とは何か」 21. 神話と祭祀(神話の伝承関係について考える。)</p> <p>23. 22. ギリシア神話の本質(ギリシア神話とは何かを考える。)</p> <p>24. 「まとめ」(一年間の総括を行なう)</p>
----------------------------	---

科 目 名	人文科学特殊講義 A (西洋美術史)	担当者名	前 川 久美子
-------	--------------------	------	---------

講義の目標	14、5 世紀のイタリアとアルプス以北の絵画作品を中心に、西洋美術の見方を学ぶ。		
講義概要	1～4 週で完結するテーマごとに、スライドを使い講義形式で進める。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	参考文献については授業時間中に指示する。	
評価方法	テスト。		
受講者に対する要望など	授業に出席し、スライドをよく見て具体的に理解してほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 十四世紀前半のイタリア美術 3-6. ジョット作「スクロヴェーニ礼拝堂壁画」 7. ジョットと同時代の画家たち 8. ジョット以後のイタリア絵画 9-10. 十四世紀までの北方絵画 11. イタリア十四世紀絵画の歴史的位置づけ 12. 国際ゴシック様式 13-15. 十四、五世紀の芸術家の立場 16. 十五世紀初頭のイタリア美術 17. マザッチオ作「ブランカッチ礼拝堂壁画」 18. マザッチオと同時代の画家たち 19. 遠近法 20. 十五世紀半ばから後半のイタリア絵画 21. 十五世紀の北方絵画 22. ヴァン・エイク作「ヘントの祭壇画」 23. 偽装のシンボリズム 24. 美術作品に「包含された」鑑賞者 		

科 目 名	政 治 学	担当者名	志 摩 園 子
-------	-------	------	---------

講義の目標	政治学の基本的な概念や政治の構造、仕組みを考え、現社会での政治を理解する上での一つの機会を提供することを目指す。政治においては、人間が主体であるから人間が政治にどのように関わっていけるか。また、国家と個人との関わりも考えてみることで、現代の政治学がもつ課題を検討してみる。		
講義概要	現代社会で大衆の政治に対する無関心が広がっているが、具体的政治事象をとりあげることによって、それぞれの関心を促し、理解を進める手助けとする。参加する各自が、身近な問題や日本の政治の実情、諸外国の政治の実情等から一つ関心のあるテーマを見つけ、一年間それぞれ検討してみることによって、自分達の生活する日本の政治に対しての理解や自分なりの提言を見つけていく。		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	必要に応じて示す。	
評価方法	授業への参加態度、前期・後期のレポート		
受講者に対する要望など	学生の発表の機会を多くもちますので、積極的な関心をもって参加してくれることを求める。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治学とは 2. 政治学とは 3. 政治学と政治 4. 政治学と政治 5. テーマを考えてみる 6. テーマを考えてみる 7. 方法論を考えてみる 8. 方法論を考えてみる 9. 方法論を考えてみる 10. テーマ発表 11. テーマ発表 12. 予備 13. 前期レポートの発表と検討 14. " 15. " 16. " 17. " 18. " 19. " 20. " 21. 方法論の確認 22. 後期レポートに向けての解説 23. 各自検討してきたことからディスカッション 24. ディスカッションとまとめ 		

科 目 名	経 済 学 (独 ・ 英 ・ 仏 学 科 生 の み)	担 当 者 名	西 村 允 克
-------	-------------------------------	---------	---------

講 義 の 目 標	現代経済学の基本的考え方を学習し、現実の経済問題を理解する基礎を確実なものとする ことが、講義の目的である。この目的実現のために、テキストを理解する重要な視点をおぎ ないながら講義は進行する。		
講 義 概 要	前期はミクロ経済学といわれる部分の基礎の学習であり、後期はマクロ経済学といわれる 部分の基礎の学習である。 講義は教科書の順に進むものでなく、教科書を私流に再編成してなされるが、参照ページ はその都度指示する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	幸村千佳良「経済学事始」第3版、多賀出版	
	参 考 文 献	講義時に指示	
評 価 方 法	前期、後期の定期試験の結果。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	毎日の新聞を読んで、現在、日本および世界がいかなる経済問題に直面しているかを把握 しておくこと。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 経済学を学習するために</p> <p>2. 図の読み方 - 経済学のテキストを開けば多くの図表が出てくる。図表には基本的な読み方があるので、経済学学習の前提としてこれを学習する。</p> <p>3. 数式の読み方 - 経済学のテキストでは多くの数式が出てくるので、数式の基本的読み方を学習する。</p> <p>4. 経済問題を考えるために - これまでの講義を前提として、経済問題をどう考え、理解するかの基本を述べる。</p> <p>5. 需要の法則 () - 価格が上がると需要量は減少するといわれるが、このことの意味は何か。</p> <p>6. 需要の法則 () - 無差別曲線、限界代替率、所得効果、代替効果</p> <p>7. 需要の法則 () - 市場需要関数とその変化</p> <p>8. 供給の法則 () - 生産関数</p> <p>9. 供給の法則 () - 総費用関数、平均費用、限界費用</p> <p>10. 供給の法則 () - 供給関数</p> <p>11. 市場均衡 () - なぜ価格はある水準に決まるのか。</p> <p>12. 市場均衡 () - なぜ価格は変化するのか。</p> <p>13. GDP を中心とした国民所得の諸概念 () GDP、GNP、GDE、付加価値額、1人当たりGDP、名目値と実質値</p> <p>14. GDP を中心とした国民所得の諸概念 () 経済成長率 インフレ率</p> <p>15. 消費関数 () 限界消費性向、平均消費性向</p> <p>16. 消費関数 () 貯蓄関数</p> <p>17. 国民所得決定理論 () - 簡単な所得決定モデルを基礎として、現実の経済問題をこのモデルでどう考え、理解するか。</p> <p>18. 国民所得決定理論 () - 簡単な所得決定モデルの拡大、そこで理解できる経済問題。</p> <p>19. 経済政策 () - 財政政策を中心として</p> <p>20. 経済政策 () - 金融政策を中心として</p> <p>21. 経済成長 - 経済成長理論の基本的考え方</p> <p>22. 景気循環 () - 4つの主要な景気循環</p> <p>23. 景気循環 () - 戦後の景気の基準日付を中心として</p> <p>24. まとめ</p>
----------------------------	--

科目名	経済学	担当者名	松本正信
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。 - 経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体からみると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来得れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探してみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間授業計画に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人（消費者）や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</p>	
	参考文献	<p>中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社 伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い、自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努力忘れ給もうな。</p>		
受講者に對する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>つぎの序・終章を含めた12の章を2-3回の講義で進めて行く積もりである。</p> <p>序章（プロローグ）</p> <p>経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系）、人類の経済発展：とりわけ産業革命前後、ならびに経済思想の変遷（アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々）、資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前後との移り変わり）、現代の経済思想。</p> <p>第部 ミクロ経済学（価格分析）</p> <p>1 消費の理論</p> <p>（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財（競争財）と補完財、需要の価格（所得）弾力性、消費者余剰。</p> <p>1章に最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。</p> <p>2 生産の理論</p> <p>（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）</p> <p>生産とは、企業（生産者）行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。</p> <p>3 市場；マーケット（交換の理論）</p> <p>市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能（Parametric function of price）、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）</p> <p>4 競争の問題</p> <p>競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違（短期・長期）、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。</p> <p>5 市場の限界と失敗・欠落</p> <p>市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスはよしとして、ビホアー・サービス（ワイロ）、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税で賄うかどちらが効率的か火を見るより明らか。</p> <p>外部経済・不経済、公共財（公共サービス）、パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。</p> <p>第部 マクロ経済学（所得分析）</p> <p>6 国民所得の分析</p> <p>マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。</p> <p>マクロ的経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドクス、政府部門と外国貿易を加えた乗数理論、国民所得水準と労働雇用水準との関係。</p> <p>7 貨幣・金融市場</p> <p>金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率</p> <p>8 中央銀行の機能と役割：金融政策</p> <p>現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ公定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。</p> <p>9 政府の経済的役割：財政政策</p> <p>政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシー）として考える。</p> <p>その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。</p> <p>政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真、パラドクスなる由縁である。</p> <p>分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファアー曲線、完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持）、フィリップ曲線</p> <p>10 財政・金融政策とヒックス＝ハンセン 総合（IS-LM 曲線）</p> <p>ポリシー・ミックスについて、国民生産物市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再編とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マナリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。</p> <p>終章（エピローグ） 結びにかえて</p> <p>人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費率と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化</p>
----------------------------	---

科 目 名	日本国憲法	担当者名	元 山 健
-------	-------	------	-------

講義の目標	日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）を理解すること。それを通じて一人一人の人間がかけがえのない存在であること、そうした自律した個人が連帯しあって良き人生を過ごしていくために、お互いに合意した「人間性の実現のための規範」が憲法であることを理解すること。そして核時代の現代では、民主主義も人権も平和なればこそ活かされることを理解すること。外国学部学生のために、諸外国とくにイギリスとの比較を交えて講義します。また教職・公務員志望の人のことも考えて講義します。		
講義概要	前期は憲法の総論と統治機構（国会、内閣、裁判所）について学習します。まず憲法とはどういう法かという話から始めます。次に日本の憲法の歴史を幕末・維新から現在まで学習します。そして統治の制度と作用について具体的に学習します。ここではいずれも、日本を理解するためにイギリスの制度を比較の対象にとりあげながら学習を進めます。後期は平和主義と人権について学習します。ここでは理論だけでなく、具体的な事件やイギリスの例なども素材にして勉強します。		
使用教材	テキスト	元山健・キース・ユーイング共著『イギリス憲法概説』（法律文化社刊）	
	参考文献	『小六法』（三省堂刊）	
評価方法	前期と後期のテスト。小テストも2度おこないます。毎回出欠をとり、成績評価に反映させます。		
受講者に対する要望など	遅刻、欠席をしないで、自覚的に授業に臨んでください。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開講にあたって 2. 憲法とは何か 3. 近代憲法の歴史 - イギリスを中心に - 4. 日本憲法史（その1）明治憲法史 5. 日本憲法史（その2）戦後憲法史 6. 国民主権と象徴天皇制 7. 議会制民主主義の歴史と理論 8. 選挙と政党 9. 国会 10. 内閣 11. 司法 12. 地方自治 13. 基本的人権：総論 14. 個人の尊重と幸福追求権 15. 法の下での平等 16. 精神的自由権（その1）総論と思想・良心の自由 17. 精神的自由権（その2）信教の自由 18. 精神的自由権（その3）表現の自由の原理 19. 精神的自由権（その4）表現の自由の諸問題 20. 精神的自由権（その5）学問の自由 21. 社会的経済的権利（その1）経済的自由権 22. 社会的経済的権利（その2）生存権 23. 社会的経済的権利（その3）労働と教育 24. 人身の自由と刑事手続き 		

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の問題は18世紀に始まった産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そして引き続いて今世紀に起こる脱産業化、さらにこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義ではこのような視点から、現代のわれわれの日常生活に見られる諸変化と、そこに起こる様々な社会問題とを考える。</p>		
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかで起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配る。	
	参考文献	随時紹介	
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ 2. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 3. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 4. 古典的社会学者 F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウェーバーなどにおける近代社会の理解 5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとらえ方 7. 現代の職業構造の分析 8. 雇用社会と職業的キャリア 9. 産業社会における知識の性格と教育 10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会 11. 社会的不平等の諸次元 12. 不平等の構造化 13. 社会移動の現実 14. 日本の階層社会と社会移動 15. 管理社会の中核としての官僚制 16. 近代的経営の社会構造 17. 日本的組織構造 18. 都市化と地域社会 19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化 20. 家族のライフサイクルの変化 21. 高齢化社会の人口学的および社会学的分析 22. 高齢化社会における社会問題 23. 生活の質を考える 24. まとめ
----------------------------	---

科 目 名	国際関係論	担当者名	阿 部 純 一
-------	-------	------	---------

講義の目標	<p>第1次世界大戦の経験から生まれた国際関係論は、その契機が示すように「戦争と平和」を強く意識した学問分野である。講義では、第2次大戦後の国際関係を、米ソの冷戦を軸に解説するとともに、冷戦後の国際関係の中で中心的重要性をもつ東アジアの国際関係の現状把握に努める。日米中ロという大国の利害が交錯し、かつASEANという地域協力体やAPECという多国間経済協力機構が存在するこの地域は、大国間外交の場であるとともに多国間外交の場でもあり、また朝鮮半島や台湾海峡、南シナ海など潜在的紛争地域を内包している。この地域の動向をフォローすることによって、形成途上にある新たな国際秩序の方向を明らかにしていく。</p>		
講義概要	<p>日本の国際化が叫ばれ、国際関係論への関心が高まっていることは、改めて指摘するまでもない。しかし、わが国にとって最も重要であるはずの東アジアの国際環境の現状について関心をもつ人はそれほど多くないのが現実である。東アジアには、わが国をはじめ、アメリカ、中国さらにはロシア、インドといった大国の利害が交錯しており、この地域の帰趨が世界全体の安定、平和と繁栄に直結している。講義では、東アジア全体の歴史的展開を第2次大戦後からポスト冷戦の現在まで整理し、さらに地域各国の状況を個別に検討していく。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	必要に応じて紹介する	
評価方法	<p>前期：ブックレポート 後期：論述筆記試験（前期レポート提出者のみ受験可）</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期講義の進め方についての説明 2. 国際関係論の成立契機を問題意識 3. 東アジアを中心とした現代国際関係史(1) 新中国成立と朝鮮戦争 4. 東アジアを中心とした現代国際関係史(2) ベトナム戦争と米中接近 5. 東アジアを中心とした現代国際関係史(3) 中ソ和解とポスト冷戦 6. 朝鮮半島の過去と現在 北朝鮮(1) 金日成の権力掌握過程 7. 朝鮮半島の過去と現在 北朝鮮(2) 「主体」の国の政治文化 8. 朝鮮半島の過去と現在 韓国(1) 開発独裁の成果と限界 9. 朝鮮半島の過去と現在 韓国(2) 「儒教文化」と政権交代の現実 10. 中国周辺の国際主体 香港(1) 植民地・香港の成立と発展 11. 中国周辺の国際主体 香港(2) 香港「返還」をめぐる政治過程 12. (予備日) 13. 後期講義の進め方についての説明 14. 中国周辺の国際主体 台湾(1) 日本の「台湾」から国民党の「台湾」へ 15. 中国周辺の国際主体 台湾(2) 民主化の進展と「独立」をめぐる展望 16. 21世紀の超大国・中国(1) 建国～「大躍進」政策 17. 21世紀の超大国・中国(2) 文化大革命 18. 21世紀の超大国・中国(3) 毛沢東の死と鄧小平の台頭 19. 21世紀の超大国・中国(4) 「改革・開放」路線の展開 20. 21世紀の超大国・中国(5) 江沢民の時代へ 21. 結集する東南アジア ASEANの成立と発展 22. アジア太平洋の時代 APECの成立と発展 23. 講義全体のまとめ 24. (予備日)
----------------------------	--

科 目 名	文化人類学	担当者名	井 上 兼 行
-------	-------	------	---------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。学問の歴史、事例を通じてそのおおよそを知る。		
講義概要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特の研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	出席はとらないし、レポート提出もない。後期の定期試験期間中に、一年間話した内容についての試験を行い、それだけで評価する。		
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまでも暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭に置いてほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序 どんな学問か。 2. 学問形成の歴史 (1) スペイン人のインディオ観 3. " (2) " 4. " (3) 16C 後半 ~ 18C 後半の西欧人の未開人観 5. " (4) 18C 後半 ~ 19C 後半の西欧人の未開人観 6. 19C 後半 文化人類学の誕生 (1)"文化" の概念 7. " (2)"文化" の概念 8. " (3)"進化" の概念 9. 19C 末 ~ 20C 初 現代の文化人類学へ 10. 研究方法としての " 実地調査 " (1) 11. " (2) 12. これ以降は事例研究になる。テーマは今のところ未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (教育法)	担当者名	市 川 須美子
-------	--------------------	------	---------

講義の目標	戦後教育法制の特徴とその変遷、教育法の概念とその機能的種別、ならびに各種の教育人権など、教育法学の基礎理論の理解の上に、1980 年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に教育法の現代的問題点を分析し、教育法の体系的理解を目標とする。		
講義概要	前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。 後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を体罰裁判、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分類して、論点と課題を検討する。		
使用教材	テキスト	『教育小六法』学陽書房。テキストは必要不可欠ではありませんが、教育関係法令集は必携です。	
	参考文献	兼子・神田編『ホーンブック教育法』北樹出版 1995 年 市川・安達・青木編『教育法学と子どもの人権』三省堂 1998 年	
評価方法	前期 レポート (不提出の場合は後期受験不可) 後期 試験 (事前に問題を発表する) 小テスト 時々の講義テーマに応じて		
受講者に対する要望など	六法にあまり魅力を感じていない法学部生には、身近な問題から法学的方法を学ぶ機会です。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法とは何か？ 教育法の機能的三種別、教育条理 2. 戦後教育法制の基本的特徴 戦前法制と比較して 3. 教育法における教育人権と一般人権、教育権力 4. 教師の教育権 (1) 5. 教師の教育権 (2) 6. 親の教育権 (1) 7. 親の教育権 (2) 8. 子どもの学習権 (1) 9. 子どもの学習権 (2) 10. 国家の教育権と国民の教育の自由 11. 教育の地方自治 教育委員会準公選制 12. 前期まとめ 13. 子どもの人権裁判総説 14. 体罰裁判 (1) 特徴と論点 15. 体罰裁判 (2) 体罰判例の展開と動向 16. いじめ裁判 (1) いわきいじめ自殺事件、中野富士見中事件 17. いじめ裁判 (2) その後のいじめ判例 18. 校則裁判 (1) 中学校校則裁判 19. 校則裁判 (2) バイク退学事件・パーマ退学事件 20. 学校教育措置訴訟 (1) 特徴と論点、内申書裁判 21. 学校教育措置訴訟 (2) エホバの証人生徒退学事件 22. 学校教育措置訴訟 (3) 障害生徒入学不許可事件・特殊学級訴訟 23. 教育情報裁判 町田いじめ作文開示請求訴訟 24. まとめ 子どもの権利条約と教育法 		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (近代市民社会像の形成と批判)	担当者名	市 川 達 人
-------	----------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	私たちの政治や経済に関する見方、考え方を支配している近代的社会観の生成を、その誕生の時点に溯って理解することを目的とする。		
講 義 概 要	<p>西欧近代の社会認識の発展史がテーマである。ルネッサンスから始めて、宗教改革、イギリス市民革命、フランス啓蒙期を經由し 19 世紀の社会主義思想までをたどることになる。</p> <p>近代という時代への懐疑が深まっている今、その近代を西欧の社会理論はどのように理解してきたのかを明らかにすることが必要である。それぞれの時代を代表する思想家にスポットを当てながら、自然権、所有、権力、平等、自由、労働などの概念に注意を払っていく。揺らん期の経済学や政治学の思想的哲学的基礎を明らかにすることとなる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「社会思想の歴史」渋谷 一郎編 八千代出版	
	参 考 文 献	講義中に指示。	
評 価 方 法	学年末の試験によって評価。場合によっては夏休みにレポートを要求することもある。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	なし		

年
間
授
業
計
画

1. 年間予定。講義の目的と課題。講師の問題意識
2. 思想史の方法。社会とは？。社会像の歴史的類型などについて。
3. 近代市民社会とは（西欧的社会観の原形と展開）
4. ルネッサンスと都市
5. マキャベリと『君主論』
6. ユートピア思想とは
7. トマス・モアと『ユートピア』
8. 中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派
9. ルターの改革運動と神学
10. ルターの経済思想
11. カルヴィニズムと近代化
12. 前期のまとめ
13. 自然法思想の歴史
14. ホッブズの人間観と自然権思想
15. ホッブズの国家論
16. ロックの市民社会論
17. ロックの所有権理論とリベラリズム
18. フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
19. ルソーの啓蒙批判と社会批判
20. アダム・スミスと経済的自由主義
21. 社会主義思想の諸潮流
22. マルクスの思想（１）
23. マルクスの思想（２）
24. 後期のまとめ

科 目 名	社会科学特殊講義 A (文化人類学特殊講義)	担当者名	井 上 兼 行
-------	------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>“異なった文化”をもつ人々とは、事物についてわれわれとは“異なった認識”をする人々、ということである。異文化の完全な理解などありえないが、われわれの認識の仕方をはぎとりながら、異文化に迫ることは可能である。文化人類学の立場からのその成果の一端を知る。</p>		
講 義 概 要	<p>文化人類学における未開社会研究の成果を基礎に、いくつかのテーマを取り上げ、いずれも数回ずつ使って、“異なった文化”をもつ人々の認識の仕方について述べてゆく。年間講義予定については第一回の講義においてその大枠を述べる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評 価 方 法	試験か、レポート、あるいはその両方、と考えているが、登録者の数によって決める。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>自由選択科目だから条件にすることはできないが、2年生以上、または文化人類学の単位を取っているか、興味をもって何かを読んだことがある人に登録してほしい。私自身のやり方の問題もあるかもしれないが、全く知識のない1年生には、わからず、興味ももてずやめてしまうものが数多く出ている。</p>		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (広告論)	担当者名	梶 山 皓
-------	--------------------	------	-------

講 義 の 目 標	現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。教室の関係でクラスが月曜日と金曜日に分かれています、内容は基本的に同じですので、どちらを選択されても結構です。		
講 義 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。 2. 社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告現象を考えます。 3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。 5. 広告を通して、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 		
使 用 教 材	テキスト	梶山皓著『広告入門』日経文庫。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> * 八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。 * 『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。 * W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1997 * S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994. 	
評 価 方 法	試験は通常前・後期に行いますが、後期だけの年もあります。問題は5題で、講義内容と教科書から出題します。随時出席をとって評価の参考にします。なお試験時の「教科書持ち込み」はありません。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	できるだけ2年生か3年生で履修して下さい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction) 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事のポジティブな面を的確にとらえる習慣が身に付く。 2. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かせる」「注意を引く」という意味である。 3. 広告の定義 (Ad. Definition) 広告という言葉は、しばしば PR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。 4. 広告の機能 (Role of Ad.) 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。 5. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。 6. 広告の種類 (Ad. Classification) 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。 7. 広告主 (Advertisers) アメリカの広告費は邦貨で年間約 20 兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界 2 位で約 6 兆円である。 8. 広告主 (Advertisers) 広告主は、広告活動を効果的に行うために広告活動を策定する。また企業内に広告組織を編成して実施に当たる。 9. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。 10. 広告会社 (Ad. Agency) 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源の多くは、媒体手数料という古い習慣に基づいている。 11. 広告メディア (Ad. Media) 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。 12. 広告メディア (Ad. Media) マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向 CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。 13. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles) マーケティングは消費者志向の概念である。最近は環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。 14. 戦略企業計画 (Strategic Planning) 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。 15. マーケティング・ミクス (Marketing Mix) 企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。 16. プロモーション・ミクス (Promotion Mix) 製品の販売は、広告、セールスマン、SP (セールスプロモーション) PR などの力を合体化させて行う。 17. コミュニケーションの原理 (Communication) 広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。 18. コミュニケーションの原理 (Communication) 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。 19. DAGMAR の理論 (DAGMAR) 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。 20. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) 人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。 21. 広告計画 (Ad. Planning) 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。 22. 広告計画 (Ad. Planning) 広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。 23. 広告規制 (Ad. Regulation) 広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。 24. 広告の将来 (Ad. Future) 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
----------------------------	---

科 目 名	社会科学特殊講義 A (マスコミュニケーション論)5	担当者名	佐々木 輝 美
-------	----------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、これらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>(前期)プリント (後期)佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房、1996</p>	
	参 考 文 献	<p>・岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版、1992 ・H.J.アイゼンク他著 岩脇三良訳 『性・暴力・メディア』新曜社、1982</p>	
評 価 方 法	<p>定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	1. マス・コミュニケーションとは	
	2. コミュニケーションについての基礎知識(1) - プロセスの概念について -	
	3. コミュニケーションについての基礎知識(2) - 意味はどこに存在するか? -	
	4. コミュニケーションについての基礎知識(3) - メディア接触について -	
	5. マス・コミュニケーションのモデルについて(1) - モデルの長所と短所 -	
	6. マス・コミュニケーションのモデルについて(2) - マス・コミュニケーションの要素 -	
	7. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)
	8. マスコミ効果の概念について(1) - 効果とは -	
	9. マスコミ効果の概念について(2) - 順機能と逆機能 -	(レポート提出締切り)
	10. マス・コミュニケーションと教育(1)	
	11. マス・コミュニケーションと教育(2)	
	12. 前期のまとめ (後期)	
	1. マスコミの影響研究について(1) - 弾丸理論 -	
	2. マスコミの影響研究について(2) - 限定効果モデル -	
	3. マスコミの影響研究について(3) - 適度効果モデルから強力効果モデルへ -	
	4. メディア暴力研究について(1) - 研究の背景 -	
	5. メディア暴力研究について(2) - カタルシス理論 -	
	6. メディア暴力研究について(3) - 観察学習理論 -	
	7. メディア暴力研究について(4) - 脱感作理論 -	
	8. メディア暴力研究について(5) - カルティベーション理論 -	
	9. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)
	10. メディア暴力研究について(6) - 4理論のまとめ(暴力番組の類型化) -	
	11. メディア暴力研究について(7) - メディア暴力への対応 -	(レポート提出締切り)
	12. 後期のまとめ	

科 目 名	社会科学特殊講義 A (日本経済論) (独・英・仏学科生のみ)	担当者名	波 形 昭 一
-------	------------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>「日本経済論」と銘打った書物は巷に氾濫しているが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解にすぎるからである。「日本経済論」としては当然それでよいのだが、どうも学生諸君には不向きようだ。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいためか、現状分析の意味そのものがよく理解できないでいるようだ。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目指したい。</p>		
講 義 概 要	<p>【前期】戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後復興から高度経済成長への発展過程を論ずる。</p> <p>【後期】ドル・ショック、オイル・ショックを契機に高度経済成長のシステムが崩れ、新たなシステム再構築を迫られる現代日本経済の諸問題と論ずる。詳細は、次頁の年間講義予定を参照。</p>		
使 用 教 材	テキスト	竹内宏著『昭和経済史』(筑摩書房、1988年)をテキストとし、同時に統計資料等のプリントを配布して授業を進める。	
	参 考 文 献	<p>中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986年</p> <p>野口悠紀雄著『1940年体制』東洋経済新報社、1995年</p> <p>中谷 巖著『日本経済の歴史的転換』東洋経済新報社、1996年</p> <p>原田 泰著『1970年体制の終焉』東洋経済新報社、1998年</p> <p>橋本寿朗ほか著『現代日本経済』有斐閣、1998年</p>	
評 価 方 法	前期・後期とも試験をおこない、総合点で評価する。したがって、いずれかの試験を受け損じた場合、単位の取得はほとんど不可能と心得ておいてほしい。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義中の「私語」と「飲食」は固く禁ずる。大学の教室内は映画館ではない。		

1. 日本経済の近代化と産業・貿易構造
2. 日本経済の近代化と金本位制の成立
3. 恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ
4. 井上財政から高橋財政への転換
5. 高橋財政の経済学的意味
6. 忍び寄る戦時経済体制
7. 戦時統制経済の実態
8. GHQ の対日占領政策と4大経済改革
9. 戦後復興を目指す生産力拡大策
10. ドッジ・ラインとシャウブ勧告
11. 戦後復興からの脱皮、高度成長の到来
12. 高度成長の構造
13. 高度成長の精神的土台
14. 大衆消費社会の意味
15. ニクソン・ショックとオイル・ショック
16. プラザ合意と対外経済構造の激変
17. バブル景気の構造
18. バブル崩壊と不況の長期化
19. 日本経済の諸問題(1) 日本型経済システムの動揺
20. 日本経済の諸問題(2) 日本型産業システムの動揺
21. 日本経済の諸問題(3) 日本型金融システムの動揺
22. 日本経済の諸問題(4) 日本型流通システムの動揺
23. 日本経済の諸問題(5) 1940年体制論と1970年体制論
24. まとめ

科 目 名	社会科学特殊講義 A (経済理論の基礎 - マクロ理論を中心として)	担当者名	西 村 允 克
-------	---------------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>市場経済を理解するための理論的枠組みを学習することによって、現実の経済問題を正しく理解する力を養うことが、この講義の目的である。経済現象は孤立してあるものではなく、他の経済現象と複雑な複合関係にあることをまず理解してもらいたい。講義では、経済現象を一つ一つ取り上げていくが、それは経済現象間の複雑な複合関係を解くための1つの方法であって、必ずそれは結合させて次の段階へ進むから、絶えず講義で学習した内容を復習しながら学習しなければならない。</p>		
講 義 概 要	<p>現実経済は極めて複雑な組織である。複雑なシステムを理解するためには、システムをそれを構成する基本的要素(供給者と需要者、家計、企業、政府)と基本的要素間の経済関係によって、理論的分析が可能となるモデルに再構築しなければならない。前期では、経済学の最も基礎的なマイクロモデルとマクロモデルを学習し、経済理論の基礎的な考え方を理解し、後期の学習の基礎をかためる。前期の前半は経済分析ために必要な基礎知識を学び、後半のモデル分析理解の土台となる学習であるから、常に先に進んでももどって再学習しなければならない。後期は前期のモデル分析をより現実に近いものに拡張し、様々な現実経済問題の理解に進む。</p>		
使 用 教 材	テキスト	[新版]「テキストブック現代経済学」吉岡恒明・小口登良編 多賀出版	
	参 考 文 献	講義時に指示	
評 価 方 法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題についての採点基準は講義において注意した点をよく理解して記述されているかである。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>日々の新聞の経済面の見出しに注意し、経済の動きについての常識的理解を深める努力をしてほしい。講義は常に現実の経済の動きに対応している。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 経済学を学ぶための基礎 () 基礎用語 経済主体、経済資源 経済活動 財とサービス 実物資産と金融資産 価格</p> <p>2. 経済学を学ぶための基礎 () 分析ツール 関数と曲線 図の読み方 限界と平均 関数の 変化と曲線のシフト 変数 (独立変数と従属変数)</p> <p>3. 経済学を学ぶための基礎 () 市場モデルの作り方、市場均衡と市場不均衡 短期と長期 (経済与件)</p> <p>4. 国民経済計算 () 付加価値額 国内総生産 国内総支出 グロスとネット 国民 1 人 当たり国内総生産</p> <p>5. 国民経済計算 () 物価指数 (デフレーター -) 名目値と実質値 経済成長率</p> <p>6. 生産関数と総費用関数 産出量と投入量 限界生産力 完全雇用と不完全雇用 等生産量曲線 総費用関数 固定費用と可変費用 限界費用と可変費用</p> <p>7. 消費関数 限界消費性向と限界貯蓄性向 平均消費性向と平均貯蓄性向</p> <p>8. 価格決定理論 () 需要関数と供給関数 市場均衡の安定分析</p> <p>9. 価格決定理論 () なぜ価格は変化するのか</p> <p>10. 国民所得決定理論 () 簡単なモデル 貿易のない場合の国民所得決定理論 財政政策の国 民所得に及ぼす効果</p> <p>11. 国民所得決定理論 () 貿易を含む場合の国民所得決定理論</p> <p>12. 前期のまとめ</p> <p>13. 貨幣市場の問題 マネーサプライとハイパワードマネー 金融政策 (公定割引歩合 公開市場 操作、予金準備率) 貨幣数量説</p> <p>14. 貨幣需要について 取引動機による貨幣需要と投機的動機による貨幣需要</p> <p>15. IS = LM 分析 () 国民所得と利子率の同時決定理論 IS 曲線と LM 曲線の導出とそ の意味</p> <p>16. IS = LM 分析 () 財政政策は国民所得と利子率をどのように変化させるか 金融政策は国 民所得と利子率をどのように変化させるか</p> <p>17. IS = LM 分析 () 安定分析、現実経済への応用</p> <p>18. 景気変動 () キッチン波動 ジュグラー波動 コンドラチェフ波動 技術革新 独立投資 と従属投資</p> <p>19. 景気変動 () 資本稼働率 バブルと平成不況</p> <p>20. 経済成長論 () (基本概念) 投資の生産力効果 潜在的成長率と現実成長率</p> <p>21. 経済成長論 () なぜ日本は戦後このような高度成長を実現したのか、基本概念を用いなが ら説明する。</p> <p>22. 国際収支 経常収支 (貿易収支 貿易外収支 移転収支) と資本収支、変動相場制 交易条件</p> <p>23. インフレーション フィリップス曲線</p> <p>24. まとめと平成 11 年の日本経済の諸問題</p>
----------------------------	---

科 目 名	社会科学特殊講義 A (国際法)	担当者名	廣 部 和 也
-------	------------------	------	---------

講義の目標	国際社会の法である国際法の基礎的知識及び国際社会において法がどのように機能しているかを学ぶ。		
講義概要			
使用教材	テキスト	(1) 最初の講義で指示する。 (2) 解説条件集(石末泰雄・小田滋編)(三省堂)	
	参考文献		
評価方法	試験による。(中間試験を行う予定である)		
受講者に対する要望など	関心を持って学ぶこと		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般に関する注意。 <ul style="list-style-type: none"> ・国際法の意義 ・国際法主体(国家、国際組織、個人) 2. 国際法の法源(国際法はどのような形で存在するか、それは、また、どのように形成されるか。) 3. 国際法の歴史(国際法はどのように成立し、どのように発展してきたか。) 4. 国際法と国内法(両者の法はどのように異なり、どのような関係にあるのか。) 5. 国家の成立(国際法上、国家とはどのように定義され、どのようにして国際法上の存在となるのか。) 6. 国家の基本権(国際法上、国家はどのような権利を持つのか。特にその基本となる主権を中心にその権利がどう行使されるか。) 7. 国際社会の組織化1(国際組織とは何か。その形成過程、どのような国際組織があるか。) 8. 国際社会の組織化2(国際連合を基本に表決制度や決議の効力がどのようにになっているのか。) 9. 国家領域1(国家領域とはどのように構成され、国家はどのように取得するか。) 10. 国家領域2(領海制度と無害通航権) 11. 公海制度と船舶の通航(公海、船舶の地位、海域その他の船舶の取扱い) 12. 大陸棚、排他的経済水域(大陸棚や排他的経済水域とはどのようなものか。) 13. 深海底(深海底とその資源の法的地位及び開発) 14. 航空機の地位(航空機の地位及び国際的飛行はどのように行なわれるか。) 15. 宇宙法(宇宙の法的地位、宇宙開発、人工衛星の地位) 16. 個人の地位(国籍、外交保護権、など) 17. 人権の国際的保護(世界人権規約や国際人権規約などによる基本的人権の保護とその保障措置) 18. 国際犯罪(個人の国際犯罪とその処罰、犯罪人引渡し制度) 19. 外交使節(外交官及び領事の地位、特権免除) 20. 国家責任(国際法上の違法行為と国家の責任、損害賠償などの責任の解除) 21. 国際環境の保護(人間環境宣言を初めとする国際的環境問題の法的側面) 22. 国際紛争の平和的解決(国際紛争の解決方法にはどのような方法あるのか) 23. 国際裁判(国際仲裁裁判と国際司法裁判) 24. 安全保障制度(国連による集団安全保障体制) 		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (イスラム(原理)主義過激思想)	担当者名	藤 原 和 彦
-------	--------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	いま、中東世界では、「イスラム原理主義」と呼ばれる宗教・政治運動が目立つ。イラン、アフガニスタン、スーダンでは、これら原理主義信奉者が政権を構成し、アルジェリア、エジプト、サウジアラビア、バーレーンなどでは、原理主義勢力が政権打倒を狙って闘争を続けている。講義ではエジプトの原理主義組織「ムスリム同胞団」の歴史を中心に、原理主義の理解を目指す。		
講 義 概 要	毎時間の講義は ムスリム同胞団に関する英文テキストの読解 原理主義運動を中心とした中東政治情勢の時事解説 ビデオによる中東各国情勢の紹介の3部立てとする。 に関しては、前期は、ムスリム同胞団が誕生したエジプトのナセル時代の政治・社会状況、後期は、ムスリム同胞団の歴史及び同胞団最大分派の「イスラム集団」を取り上げる。		
使 用 教 材	テキスト	とくに指定しないが『現代用語の基礎知識』(自由国民社)の「国際情勢・中東」の「イスラムの諸相」を奨める。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・立花 亮 『イスラム主義の真実』(勁草書房) 1996 ・宮田 律 『イスラム政治運動』(日本経済新聞社) 1996 ・立山 良司 『中東和平の行方』(中央公論社) 1995 	
評 価 方 法	後期提出のレポートによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	とくになし。		

1. [イントロダクション]イスラム教とユダヤ教、キリスト教との関係。
イスラム教の預言者ムハンマドの生涯など。
2. 中東の言語についての概説。アラビア語とヘブライ語、トルコ語との関係など。
3. 英文テキスト「エジプト第2代ナセル大統領」の読解。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
4. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
5. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
6. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
7. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
8. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
9. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
10. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
11. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
12. 英文テキスト「ナセル」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
13. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
14. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
15. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
16. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
17. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
18. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
19. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
20. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
21. 英文テキスト「ムスリム同胞団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
22. 英文テキスト「イスラム集団」の読解。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。
23. 英文テキスト「イスラム集団」の読解続き。及び中東の時事問題解説。及びビデオによる中東各国紹介。

科 目 名	社会科学特殊講義 A (国際貿易と国際収支調整) (独・英・仏学科生のみ)	担当者名	益 山 光 央
-------	--	------	---------

講 義 の 目 標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講 義 概 要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は会報経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使 用 教 材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参 考 文 献	渡辺太郎 『国際経済 (第四版)』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評 価 方 法			
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	まじめに勉強してほしい。		

年
間
授
業
計
画

1. 講義のアウトライン
2. リカード的奉易理論
3. リカード的奉易理論
4. ヘクシャーオリーン定理
5. ヘクシャーオリーン定理
6. リブチンスキー定理
7. ストルパーサミュエルソン定理
8. 関税
9. 関税
10. 国際生産要素移動
11. 国際生産要素移動
12. まとめ
13. GNP と GDP
14. 固定収支表
15. 固定相場制下の所得決定
16. 固定相場制下の所得決定
17. 変動相場制下の所得決定
18. 固定相場制下の所得決定
19. 開放経済上の金融政策
20. 開放経済上の金融政策
21. 開放経済上の財政政策
22. 開放経済上の財政政策
23. ポリシーミックス
24. まとめ

科 目 名	社会科学特殊講義 A (民法概論)	担当者名	松 嶋 由紀子
-------	-------------------	------	---------

講義の目標	本年度は特に、家族の中で、日常起こっている様々な問題について、現在の民法(特に第四編、第五編)がどのように対応し、解決をはかろうとしているかを、検討する。客観的な評価や判断が下せるように、リーガルマインドを養成する。		
講義概要	市民社会の基本法としての民法の仕組みとその実際を裁判例や実例を挙げながら平易に講義し、一緒に考えたい。なお、家族法を中心とするが、不法行為や財産法等についても関連させながら説明を加えたいと思っている。		
使用教材	テキスト	野田愛子著『現代家族法【夫婦・親子】』日本評論社	
	参考文献		
評価方法	筆記試験または研究レポート		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民法としての民法の基本原則と人間・家族 2. 民法の歴史と民法典のしくみ 3. 民法の中の財産法と家族法 4. 市民紛争と裁判機関(日本の裁判制度、特に家庭裁判所と調停) 5. 家族法の特徴(財産法との原理の違い) 6. 家族法と戸籍 7. 婚姻(婚姻の成立、無効と取消し) 8. 婚姻の効力 9. 婚約と内縁 10. 婚姻の解消(離婚制度の沿革) 11. 離婚(協議離婚・調停離婚・審判離婚・裁判離婚) 12. 離婚の効果 13. 親子(実親子関係) 14. 養子(養子制度、普通養子、特別養子) 15. 親権(親権の内容、利益相反行為、親権の喪失) 16. 後見・保佐 17. 成年後見制度 18. 扶養(特に高齢者の扶養と介護) 19. 相続法概説 20. 相続人と相続分・相続財産 21. 遺産分割の手続きと実際 22. 遺言 23. 遺留分 24. 家族法改正の動き 		

科 目 名	社会科学特殊講義 A (社会思想史)	担当者名	松 丸 壽 雄
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	歴史観、社会観をみずからの判断のもとで形成することができるように、批判的なものの見方、考え方を身につけることを目標とする。		
講 義 概 要	それぞれの時代の社会には、歴史的状況、文化的背景などにより、異なったものの考え方が生じる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、時代の単なる風潮として表層的な現象にとどまることもある。これらの現象を掘り下げ、社会に対する思想とその底にある自我意識の形成を西洋中世から近代にかけての魔女裁判と錬金術思想において分析する。これを日本の江戸時代から近代にかけての「おかげまいり」や舶来崇拜と比較し、日本人の社会思想と自我意識を検討する。		
使 用 教 材	テキスト	なし。	
	参 考 文 献	講義中に指示。	
評 価 方 法	最低年2回のレポートと授業への貢献度（ディスカッション時の積極性）により評価。受講生が多い場合には、筆記試験も考え得る。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	他人のレポートを写したり、あるいは本を写しただけのレポートもある。これは評価に値しない。調べたことをもとに自分で考えてレポートを作成してほしい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明。 2. 異端審問制度成立以前のヨーロッパ社会。 3. 異端審問制度の成立。 4. 異端審問制度の変質。 5. 異端審問から魔女裁判へ。 6. 異端者と魔女 7. 映画「バラの名前」の鑑賞 1。 8. 映画「バラの名前」の鑑賞 2 と映画中の中世的諸現象の説明。 9. ヨーロッパの中世の精神的・社会的状況と魔女裁判の位置づけ。 10. 魔女裁判の終焉とヨーロッパにおける自我意識の変遷。 11. 現代と魔女裁判。 12. できれば、ディスカッション。 13. 錬金術の歴史。古代からアレクサンドリア文化まで。 14. アラブ世界における錬金術思想とギリシア哲学。 15. ヨーロッパ中世における錬金術思想。 16. 錬金術と予言と近代科学・医学。 17. 錬金術思想における自我意識とキリスト教の精神的・社会的状況。 18. 江戸時代における宗教的熱狂と社会状況。 19. 明治時代における開化思想と社会観。 20. 明治時代の開化思想の文化的・精神史的背景。 21. 開化思想に見られる自我意識と社会意識。 22. 江戸・明治時代における芸術作品に見られる世界観と自我意識。 23. ヨーロッパ中世における芸術作品に見られる世界観と自我意識。 24. 現代日本における自我意識についてのディスカッション。
----------------------------	---

科 目 名	社会科学特殊講義 A (中東政治)	担当者名	水 口 章
-------	-------------------	------	-------

講 義 の 目 標	石油、戦争、ピラミッドのイメージで取り上げられる中東地域。そこはギリシア文明の「知」を継承し、第1次世界大戦まで、世界史の主流となる地域であった。本講義では、近代化、国際化が進む中で同地域がどのように変化しつつあるかを見ることで、今後の国際関係を考える一助としたい。		
講 義 概 要	前期を通じ、中東地域の宗教、民族、歴史の概略を知ってもらい、後期では戦後のアメリカの対中東外交を通じ、中東地域でおきた各現象を考えてみたい。1回ごとの授業では、社会人として実務に就く場を想定して、国際情報を分析する視点、コメント文を纏め上げる力を育成させたい。		
使 用 教 材	テキスト	1回ごとにプリントを使用	
	参考文献	「アメリカと中東」中岡三益 著、中東調査会 「概略イスラーム史」板垣雄三、佐藤次高 編、有斐閣選書 「イスラームを学ぶ人のために」山内昌之、大塚和夫 編、世界思想社 「アラブの目覚め」G.アントニウス著、木村申二 訳、第三書館 「戦後のアメリカ外交の軌跡」花井等、浅川公紀 編著、勁草書房	
評 価 方 法	出席点を1回2点とします。残りは、前後期に各1回レポートを提出してもらいます(1回のレポートは30点を満点とします)。これらの総合点で評価します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業では時事問題をディスカッションしたり、シミュレーションしたりしたいと考えています。国際ニュースを十分把握して出席してください。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中東地域概念の説明 2. 中東と宗教(1): キリスト教、ユダヤ教の概説 3. 中東と宗教(2): イスラムの概略 4. 中東と宗教(3): イスラムの日常生活 5. 中東と政治(1): 中東地域の歴史概説 6. 中東と政治(2): 民族問題 7. 中東と政治(3): イスラム統治概念 8. 中東と近代化について(1): イスラム改革思想 9. 中東と近代化について(2): 国際経済システム、地中海世界から大西洋世界 10. 中東と近代化について(3): 民族意識の自覚と政治運動 11. 近現代の中東地域(1): オスマン・トルコの崩壊とアラブ諸国 12. 近現代の中東地域(2): 第1次世界大戦と第2次世界大戦間の中東 13. 戦後の中東地域(1): トルーマン政権の中東政策 - パレスチナ問題を中心に - 14. 戦後の中東地域(2): アイゼンハワー政権の中東政策 - スエズ運河国有化とスエズ戦争 - 15. 戦後の中東地域(3): ケネディー政権の中東政策 - イエメン危機をナーセル主義拡散の危機 - 16. 戦後の中東地域(4): ジョンソン政権の中東政策 - 第3次中東戦争 - 17. 戦後の中東地域(5): ニクソン政権の中東政策 - ヨルダン内政と第4次中東戦争 - 18. 戦後の中東地域(6): フォード政権の中東政策: レバノン内戦 19. 戦後の中東地域(7): カーター政権の中東政策() - キャンプ・デービッド合意 - 20. 戦後の中東地域(8): カーター政権の中東政策() - イラン革命・アフガニスタンへのソ連侵攻 - 21. 戦後の中東地域(9): レーガン政権の中東政策() - イラン・イラク戦争、イラン・コントラ事件 - 22. 戦後の中東地域(10): レーガン政権の中東政策() - レバノン内戦終結とインティファダー - 23. 戦後の中東地域(11): ブッシュ政権の中東政策 - 湾岸戦争 - 24. 戦後の中東地域(12): クリントン政権の中東政策 - 二重封じ込め政策
----------------------------	---

科 目 名	社会科学特殊講義 A (集団と文化の社会心理学)	担当者名	三 本 茂
-------	----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>- 集団と文化の社会心理学 - 人間は、他の動物に比べて集団への依存性が極めて高い。集団の成員として生きる人間の「社会的動物」としての行動の特色を考察する。</p> <p>集団の構造とその機能、および集団成員の行動様式としての文化を取り上げ、文化によって形成される集団的パーソナリティの特徴について考察する。</p>		
講義概要	<p>まず社会集団の特質とその形成過程を取り上げ、次いで集団内の行動様式としての文化の特性について考察する。</p> <p>次に特定の文化圏で生活する人々に認められるパーソナリティの共通性を「集団的パーソナリティ」として考察する。</p> <p>事例として、ネパール高地民族であるシェルパ族の生活の様子や「シェルパ気質」を紹介したい。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	途中でその都度指示する。	
評価方法	前期に提出するレポートと後期の筆記試験の結果を併せて評価する。		
受講者に対する要望など	受け身で聞いているだけでなく、質問をして欲しい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団の形成過程 2. 集団参加の動機 3. 4. 集団の機能 5. 集団規範と同調行動 6. 集団内のコミュニケーション 7. リーダーシップ 8. 文化の特性 9. - 12. 文化とパーソナリティ 13. 社会化の過程 14. 集団的パーソナリティ 15. - 17. 事例研究 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科目名	社会科学特殊講義A（貿易実務）	担当者名	山崎 静光
-----	-----------------	------	-------

講義の目標	貿易の実務を引き合いの段階からクレームの解決まで時間的な順序に従って説明し、将来貿易に従事しない学生には一般教養としての知識を与え、貿易に従事する学生には本格的な企業内研修への準備とする。	
講義概要	取引の前段階として一般的な事項、例えば打ち切りと代理商商い、買い越しと売り越し、現物と先物などを理解させ、以後引き合い、契約、受け渡し、支払、入金 of 段階を追ってそこに出てくる用語、取引技術を説明する。その際絶えず既知の事実に戻り全体との関連をつかませ、同じ用語の理解が段階を進むにつれて深まっていくようにする。さらに簿記、会計、法律、経済学、歴史、言語などの隣接科学、また時事問題にも触れて興味を起こさせることを図る。	
使用教材	テキスト	レジメのプリントを配布する（ノートを取る練習をしてもらう）
	参考文献	山崎 静光「輸入手続ハンドブック」（中央経済社） 濱谷 源蔵「貿易実務」（同文館） 東京銀行「貿易と信用状」（実業之日本社）
評価方法	学年試験の成績による。設問は記述式の大きな問題2問とし、総体的な把握を見る。中間試験は行うが、単位を与えるか否かの境界線上の者についての参考とするにとどめ、学年試験を受けなかった者には単位を与えない。	
受講者に対する要望など	授業中に理解することを心掛け、質問、教師に対する批判を活発にし、双方向の通信のあるクラスにするのに寄与して下さい。前期の終わりと学年末に、教務部のものとは別に授業評価を求め、feedback をしている。	

科 目 名	社会科学特殊講義 A（現代国際社会の統合と分裂）	担当者名	若 林 広
-------	--------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>冷戦後の現代社会は、世界各地で発生する地域紛争や、イスラム原理主義といった文明的・宗教的対立の問題、さらには、多くの経済問題を抱えている。世界には現在、このように世界を分裂的方向へ導く力が存在する一方、国連中心主義への移行、EU 等の統合の進展といった、全地球及び地域レベルでの種々の問題解決への模索もなされている。本講では、これらの諸問題の根本には、国民国家に対する種々の方向からの挑戦があると考え、まず、国民国家概念の理論的側面に検討を加え、現代世界の動きを理解するうえで重要なこれら分裂・破壊的、及び統合・協力的な動きを、諸地域の例に即して検討を加えていく。</p>		
講 義 概 要	<p>本講では、まず国民国家概念の理論的側面に検討を加え、次に民族・宗教対立といった現代社会を分裂・破壊的な方向に向かわせる動き、及びEU統合等の統合・協力的な方向に向かわせる動きを、諸地域の例に即して検討を加えていく。講義の性格上、その時々アップ・トゥ・デートな問題も積極的に取り上げて行く。また受講者数にもよるが、可能であれば、後期は、ゼミ形式で種々の雑誌論文を読んで行きたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定	
	参考文献	細谷千博・監修『国際政治の21世紀像』有信堂高文社1996年	
評 価 方 法	<p>受講者多数の場合は、学年度末の試験になるか、又は各自の関心のあるテーマに関する自由研究レポートの提出による場合もある。またゼミ形式となった場合は、各自の発表、及び日常の授業中の議論への参加度による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業の理解と積極的な参加のため、新聞の国際面と経済面には、常に目を通しておく事。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 国際関係論とは何か。国民国家とはなにか。 2. 第二次大戦後の国際体系(1) 3. 第二次大戦後の国際体系(2) 4. グローバル・イシュー(1) 核兵器 - 軍拡競争から軍縮へ 5. グローバル・イシュー(2) 国際貿易体制と南北問題(1) 6. グローバル・イシュー(3) 国際貿易体制と南北問題(2) 7. グローバル・イシュー(4) 地球環境と人口 8. 西ヨーロッパ(1) 欧州連合の統合(1) 9. 西ヨーロッパ(2) 欧州連合の統合(2) 10. 西ヨーロッパ(3) ベルギー、フランス等における分権化(1) 11. 西ヨーロッパ(4) ベルギー、フランス等における分権化(2) 12. 旧ソ連・東欧地域(1) ユーゴ、ソ連の分裂(1) 13. 旧ソ連・東欧地域(2) ユーゴ、ソ連の分裂(2) 14. アジア(1) APEC・ASEANの進展(1) 15. アジア(2) APEC・ASEANの進展(2) 16. 北アメリカ(1) 日米経済摩擦 17. 北アメリカ(2) NAFTA 18. ラテン・アメリカ(1) 経済リージョナリズム(1) 19. ラテン・アメリカ(2) 経済リージョナリズム(2) 20. 中東(1) イスラエル・パレスチナ問題 21. 中東(2) 多極共存型民主主義とレバノン問題 22. アフリカ(1) アフリカの独立をパン・アフリカニズム 23. 予備 24. まとめ
----------------------------	---

科目名	数 学	担当者名	福 井 尚 生
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>数学は、一見無関係に見えるいくつかの現象の奥底に潜む本質的法則の抽出、その法則の客観的解析、そして普遍的モデル作りに威力を発揮します。特に、微積分は諸現象の解析に役立つ数学の筆頭分野です。</p> <p>今や挙げて宇宙時代、火星にまで人間を送り込もうとしています。地球からロケットを打ち上げる場合、その脱出速度（第 2 宇宙速度）は秒速 11.2km です。この数値は重力現象に関する法則を微分方程式で解析して得られます。微積分を勉強すれば微分方程式が扱えます。</p> <p>本講義では、現象を数学的に解析する事を念頭に、「使える数学」を目標にします。『ちょっとひと休み』のコーナーもあります。</p>		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡単な関数と逆関数：有理関数と無理関数（常微分） 指数関数と対数関数（偏微分） 三角関数と逆三角関数 2. 微分（関数の変化のようす）：1変数関数の微分（常微分） 多変数関数の微分（偏微分） 3. 積分（微分の逆演算、微分方程式への助走）：不定積分 4. 微分方程式（数学モデル作り）：変数分離形 <ol style="list-style-type: none"> 1 階線形微分方程式 2 階線形微分方程式 		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	『微積分概論』南部 徳盛 著、近代科学社 『数学読本』松坂 和夫 著、岩波書店	
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習（授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題を演習し、その都度提出） 2. レポート（前期・夏休み及び後期・冬休みに課す問題を解き提出。レポート問題の演習も別途行います。） 		
受講者に対する要望など	『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。		

科目名	物理学	担当者名	東 孝 博
-----	-----	------	-------

講義の目標	現代物理学の基礎の一つである相対性理論を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、「科学的」ということはどういうことなのかについて考えていきたい。		
講義概要	前期を特殊相対論（光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更等）、後期を一般相対論（等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論等）に充てる。		
使用教材	テキスト	とくになし。	
	参考文献	適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。	
評価方法	日常の授業への参加態度、前・後期各1回の課題で評価を付ける予定。		
受講者に対する要望など	毎回の「授業レポート」によりコミュニケーションを図り、双方向授業を心掛けますので、積極的に参加して下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ - 現代物理学を学ぶ意味 2. 飛行機の中でもワインが注げる訳 - 相対性原理 3. 光の正体 - 電気と磁気の基本法則 4. 光にも速度がある！？ - 光速の測定方法 5. 光の速度で走りながら光を見たら？ - 光速一定の原理 6. どっちが先？ - 同時概念の相対性 7. 時間が遅れる - 時間概念の相対性 8. 空間が縮む - 空間概念の相対性 9. 18歳の少女に恋した47歳の科学者の戦略 - 「浦島効果」 10. どっちが若い？ - 双子のパラドックス 11. 時間も空間も一緒 - 4次元の世界 12. 原子爆弾！ - $E = mc^2$ 13. エレベータの綱が切れたら - 等価原理 14. 宇宙空間にいるのか？ - 一般相対性原理 15. 空間も曲がる - 重力の幾何学化 16. 天才の発明 - アインシュタインの重力場方程式 17. 観測結果と一致！ - 光路の曲がり・水星の近日点移動 18. 光も出られない蟻地獄 - ブラックホール 19. 宇宙の将来はどうなるの？ - 膨張宇宙 20. 宇宙、宇宙と簡単に言うけれど - 宇宙の空間的・時間的広がり 21. 始めに光ありき - ビッグバン宇宙 22. 暗黒物質・銀河の種・インフレ宇宙 - 現代宇宙論の諸問題 23. 宇宙人さん、こんにちわ - 地球外文明探査 24. エピローグ - 再び、現代物理学を学ぶ意味 		

科目名	地学	担当者名	福井尚生
-----	----	------	------

講義の目標	<p>地学とは「地球科学」、自然科学の一分野です。地球を対象とする自然科学なら全部地学です。本講義では地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと見て、天文学を話題に取り上げます。ところで、天文とは「天」から届けられた「文」のこと、天文学とはその手紙を解読する学問で、対象は勿論天体と天体の占める空間とです。</p> <p>天文学を通して、「人間も他の生き物同様自然に生まれ、宇宙全体を貫く自然の法則に支配されている」ことの自覚を持ってもらうことが目標です。そのためには、今世紀最後となる8月11日のヨーロッパ～中近東に於ける皆既日食等の天体現象の観測に思いを馳せると同時に、これら天体現象の理論的説明で脳細胞を刺激することが大切です。</p>		
講義概要	<p>宇宙の階層に従って、話を広げて行きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 恒星：太陽（系） 連星：ミザール 散開星団：プレアデス「すばる」 球状星団：M13 2. 銀河：銀河系「天の川」 銀河群：局所銀河群 銀河団：おとめ座銀河団 超銀河団：局所超銀河団 3. 見える限りの宇宙：ビッグバン宇宙 		
使用教材	テキスト	プリント、視聴覚教材	
	参考文献	<p>『現代天文学要説』内海 和彦、他著、朝倉書店 『宇宙科学入門』尾崎 洋二 著、東京大学出版 『教養のための天文学講義』米山 忠興 著、丸善</p>	
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席（授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題を解答して、その都度提出） 2. 試験（前・後期定期試験） 		
受講者に対する要望など	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。受講希望者は本「講義の目標」を読み、各自の意見と決意とを100字以内にまとめたメモを本講義初日の17時までに、教室又はオフィス（中央棟702）で直接・福井に提出して下さい。</p>		

科 目 名	生 物 学 A	担当者名	加 藤 信 重
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>近年、生態系を乱す種々の問題が身近に起こっている。普段の何気ない我々の行動が世界の環境を左右することもまれではない。</p> <p>今世界的な重要な課題となっている問題を取り上げ、生物学の立場からそれらを説明し、将来の環境悪化を食い止めるために、我々は何をすべきかを論じる。</p>		
講 義 概 要	<p>現在、起こっている環境問題を知るために、新聞・雑誌等の記事を利用しながら講義を進める。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	使用しない。	
	参 考 文 献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評 価 方 法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受講希望者が多い場合、最初の日に簡単なテストを行う。また、年間予定も説明するので必ず出席すること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>序論</u> 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読む必要があること、またそれについてのレポート提出が多いことを説明する。 2. <u>人口問題</u> についての英語や日本語の新聞・雑誌記事を読みながら、人口増加の仕組みを説明。 3. 地球全体の<u>生物現存量</u>と動植物の数量のバランスの関連を説明。 4. 現在、世界各地で問題になっている<u>飢餓問題</u>と<u>生態系</u>の破壊の関係を説明。 5. 1935年に A.G.Tansley が提唱した<u>生態系</u>の概念を説明し、現在、問題になっている環境破壊との関連を考える。 6. <u>生産者</u>の現存量を減少による環境悪化を説明。 7. <u>消費者</u>の現存量増加が環境の悪化につながるメカニズムを説明。 8. <u>分解者</u>の正体は何かを説明。 9. <u>生態系を乱す例 1 大気汚染</u>の実態やその要因について英語や日本語の新聞・雑誌記事を読む。 10. <u>生態系を乱す例 2 水質汚染</u>の実態やその要因について英語や日本語の新聞・雑誌記事を読む。 11. <u>生態系を乱す例 3 土壌汚染</u>の実態やその要因について英語や日本語の新聞・雑誌記事を読む。 12. 地球上には様々な環境があるが、その分布を決めている温度条件と湿度条件を表す<u>雨量指数</u>と<u>乾湿指数</u>を説明。 13. <u>ワシントン条約</u>とは 絶滅の危機に瀕している生物とその保護問題を説明。 14. <u>ワシントン条約</u>とは 具体的な例 1 15. <u>ワシントン条約</u>とは 具体的な例 2 16. <u>ワシントン条約</u>とは 具体的な例 3 17. <u>ラムサール条約</u>とは 水鳥の保護の意味と日本の役割を説明。 18. 日本には独特固有植物が多数分布しているが、その理由を<u>隔離分布種</u>を例に説明。 19. <u>古赤道分布説</u>からみた日本の特徴 20. <u>種の多様性保全条約</u>とは 生態系を守るためには様々な生物の存在が不可欠であるが、貿易立国である日本の役割を説明。 21. <u>世界遺産条約</u>とは 22. 豊かな自然を恒久的に残すための<u>ナショナルトラスト</u>制度を説明。 23. アメリカから始まった<u>国立公園制度</u>を説明。 24. 一年のまとめ
----------------------------	---

科目名	生物学 B	担当者名	加藤 信重
-----	-------	------	-------

講義の目標	身近な自然を注意深く観察できるようになることを目指す。		
講義概要	普段、見過ごしている普通の種類を材料に、現代の生物学が抱える問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのために新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。原則として毎回特定のテーマについてレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	生物観察に関心があること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 一年間の講義の進め方を説明し、レポート提出が多いことを理解してもらった後、抽選で受講生48名の確定、実験室での座席の決定を行う。 2. <u>実験室内における心得</u> 実験室の器具等の扱い方を説明。 3. <u>キャンパス・ウォッチング</u> 種を区別するポイントを説明。 4. <u>身近な植物の観察</u> 見慣れた花の構造を観察。 5. <u>顕微鏡の使用法</u> 実際の顕微鏡に慣れてもらう。 6. <u>顕微鏡の使用法</u> ミクロメーターを使用法。 7. <u>顕微鏡の使用法</u> 単位面積当りの細胞数を数える。 8. <u>キャンパス・ウォッチング</u> 五感を働かせる。 9. <u>身近な植物の観察</u> 見慣れた果実の解剖。 10. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌等の記事を読む。 11. <u>身近な植物の観察</u> 見慣れた種の葉の形態を観察する。 12. <u>身近な自然</u> 夏期休暇のレポートを書くための説明。 13. <u>種の多様性保全条約</u> なぜ他の生物を守らなければならないか。 14. <u>身近な植物の観察</u> スイカズラ科の特殊な形態を観察する。 15. <u>身近な植物の観察</u> 身近なブナ科植物を観察する。 16. <u>ワシントン条約</u> 身近かな“絶滅の危機に瀕している動植物”の観察する 17. <u>身近な植物の観察</u> 秋の果実を観察する。 18. <u>身近な植物の観察</u> 生産構造図を描く。 19. <u>身近な植物の観察</u> 紅葉・黄葉の観察。 20. 分類に使われるキー・キャラクターとは テンドログラムを描く。 21. 分類に使われるキー・キャラクターとは ブナ科植物の場合。 22. レポートの整理 観察結果をより良いレポートにする方法を説明する。 23. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌の記事を読む。 24. <u>まとめ</u> 一年間のまとめと試験の説明。 		

科 目 名	自然科学概論	担当者名	福 井 尚 生
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>自然科学とは自然事象（人間の存否に無関係に起こる事象）に見出される普遍的な法則を探求する学問です。人為が及ばず、遠くまで思考が伸ばせる世界の方が自然が見えて来ます。ですから、「宇宙」は絶好の学問対象です。</p> <p>先人は興味と必要性とに駆られて、陸から海へ、海から空へ、宇宙へと夢を膨らませ、その実現の為に、科学（技術）を進歩させ、我々に住むべき環境を残してくれました。宇宙に手が届くところまで来た現在、今度は我々が宇宙から地球を振り返って見たりしながら住むべき環境を未来へ残す工夫をする番です。この問題に対する自然科学者の過去・現在までの取り組み方を学び、未来の問題に我々がどう対処すべきかを考えます。</p>		
講 義 概 要	<p>地球外文明の</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．存在：「多数世界論」対「唯一世界論」 2．探査哲学：平凡性の原理、人間原理 3．進化： 型文明“地球”（ドレーク方程式） 型文明“ダイソン球”（赤外線源） 型文明“カルダシェフ球”（CTA - 102騒動） 4．探査の現段階：オズマ計画、SETI 5．探査効能：階層的（夢 実現 進歩）循環図 		
使 用 教 材	テ キ ス ト	プリント、視聴覚教材	
	参 考 文 献	『地球外文明の思想史』横尾 広光 著、恒星社厚生閣	
評 価 方 法	<ol style="list-style-type: none"> 1．出席（授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題を解答して、その都度提出） 2．試験（前・後期定期試験） 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。受講希望者は本「講義の目標」を読み、各自の意見と決意とを100字以内にまとめたメモを本講義初日の17時までに、教室又はオフィス（中央棟702）で直接・福井に提出して下さい。</p>		

科 目 名	自然科学特殊講義 A (東洋の健康論)	担当者名	青 柳 多恵子
-------	---------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>東洋の健康の考え方には、人間が本来もっている自然治癒力、抵抗力、生命力を大切に して、体の回復をはかることを重視している。東洋の多くの古典的文献に見られる「健康観」「養 生訓」は、現代の我々が抱えている個人的・社会的な問題である「いかに健康に生涯を送る か」の解決策の多くをその考え方に学びとることができると思われる。先人の残していった 言行の含む意味の解析と理解とによって、真の健康とは何か、又その真の健康であるための ライフスタイルを模索することを目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>文化遺産である古書（日本・中国）や健康について記された文献の中から、健康であるた めの心のあり方について検証し、文献に記載されている時代の社会情勢や生活様式・食文化 といった基本的な生活状況に加えて、当時の教育の状態や生活習慣・しきたり・行事・式典・ 祭り等に現れている健康への望みや、祈りが意味するものを解明しつつ、現代人の置かれて いる環境（自然・社会）や生活・考え方がどのような変遷をしたのか、また、21世紀におけ る健康の意味を問いただすことである。生物としての人間の真の健康を自己に問いかけ、先 人が残した文化遺産に健康の普遍性を見いだすことができる。東洋のロマンに触れ、今の健 康のあり方を考えることとする。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・吉川幸次郎著 『支那人の古典とその生活』『論語について』 ・青柳洋次郎著 『論語からみたビジネス生活の方法』 ・森 隆夫著 『生涯教育と学校教育』 ・松尾 芭蕉著 『奥の細道』 ・蜂谷 邦夫著 『孔子』 ・品川 嘉也著 『気孔の科学』 ・丸山 敏秋著 『気』 	
評 価 方 法	レポート提出とテスト		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	健康について考える学生		

1. 西洋的なものの考え方と東洋的なものの考え方の違い。
2. 今なぜ「気」の概念が問題なのか。
3. 論語のなかの人生哲学と日本人との繋がりについて。
4. 中国に行き続ける宇宙観と健康観。
5. 中国の「気」の概念と日本の「気」の概念の違い。
6. 指導理念としての古典の価値の意味するもの。
7. 現代ビジネスと健康意識。
8. 普遍的、究極的な健康は存在するのか。
9. 人生に関する生きた知恵としての「論語」の解釈。
10. 幸福に関する価値連鎖体系の崩壊とは。
11. 健康に関する価値連鎖体系の崩壊とは。
12. まとめ
13. 現代日本の「健康観」について。
14. 心の様相と「老い」について。
15. 世界の健康意識の変化とその心の在りよう。
16. 健康を阻害する要因と歴史と歴史的な流れ。
17. 自然の意味するもの。
18. 現代文明と健康意識の功罪について。
19. 「論語」に見られる超現代感覚とは。
20. 原始生活と現代生活
21. 東洋的健康観とは。
22. 健康への関心と配慮について。
23. 幼児の時から健康教育の必要性。
24. まとめ

科 目 名	自然科学特殊講義 A (トレーニング論)	担当者名	梶 野 克 之
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>競技スポーツから健康づくりにまで必須とされているトレーニングについて、定義からはじめて筋の組成についての理解を深め、筋の収縮によって発揮される筋力について考察する。筋の力強さやねばり強さについての理解とともに、そのエネルギー源についても理解を深める。さらにトレーニングで培われた体力について、その維持の重要性を理解するとともに、その具体的な方法について考えることにより、現代社会と体力について理解し、これからの生活に役立てることを目的としたい。</p>		
講 義 概 要	<p>トレーニングの定義からはじめ、トレーニングを実施する時期について又発達段階に応じたトレーニングについて考察する。筋の収縮によって起る動作様式の習得について考える。続いて筋力について発揮される力や筋活動の様式について理解する。筋肉と神経について、筋活動と神経支配について、又筋肉の活動のためのエネルギーについて理解する。筋線維の組成について理解し、力強さやねばり強さと筋について理解する、体力測定の意義とその方法について理解する。力強さ、ねばり強さを鍛える条件について考える。エネルギー源となる栄養について理解するとともに、トレーニング効果を高めるための栄養について考察する。さらに体力の維持について重要性を理解する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	宮下充正著『トレーニングの科学的基礎』1993年、ブックハウス・エイチディ	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>評価は、前後期各1回のレポートと授業への参加態度等によって決定する。 前期レポート提出日：7月23日 後期レポート提出日：1月14日</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	前期
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回目の授業では1年間の授業概要の説明を行い、トレーニングという言葉の意味、生物の適応能力などについて考え、トレーニングの定義について解説する。(教科書第1章) 2. 第2回目の授業ではトレーニング実施の時期について考える。長い成長段階に応じたトレーニングについて考える。又身体発達にかかわる要因について理解する。(教科書第2章) 3. 第3回目の授業ではトレーニングを考える前に、いろいろな動作様式がどのように習得されるかを考え、基本動作を身につける必要性について理解する。年齢に応じたトレーニングについても考える。(教科書第2章) 4. 第4回目の授業では筋肉について、運動を引き起こす力としてその構造と活動のメカニズムを理解し、エンジンとしての筋肉の特性について考える(教科書第3章) 5. 第5回目の授業では前回に引き続いて筋肉について、関節角度と発揮される力の関係及び、筋活動の様式についての理解を深める。(教科書第3章) 6. 第6回目の授業では筋肉と神経について、特に筋活動と神経支配について運動調整として理解する。筋肉の発揮する力を調節する仕組みについて理解する(教科書第4章) 7. 第7回目の授業では前回に引き続いて筋肉と神経について、筋肉の活動のためのエネルギーについて、その補給という視点からATPやADPなどについて理解する。(教科書第4章) 8. 第8回目の授業では力強さとは何かについて考え、筋の組成を理解し、筋線維組成と筋出力について考える。筋線維組成とスポーツ種目とのかわりについても考える。(教科書第5章) 9. 第9回目の授業では前回につづいて筋線維について、力強さのもととなる速筋線維について遺伝的要因と後天的なトレーニングの影響によるものなのかについて考える。(教科書第5章) 10. 第10回目の授業ではねばり強さとは何かについて考え、筋の組成と筋線維の代謝の特徴について理解し、運動強度と酸素摂取量について考察する。(教科書第6章) 11. 第11回目の授業では前回に引き続いてねばり強さのもととなる遅筋線維と、呼吸機能や循環機能の影響について考える。酸素が筋力に運ばれる過程について理解する。(教科書第6章) 12. 第12回目の授業では前期授業のまとめ、前期提出レポートのテーマ発表を行う。
	後期
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回目の授業では前期レポートの講評を行う。筋肉の活動能力と競技成績の関係について考え、体力と技術にみられる相関について体力の測定の必要性を理解する。(教科書第7章) 2. 第2回目の授業では体力測定について、その実際の方法を理解するとともに、意義についても考える。トレーニングの経過と体力測定の結果について理解する。(教科書第8章) 3. 第3回目の授業では力強さを鍛える、すなわちハイ・パワーを増大させる条件について考える。さらにハイ・パワーアップの方法についての理解を深める。(教科書第8章) 4. 第4回目の授業では前回に続いて、ハイ・パワーを増大させる条件について考える。具体的なトレーニングの方法を理解して、実践上の注意点をも理解する。(教科書第8章) 5. 第5回目の授業では力強さを持続させることについて考える。ハイ・パワーの持続能力を向上させる条件について考える。ハイ・パワーの持続能力と成績について考える。(教科書第9章) 6. 第6回目の授業では前回に続いて、ハイ・パワーを維持させる条件について考える。ハイ・パワーの持続力を高めるトレーニングについて考える。球技でのハイ・パワーの持続についても理解する。(教科書第9章) 7. 第7回目の授業ではねばり強さについて考える。ロー・パワー向上のためのトレーニングとその発展について考察する。ロー・パワー向上の条件についても考える。(教科書第10章) 8. 第8回目の授業では前回に続いて、ねばり強さを鍛える条件について考える。いろいろなトレーニングについて考察するとともに、その限界についても理解する。(教科書第10章) 9. 第9回目の授業ではエネルギーの補給について考える。トレーニングと栄養についての視点から考え、運動強度と利用されるエネルギー源について理解する。(教科書第11章) 10. 第10回目の授業では前回につづいてトレーニング効果を高めるための栄養について考える。スポーツ選手の実際の食事例をとりあげながら栄養についての理解を深める。(教科書第11章) 11. 第11回目の授業ではトレーニングで培われた体力について、年齢にともなうその維持の重要性と方法について考える。運動習慣と寿命や成人病予防についても考える。(教科書第12章) 12. 第12回目の授業では後期の授業のまとめと、提出レポートの課題を発表する。

科 目 名	自然科学特殊講義 A (植物と人間)	担当者名	加 藤 信 重
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>普段、あまりに見慣れた種類のために注意深く観察することのない植物を材料として民族の文化交流を想像してみたい。</p>		
講 義 概 要	<p>身近な生物を理解するためにも、幅広く種類を選び、様々な文献を参考に講義を進めたい。受講生は新聞・雑誌等をまめに目を通してほしい。必要に応じて一定のテーマについてのレポートを提出してもらおう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評 価 方 法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業の性質上、受講希望者は生物学 A または B および外国文学概論等の講義をすでに履修済みであること。最初の日に簡単なテストを行うので、必ず出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>序論</u> 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。 2. <u>遺跡から出た植物遺骸</u> 1 ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介。 3. <u>遺跡から出た植物遺骸</u> 2 4. <u>遺跡から出た植物遺骸</u> 3 5. <u>トピックス</u> 英語や日本語の新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。 6. <u>栽培植物の起源</u> 1 何を植栽したか、民族による違いを説明。 7. <u>栽培植物の起源</u> 2 8. <u>栽培植物の起源</u> 3 9. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 縄文時代・弥生時代を特徴づける植物。 10. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 江戸時代を特徴づける植物 11. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 日欧交流史を特徴づける植物 12. <u>前期のまとめ</u> 授業内容をまとめ、併せて夏休みのレポートを説明 13. <u>後期の序論</u> 後期の講義進め方を説明 14. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 1 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。 15. <u>日本文化の基盤をなす植物</u> 南蛮人の持ってきた植物。 16. <u>トピックス</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。 17. <u>日光御成街道沿いの植木村。</u> 18. <u>朝顔と菊人形。</u> 19. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 2 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。 20. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 3 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。 21. <u>ツェンベリー、シーボルト、ベリー、モースの役割。</u> 22. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 4 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。 23. <u>夏期休暇中の読書紹介</u> 4 受講生一人ひとりに講演をしてもらう。 24. <u>まとめ</u> 一年間のまとめと試験の説明。
----------------------------	--

科 目 名	自然科学特殊講義 A (宇宙論)	担当者名	福 井 尚 生
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>特殊講義では、“特殊”な話題について、“教養として”の制限付きではありますが、“専門”の道具で少し深く講義すべきだと思います。そこで本自然科学特殊講義では、私の専門で自然科学の一分野である一般相対論的宇宙論に関する話題について少し深く講義します。</p> <p>広大な宇宙を支配する力は重力、その重力に仕える物理学が一般相対性理論です。この理論が存在を予言する重力波の直接検証に向けて今世界中が動いています。一般相対性理論及びその理論に至る知識体系とその理論の応用とを学ぶと共に、local な存在の人間が、宇宙全体を貫いている普遍的な法則の発見に挑戦している姿について学ぶ事が目標です。</p>		
講 義 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 光 (光の実速度の測定) 2. 空間・時間 (「絶対」対「相対」) 3. 相対性理論：特殊相対性理論 (特殊相対性原理、光速度不変の原理) 一般相対性理論 (一般相対性原理、等価原理) 4. 一般相対論的宇宙論：構造論 (宇宙モデル) 起源論 (宇宙の始まり) 5. 宇宙論、最新の話から (重力波の検出) 		
使 用 教 材	テキスト	プリント、視聴覚教材	
	参考文献		
評 価 方 法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席 (授業の際に配布する用紙に、授業内容に関する課題・宿題を解答して、その都度提出) 2. レポート (前期・夏休み及び後期・冬休みに課す課題に対するレポートの提出) 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』を肝に命じ、十分に予習・復習をしながら真面目に主体的に授業に取り組んで下さい。科目の特性上、自然科学部門の科目を履修した学生或いは履修中の学生の受講を希望します。</p>		

科 目 名	自然科学特殊講義 A (化学)	担当者名	和 田 浩 志
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>自然界のさまざまな化学物質や人類が積極的に利用してきた有用な天然物を、化学の面から眺め、自然界のおもしろさや人類の英知を再認識する。</p> <p>また、環境汚染、薬害、麻薬・毒物中毒など社会問題になっている化学物質を、化学的に理解するとともに、その背景にある共通の問題点をより深く把握する。</p>		
講 義 概 要	<p>高校までの暗記主体の化学ではなく、化学物質の有用性と危険性、自然界のおもしろさや生物の共通性などを理解するための応用化学を講義する。したがって、化学が得意であるか否か、高校時代に化学を選択していたか否かは、ここでは問わない。</p> <p>我々の身近にある化学物質の化学構造式を項目ごとに数多く提示するが（年間授業計画の項目を参照）専門的な知識がなくても理解できるように、なるべく実物を通して、わかりやすく話をする。また、最近の新聞や雑誌などで話題になっている化学物質なども随時取り上げる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。	
	参 考 文 献	講義の中で適宜紹介する。	
評 価 方 法	出席と授業態度、レポート提出、定期試験を総合して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	受け身の姿勢ではなく、講義を通して自分なりの考え方がもてるような積極的な受講態度を望む。		

年
間
授
業
計
画

1. はじめに (年間予定と講義概要)
2. 水の化学
3. 洗剤の化学
4. 環境の化学
5. 環境の化学
6. 環境の化学
7. 甘味の化学
8. 甘味の化学
9. 苦味の化学
10. 香りの化学
11. 香辛料の化学
12. お茶の化学
13. 毒の化学
14. 毒の化学
15. 麻薬の化学
16. くすりの化学
17. くすりの化学
18. くすりの化学
19. 色素の化学
20. 色素の化学
21. 自然と生命の化学
22. 自然と生命の化学
23. 自然と生命の化学
24. まとめ

科 目 名	コンピュータ概論（94年度～97年度入学生）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。</p> <p>この科目では、コンピュータの基本操作や各種のアプリケーションソフトの利用、および情報処理の考え方や人間とコンピュータの関係を学んでいく。</p> <p>とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p>	
講 義 概 要	<p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。</p> <p>内容は、日本語および英文ワープロ、表計算、データベース操作、コンピュータネットワーク（通信）情報倫理についてである。</p>	
使 用 教 材	テ キ ス ト	本学情報センター発行のもの。タイプ練習用ソフト。
	参 考 文 献	授業中、随時紹介する。
評 価 方 法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>第1回目の授業で、使用教材や授業に必要なものを指示する。欠席した場合にはその後の受講は認めない。</p>	

年 間 授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作 2. windows 入門 - ウィンドウ操作とフロッピーディスクの取り扱い 3. タイピングと日本語入力 4. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索 (1) 5. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索 (2) 6. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (1) 7. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (2) 8. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (3) 9. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (4) 10. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷 (5) 11. ワープロ入門 - 英文ワープロ (1) 12. ワープロ入門 - 英文ワープロ (2) 13. 表計算入門 - 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷 (1) 14. 表計算入門 - 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷 (2) 15. 表計算入門 - 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷 (3) 16. データベースの操作 - データベースの作成・整備、データの検索・抽出 (1) 17. データベースの操作 - データベースの作成・整備、データの検索・抽出 (2) 18. データベースの操作 - データベースの作成・整備、データの検索・抽出 (3) 19. インターネット - 情報の収集と活用 (1) 20. インターネット - 情報の収集と活用 (2) 21. インターネット - 情報の収集と活用 (3) 22. 情報倫理 23. 総合演習 (1) 24. 総合演習 (2)
----------------------------	---

科目名	情報論（94年度～97年度入学生）	担当者名	前田 功 雄
-----	-------------------	------	--------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>		
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をどうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特にレポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと、そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、コンピュータ・ネットワーク、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>		
使用教材	テキスト	<p>必要な都度プリント配布。</p>	
	参考文献	<p>授業中に述べる。</p>	
評価方法	<p>評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？ キーワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度 2. パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS局に接続して実演。 キーワード：BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール 3. コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。 キーワード：ホスト-端末、LAN、コンピュータ間通信、Internet 4. Internetの仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるInternetの仕組みと実演。 キーワード：ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信 5. Internetの実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信の実習。 6. Internetによるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。 キーワード：TEXT FILE、BINARY FILE 7. パソコン上のファイルのInternet上での転送 FDのファイルをInternet経由で転送する方法を解説。 キーワード：アップロード、ダウンロード 8. 前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。 9. 情報管理とデータベース(ファイルとディレクトリ) 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。 キーワード：ファイル(ルート、サブ)ディレクトリ、ツリー 10. 情報管理とデータベース(情報検索と抽出) データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。 キーワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件 11. 情報管理とデータベース(データベースの作り方) パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築。 キーワード：ダウンロード、エディタ 12. 前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関する課題の説明。 13. 自然言語と情報理論 自然言語(英語)の生成メカニズムと確率モデル。 キーワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機 14. 情報の種類 情報の種類をそれらを伝達する媒体について解説。 キーワード：アナログ情報、デジタル情報、標準化、量子化、マルチメディア 15. 情報量の測りかた(確率入門1) 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。 キーワード：確率、基本公式、独立な確率変数 16. 情報量の測りかた(確率入門2) 情報理論によく出てくる確率概念の解説。 キーワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率 17. 情報量の測りかた(エントロピーの導入) 情報量の定義とその尺度の導入。 キーワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー 18. エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。 キーワード：所得の均衡とエントロピー 19. 情報伝達システム(誤りの無い場合) 効率のよい伝達システムと符号化について解説。 キーワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、複号器、複号化 20. 情報伝達システム(誤りのある場合) 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。 キーワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式 21. Hamming符号とHuffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。 キーワード：誤り訂正符号、情報圧縮 22. 10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。 キーワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式 23. 獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。 キーワード：置換、パリティチェック方程式 24. 後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。
----------------------------	--

科 目 名	コンピュータ入門(98年度以降入学生)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	---------------------	------	-----------

講義の目標	<p><外国語学部コンピュータ科目レベル=0> 現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。 この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。 とくに大学生生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。 内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報処理についてである。</p>		
使用教材	テキスト	本学情報センター発行のもの。タイプ練習用ソフト。	
	参考文献	授業中、随時紹介する。	
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。		
受講者に対する要望など	<p>実習を中心とした授業なので、欠席、遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。第1回目の授業で、使用教材や授業に必要なものを指示する。欠席した場合にはその後の受講は認めない。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作 2. ウィンドウズ入門 - ウィンドウ操作とフロッピーディスクの取り扱い 3. タイピングと日本語入力 4. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索(1) 5. インターネット - ブラウザ・メール・図書検索(2) 6. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷(1) 7. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷(2) 8. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷(3) 9. ワープロ入門 - 文書の編集と印刷(4) 10. ワープロ入門 - 英文ワープロ(1) 11. ワープロ入門 - 英文ワープロ(2) 12. 情報倫理 		

科 目 名	情報科学概論（98年度以降入学生）	担当者名	呉 浩 東
-------	-------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>情報とは何か、情報とデータの違いは何か、情報の符号化など情報の基礎概念からはじめ、コンピュータによる情報処理を講義する。コンピュータを中心とする情報科学の理論を身に付けることを本講義の目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に情報の符号化、数値や文字などデータのコンピュータ内での表現、データの入出力、プログラム構造、データベース、コンピュータ・ネットワークなどについて述べる。最後に、ソフトウェアの開発手順、情報システムの設計について解説する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p>	
	参考文献	<p>適宜紹介します。</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期各一度のテストと、レポートの提出および出席を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>「コンピュータ概論」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概略 年間の講義概要、評価の方法と基準、授業の進め方 2. 情報とは何か 情報の持つ性質、情報の形態、情報とデータ、機械文明と情報 3. 人間と情報 知識、言語、コミュニケーション、コンピュータと情報 4. コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷、通信の変遷 5. コンピュータ・ハードウェアの概略 中央処理装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置 6. コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 7. データ表現 情報量の単位と文字コード、数値データの種類 8. 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換 9. 論理演算 論理演算の種類、真理値表 10. オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの構成と機能 11. コンピュータ言語 コンピュータ言語の目的と分類 12. 基本データ構造 13. 問題向きデータ構造 14. ファイルの構造 ファイルの構造、種類、用途 15. プログラム構造 16. ソフトウェア開発手順 17. データベース データベースの概要、データベースの種類 18. データベースの管理システム DBMS 19. データベースと情報システム 20. コンピュータ・ネットワーク コンピュータ・ネットワークとは、コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み 21. インターネット インターネットの構成、インターネットのサービス 22. 情報システムの発展 情報管理の必要性、情報システムの発展史 23. 情報システムの設計 24. コンピュータ・セキュリティ 情報化社会の問題点と倫理
----------------------------	--

科目名	言語学	担当者名	井口厚夫
-----	-----	------	------

講義の目標	言語学の一般的な知識を得る。		
講義概要	<p>言語学とは何かを問う。英語や日本語といった個別の言語ではなく、全ての人間言語を持つ特徴について触れるとともに、言語を分類するとどのようになるかも論じる。抽象的な議論も多いので、コトバに興味のない人は取らないほうがいいだろう。興味のある人にはいろいろな逸話が出て面白いと思うが、それらに興味のない人にとっては酒のつまみにもならない。</p> <p>教科書は分かりやすいが、日本語の例が少ないので講義中に補っていく。この他にも随時詳述したり省いたりするので必ずしも教科書通りに進むわけではない。教科書と講義が相補的になる場合もある。あらかじめ指定された箇所を読んでこない講義はわからないので予習が必要。</p> <p>後期完結科目（週二回、4単位）なので、時間割をよく確認して履修してもらいたい。</p>		
使用教材	テキスト	「言語学」東京大学出版会	
	参考文献		
評価方法	レポートの予定。		
受講者に対する要望など	聞いているだけなら面白い授業だが（多分）、教科書の丸暗記では単位は取れない。講義と教科書、そして自分のアイデア、それをサポートするデータが要求される。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間言語の特徴 - ミツバチの“コトバ” 2. 人間言語の普遍性 3. 音声学 - 1 音の仕組み・一般論 4. 音声学 - 2 音の仕組み その2 5. 音声学 - 3 外国語との対照 6. 音韻論 - rice と lice、または空耳アワー 7. 音韻論 - 日本語の「ん」「っ」とは何か 8. 音韻論 - モーラと英語の俳句、韻を踏む 9. 文法のカテゴリー - テンス・アスペクト・性・数など 10. 品詞の話 11. 形態論 - “レスカ”の秘密 12. 統語論 - 「血まみれの泥棒」・生成文法の理念・言語習得 13. 意味論・語用論 - “Where were you on the bike at that time?” “On the seat.” 14. 言語の系統（歴史的1）英語などのルーツ 15. 言語の系統（歴史的2）泥沼の日本語のルーツ 16. 言語変化（地理的）方言、または日本アホバカ分布図 17. 言語変化（歴史的1）英語の変化 18. 言語変化（歴史的2）日本語の変化 19. 言語接触 - ビジン・クリオール「高いないよ」 20. 言語変化（現代）「ら抜き」言葉、言語生活 21. 社会言語学 22. 二言語使用（バイリンガリズム） 23. 言語と文化 24. コンピュータと言語、機械用辞書の話
----------------------------	---

科 目 名	情報科学特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者名	高 柳 敏 子
-------	---------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、仮想のコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングを通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL のより応用的なところをみたところで、現実の一般的なプログラミング言語の 1 つであるコンパイラ言語の C++ を取り上げ、CASL プログラムと対応させながら C++ によるプログラミングを学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	随時必要な資料をファイルで配布する。	
	参考文献	<p>田中武二著「コンピュータと社会」サイエンス社、1993</p> <p>「CASL Programming」ITEC (情報処理技術者教育センター)、1994</p> <p>Jamsa 著、春木・佐藤共訳「C++ 超入門」アスキー出版局、1994</p> <p>ストラウストラップ著、斉藤・三次・追川・宇佐美共訳「プログラミング言語 C++」第 2 版、アジソンスウエイ・トッパン、情報科学シリ - ズ - 40、1993</p> <p>「岩波 情報科学辞典」岩波書店、1990</p>	
評 価 方 法	前・後期の定期試験と、前・後期各 3 回程度のレポートを加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	MS-Windows、MS-Word、および MS-Excel の取り扱いを十分に理解していること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの歴史(1): ハードウェア ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。 2. コンピュータの歴史(2): ソフトウェア プログラミング言語、オペレーティングシステム 3. ノイマン型コンピュータの構成 中央処理装置、制御装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置 4. COMET の処理装置(1) 語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ(PC) 5. COMET の処理装置(2): レジスタ 汎用レジスタ(GR) 指標レジスタ(XR)、フラグレジスタ(FR) 6. 情報の表現(1): 数値の内部表現 整数と2の補数表記、16進表現 7. CASL プログラミング(1) CASL の命令: 疑似命令、マクロ命令、機械語命令 プログラムの形式: ラベル、命令コード、オペランド、注釈 8. CASL プログラミング(2) CASL プログラム: ロード命令とストア命令 加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保 9. CASL シミュレータとその実行 プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼び出し 10. CASL プログラミング(3): 乗除算処理(1) シフト演算命令 11. CASL プログラミング(4): 乗除算処理(2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ 12. CASL プログラミング(5): 繰り返し処理 指標レジスタの使用 13. CASL プログラミング(6): 情報の表現(2) 文字の内部表現、ASCII コード、JIS コード 14. CASL プログラミング(7): 入出力命令 コード変換と論理演算 15. CASL プログラミング(8): サブプログラム(1) 汎用レジスタによるデータの受け渡し 16. CASL プログラミング(9): サブプログラム(2) スタックを利用したデータの受け渡し 17. C++ プログラミング(1): C++言語とは C++言語の基本事項: 文、ブロック、コメント 18. アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳と実行 例題とC++コンパイラの操作 19. C++ プログラミング(2): 演算と出力 算術式、四則演算と演算子、シフト演算 20. C++ プログラミング(3): 判断・分岐 関係式、関係演算子、論理演算子 21. C++ プログラミング(4): 繰り返し 繰り返しと配列の扱い 22. C++ プログラミング(5): データの入力 入力および文字と文字列の扱い 23. C++ プログラミング(6): 関数(1) メインプログラムとサブプログラム サブプログラムにデータの値を渡す(call by value) 24. C++ プログラミング(7): 関数(2) サブプログラムにデータの番地を渡す(call by reference)
----------------------------	---

科 目 名	情報科学特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者名	立 田 ル ミ
-------	---------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>現在ワープロや表計算ソフト等、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、実際にプログラミングを行う。この中で、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、現在どのようなプログラミング言語があり、どのような言語で現在のソフトウェアが開発されているかを知る事も目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>コンピュータが現在どのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアに関してビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすればよいかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、それらの1つ1つの命令に対して講義と演習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行うとともに、それらをどのようにプログラミングすればよいかの講義と演習を行う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	立田ルミ “教育システム情報と Visual Basic ” 朝倉書店	
	参考文献	天笠美知雄編 “情報処理の基礎” 朝倉書店	
評 価 方 法	レポート	:	80%
	ネットワーク上に提出		
	出席	:	20%
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>この講義は演習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。人数が多い場合は、講義の第1日目に抽選を行う。情報処理概論を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行うので注意されたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説：コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ、ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成 2. ソフトウェアの歴史と概略：ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows95の概略 3. 教育におけるコンピュータの役割、プログラム開発手順：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ、教育用ソフトウェアシステム開発の手順と機械化、情報処理技術者の職種、情報処理技術者試験、プログラム開発の手順と期間 4. Visual Basic の概略：イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド 5. 簡単なプログラム作成（1）：アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力 6. 簡単なプログラム作成（2）：四則演算、変数のまとめ 7. 選択のあるプログラム作成（1）：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8. 選択のあるプログラム作成（2）：多くの選択のあるプログラムの処理、選択ステートメントのまとめ 9. 選択のあるプログラム作成（3）：オプションボタンの利用、チェックボタンの利用 10. 選択のあるプログラム作成（4）：リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用 11. 繰り返しのあるプログラム作成（1）：If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し 12. 繰り返しのあるプログラム作成（2）：ラストデータの処理、条件を満たすまで繰り返し、ネスティング 13. 図形の処理（1）：直線を描く、曲線を描く 14. 図形の処理（2）：円を描く、色を塗る 15. 図形の処理（3）：Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす 16. 図形の処理（4）：ドラッグアンドドロップを使う 17. 音声の処理：音声を録音する、音声を再生する 18. 配列とコントロール配列：一次元配列、コントロール配列、二次元配列 19. プルダウンメニュー：コンボボックスを使う、プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用 20. ファイルの利用（1）：コントロールの利用、シーケンスファイルの利用、シーケンスファイルの作成、シーケンスファイルの読み込み 21. ファイルの利用（2）：ランダムファイルの利用：ランダムファイルの作成、ランダムファイルの読み込み 22. 教育用ソフトの制作（1）：システム設計、詳細設計 23. 教育用ソフトの制作（2）：プログラム作成とデバッグ、デバックツールの利用法 24. 教育用ソフトの制作（3）：プログラム作成とデバッグ
----------------------------	--

科 目 名	情報科学特殊講義 A (コンピュータサイエンスと自然言語処理)	担当者名	工 藤 育 男
-------	------------------------------------	------	---------

講義の目標	コンピュータの初級をマスターした外国語学部の学生を対象に、コンピュータへのより深い理解を与えることを目的として開講する。		
講義概要	教材には、インターネット、機械翻訳、統計言語を主な教材にとりあげ、卒業研究や大学院、社会へ出てからも役立つような実用的なテーマを取り上げる。		
使用教材	テキスト	用いない。	
	参考文献	必要に応じて、著者、ホームページなどを紹介する。	
評価方法	前期後期 2 回のレポートにより評価する。		
受講者に対する要望など	コンピュータの初級コースをマスターしていることが望ましい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：授業の狙い、年間計画など本講義の概略を紹介する。 2. 実習：ネットスケープナビゲータ：操作方法、サーチ 3. 実習：ホームページの考察 4. 実習：ホームページの作成（1）：記述言語 HTML について 5. 実習：ホームページの作成（2）：ホームページの構造 6. 実習：ホームページの作成（3）：写真、絵を扱う 7. 実習：ホームページの作成（4）：音声、音楽を扱う 8. 実習：ホームページの作成（5）：ホームページを飾る 9. 実習：ホームページの作成（6）：電子メール 10. 講義：コンピュータとマルチメディア 11. 講義：インターネット 12. 討論：作成したホームページについて 13. 講義：後期の授業について概説する。 14. 実習：言語の統計処理（1）：ソート 15. 実習：言語の統計処理（2）：頻度 16. 実習：言語の統計処理（3）：Zipf の法則 17. 講義：機械翻訳（1）：形態素解析と辞書 18. 講義：機械翻訳（2）：構文解析、格解析と言語理論 19. 講義：機械翻訳（3）：機械翻訳 20. 実習：機械翻訳（1）：操作になれる 21. 実習：機械翻訳（2）：翻訳結果の評価 22. 実習：機械翻訳（3）：機械翻訳のメリット、デメリット 23. 講義：コーパスと言語データベース 24. 講義：自然言語処理に関するホットな話 		

科 目 名	情報科学特殊講義 A (情報処理)	担当者名	東 孝 博
-------	---------------------	------	-------

講 義 の 目 標	この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ概論」「コンピュータ入門(98年度)」の直上に位置する上位科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。		
講 義 概 要	<p>今年はず、インターネット上の様々なサービスの概要を学びます。そして、その中でとくにWWWサービスを利用して、実際にいろいろな情報を見て回り、特定の情報を探し出し、取り込みそれを整理することなどを行います。またWWW上の情報の単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学び、簡単なホームページの試作もしてみます。</p> <p>そのあとは、やはりHTMLと同じ非WYSIWYG(What You See Is What You Get)系の文書作成方式であり、印刷・出版用の標準言語といわれているTEXについて学ぶ予定です。</p>		
使 用 教 材	テキスト	授業中に指示します。	
	参考文献	適宜紹介します。	
評 価 方 法	数回の課題と日常の宿題等授業への参加態度で決めます。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	「コンピュータ概論」「コンピュータ入門(98年度)」成績優秀者か、または、それと同程度のものを対象とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。		

科 目 名	情報科学特殊講義 A (プログラミング論と自然言語処理入門)	担当者名	呉 浩 東
-------	-----------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、コンピュータの基本操作をマスターした外国語学部の学生を対象に、人間の言葉をコンピュータによる処理するために入門的な知識を習得することを目的とする。そのために、実際にプログラミングを行い、ソフトウェアの使用と開発の技能を身に付けることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、初めにコンピュータのハードウェアとソフトウェアを概説する。続いて、ソフトウェア開発の手順について講義し、プログラミング言語のひとつである Visual Basic を用いてプログラミングの方法を解説しながら、実習を行う。</p> <p>後期は、自然言語処理の基本となる技術を中心に講義と実習を行う。初めに、文字列の基本操作について実例をあげながら解説と実習をする。さらに、単語の諸統計、誤綴の検出と訂正などに関する簡単なプログラムを紹介する。最後に、機械翻訳について解説し、機械翻訳ソフトウェアを使用して実習しながら自然言語処理の入門知識を学習する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p>	
	参考文献	<p>必要に応じて、著書、ホームページ、ソフトウェアなどを紹介する。</p>	
評 価 方 法	<p>前・後期各一度のテストと、3~4 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>「コンピュータ概論」を既修か、または、それと同等程度のものを対象とします。人数が多い場合は、抽選を行う。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 コンピュータの構成要素と動作原理、コンピュータの種類、特徴、性能 2. プログラミング言語とオペレーティングシステム コンピュータと機械語、オペレーティングシステム、Windows と GUI 3. ソフトウェア開発手順 プログラム開発の手順、システム開発の手順 4. Visual Basic プログラミング (1): Visual Basic(VB)とは 画面構成、起動と終了、ウィンドウの構成と基本的な操作方法 5. Visual Basic プログラミング (2): 何か作ってみる コントロールの変更、プロパティの設定、文字の入出力 6. Visual Basic プログラミング (3): データ型と演算子 データ型、ユーザー定義型、変数の宣言、配列の宣言、演算子 7. Visual Basic プログラミング (4): 選択のあるプログラム 選択ステートメント、コントロールの扱い方 8. Visual Basic プログラミング (5): 繰り返しのあるプログラム 各種の繰り返し構造 9. Visual Basic プログラミング (6): プログラム (1) フォームの設定、ラベル、オブジェクト、メソッド、プログラムの新規作成 10. Visual Basic プログラミング (7): プログラム (2) キーボードからの操作、ファイルの保存と読み込み、実行ファイルの作成 11. Visual Basic プログラミング (8): プログラム (3) 配列を用いた実用プログラム例 12. Visual Basic プログラミング (9): VB の関数 文字列処理の関数、ファイル処理関数 13. 言葉とコンピュータ 人工言語、自然言語、自然言語処理 14. 文字列の処理 (1) 文字列の連結と分割、部分文字列の検索と選択、文字列のデータ構造 15. 文字列の処理 (2) 文字列処理 (検索、挿入、削除、探索、照合、整列) のアルゴリズム 16. 単語処理 単語の同定、誤綴の検出と訂正 17. 言語処理の知識源 電子辞書、コーパス、言語データベース 18. 機械翻訳 (1) 形態素解析 19. 機械翻訳 (2) 構文木、文法規則 20. 機械翻訳 (3) 構文解析、パーサー、格文法 21. 機械翻訳 (4) 単語の語彙的曖昧性の解消、訳語選択 22. 機械翻訳 (5) 文と文章の意味解析 23. 機械翻訳 (6) 機械翻訳システムの使用と評価 24. 自然言語処理の発展史と現状について 機械翻訳の歴史、統計的言語処理
----------------------------	---

科 目 名	情報科学特殊講義 A (データベース)	担当者名	前 田 功 雄
-------	---------------------	------	---------

講義の目標	<p><外国語学部コンピュータ科目レベル= 2 , 3> 本講義はデータベースについて、その扱い方、作り方等について学ぶ。前期にはデータベース専用ではないが、通常は十分と思われるソフト、EXCELのデータベース機能についてデータベースの基本について学び、特にクロス集計については統計的関連などの関係などにも触れるつもりである。後期にはデータベース専用ソフトである、ACCESSについても述べる。これらのソフトはマイクロソフトのOfficeとして含まれているものである。</p>		
講義概要	<p>本講義の狙いは、情報が渦巻く中で、如何に的確な情報を取り扱うかについての方法的な一つの答えとしてデータベースについて述べる。データベースとしてのソフトはかなり沢山のものが出回っているが、前期ではEXCELを、後期ではACCESSを中心に述べるつもりである。計算機についてはある程度なれていることが必要である。</p>		
使用教材	テキスト	「情報処理と Windows - Windows98 対応」、共立出版、 1 9 9 8	
	参考文献	授業中に随時述べる	
評価方法	レポートまたは実技テスト。		
受講者に対する要望など	まじめに出ていること。		
年間授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Databaseとは。 2. 表計算ソフトExcelのdatabase機能とは。 3. レコードの並べ替え、1項目、2項目、・・・。 4. 特定順序での並べ替え。 5. 簡単な集計。グループ毎の集計。 6. レコードの検索。AND検索やOR検索等。 7. オートフィルタのオプションによるレコードの抽出1。 8. オートフィルタのオプションによるレコードの抽出2。 9. データベース関数。2項目間のクロス集計、ピボットテーブル。 10. データベースへのデータ入力。 11. データベース総合。 12. レポートの作成。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Database専用ソフトAccessについて。 2. Accessの起動。Accessとは。Accessの終了。 3. Accessの基本操作。ヘルプ機能。 4. Accessによるデータベースの作成。 5. フィールドの定義。追加。削除。 6. 複数のテーブルを関連付ける。 7. フォーム(オートホーム)の作成。 8. コントロールの作成。 9. フォームをカスタマイズする。 10. データの入力、保存、削除、コピー、移動。 11. データの検索、置換、並び替え、SQL。 12. レポートの作成、編集。 		

科 目 名	言語学特殊講義A（音の構造）	担当者名	伊豆山 敦 子
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>人間の言語音の調音機構を観察し、その調音・聴取の訓練を行う。そしてその表記の方法を習得する。</p> <p>一般的に、人間の言語音にはどんなものがあり、どのような構造をなしているかを学ぶ。それは言語研究の基礎である。</p> <p>さらに、音声はその言語で果たしている機能はどういうものか、日本語を例として考える。</p> <p>この講義により、無意識に習得した自国語の音声に対する、客観的認識が得られることを期待する。そして外国語習得・教育などに役立てることを期待する。</p>		
講 義 概 要	<p>国際音声字母表を用いながら、調音音声学的訓練を行う。個々の単音の調音を説明し、発音をし分け、それを聞き分けることを教える。そして、音声表記ができるようにする。当然、自国語の音声面に対する観察をすることになる。</p> <p>さらに、そのことから、音声の果たす機能に着目するようになり、音韻論の基礎を自国語・日本語で学ぶ。</p> <p>各人が音声学的知識を身につけ、音声を観察することができるように、訓練を中心とした授業である。</p>		
使 用 教 材	テキスト	小泉保『音声学入門』(1996) 大学書林	
	参 考 文 献	服部四郎『音声学』(1984) 岩波書店 川上泰『日本語音声概説』(1977)おうふう 風間喜代三 et al.『言語学』(1993) 東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』アポロン工学社	
評 価 方 法	<p>授業中に随時行う単音聴取テストへの参加。</p> <p>前期・後期各1回の聴取テストと筆記試験。</p> <p>以上の総合により評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>単音を聞き取り、発音するということは、自分自身の問題である。授業で聴き、教われれば分かるものも、一人で教科書などを読むだけでは分かり難い。休まず出席することを要望する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音声学とは。 2. 気流と発声 (p.5 - 23) 3. 調音器官 (p.23 - 30) 4. 母音 5. 有声・無声 鼻腔・口腔 6. 両唇閉鎖音 7. 両唇摩擦音 8. 唇歯音 9. 歯・歯茎閉鎖音 10. 歯・歯茎摩擦音 11. 破擦音 12. テスト <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テスト講評と復習 2. 硬口蓋音 3. 軟口蓋音 4. 口蓋垂音 5. 側面音 6. ふるえ音・はじき音 7. 接近音 8. 副次調音 (p.70 - 83) 9. 鼻母音 10. 日本語の音素 (p.142 - 146) 11. 日本語の音素 (p.142 - 146) 12. テスト <p style="text-align: center;">以上</p>
----------------------------	---

科 目 名	情報科学各論（表計算・データベース入門）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	----------------------	------	-----------

講義の目標	<外国語学部コンピュータ科目レベル=1> この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する上位科目（レベル1）です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。		
講義概要	この授業では、コンピュータによる表計算・データベース操作の初歩を学びます。また、コンピュータネットワークを利用した情報の収集と収集されたデータの整理・活用も扱います。		
使用教材	テキスト	第1回目の授業で指示します。	
	参考文献	授業中、随時紹介します。	
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価します。		
受講者に対する要望など	「コンピュータ入門」修了者か、または、それと同等程度のもをを対象とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。		
年 間 授 業 計 画	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. 表計算入門 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷（1） 3. 表計算入門 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷（2） 4. 表計算入門 表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷（3） 5. データベースの操作 データベースの作成・整備、データの検索・抽出（1） 6. データベースの操作 データベースの作成・整備、データの検索・抽出（2） 7. データベースの操作 データベースの作成・整備、データの検索・抽出（3） 8. インターネット 情報の収集と活用（1） 9. インターネット 情報の収集と活用（2） 10. インターネット 情報の収集と活用（3） 11. 総合演習（1） 12. 総合演習（2）		

科 目 名	情報科学各論 (HTML 入門)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------------	------	-----------

講義の目標	< 外国語学部コンピュータ科目レベル = 1 > この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する上位科目 (レベル 1) です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。		
講義概要	この授業では、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学びます。また、簡単な自分自身のホームページの試作もしてみます。		
使用教材	テキスト	授業で指示します。	
	参考文献	授業中、随時紹介します。	
評価方法	授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価します。		
受講者に対する要望など	「コンピュータ入門」修了者か、または、それと同等程度のもをを対象とします。教室のコンピュータの台数にあわせて受講者を選抜します。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW と WWW ブラウザ 3. ページの構造と HTML 4. ホームページの作成 - テキスト 5. ホームページの作成 - リンク 6. ホームページの作成 - イメージ 7. ホームページの作成 - サウンド 8. ホームページの作成 - テーブル 9. ホームページの作成 - その他 10. ネットワークにおけるフォルダ構造とファイル転送 11. ホームページの更新 12. インターネットと情報倫理 		

科 目 名	地域文化研究（現代英米社会研究）	担当者名	有 吉 広 介
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	英国社会を支えるミドルクラスの社会学的分析を通して、現代英国の社会構造および文化を理解する。		
講 義 概 要	かつてミドルクラスは英国資本主義社会をつくりだした歴史的主体・ブルジョアジーであった。そしてこの国の伝統と革新とを独特な方法で調和させて近代の英国社会を生みだした。現代英国のミドルクラスは、19世紀末における経営者革命や官僚機構の発達に起源をおく専門経営者層、中間管理者層、専門技術者層、および大量の事務員層からなるホワイトカラー階級である。この階級の中核をなす人々は、家庭生活のなかでミドルクラスの文化を体得したうえで、英国の独特な教育システムを通して社会に送り出されて、英国の社会と文化とを支えている。本講義では、英国人の生活と文化とを読み取ってもらいたい。		
使 用 教 材	テキスト	プリントを渡す。	
	参考文献		
評 価 方 法	前・後期の終わりに求めるレポートにて評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義に出席し、そこで要点を把握すること。		

年
間
授
業
計
画

1. 英国におけるミドルクラスの現状
2. 産業革命前後のミドルクラス
3. 古典的ミドルクラスの性格
4. 前回に続く
5. 古典的ミドルクラスの文化
6. 新しいミドルクラスの出現
7. 現代におけるブルジョア階級の衰退
8. 専門経営層の確立
9. 前回に続く
10. 中間管理者層の出現と社会的地位
11. 前回に続く
12. 新旧の専門家層
13. 前回に続く
14. 実業家層の現状
15. 事務労働者の階級状況
16. 前回に続く
17. ミドルクラスの家庭生活
18. 前回に続く
19. ミドルクラスと教育
20. 前回に続く
21. ミドルクラスと余暇
22. ミドルクラスの政治的関心
23. ミドルクラスと政治リーダー
24. まとめ

科 目 名	地域文化研究（日本の民俗芸能）	担当者名	飯 島 一 彦
-------	-----------------	------	---------

講 義 の 目 標	日本人の生活の中に息づく芸能、すなわち民俗芸能は、現在でも日本の各地で伝承され演じられている。そこでは、長い年月の中で培われた日本の民衆の生活感覚や価値観が、現在でも濃厚に感じ取れる。表面的にはアメリカナイズされたごとくに見えて、モダンな我々日本人の生活は、実は、一皮めくれば千数百年以前の日本人の精神生活と同質の原理によって、多くは支配されているのだが、それを体感的知識として手に入れ、考えることを目標とする。		
講 義 概 要	私が現地で取材し、実写したビデオを中心にして、民俗芸能の映像を見ながら、それを題材とした講義を進める。常日頃のフィールドワークの成果をもとにするので、扱った民俗芸能自体は未定である。前期中に、クラスでフィールドワークを行なう。また夏期休暇中には各自のフィールドワークを課する。後期は、それをもとに発表形式の授業をする。		
使 用 教 材	テキスト	・『日本の伝統芸能』錦正社	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・『日本歴史と芸能』平凡社 ・『芸能の原風景』みづき書房 ・その他、教室で指示する。 	
評 価 方 法	夏期休暇中のフィールドワークのレポート、及び冬期休暇中の課題レポート。提出しない者は評価の対象としない。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業の一環として行なうクラスのフィールドワークに必ず参加すること。もちろん各自のフィールドワークもしなければならぬので、手間暇を惜しまず身体を動かし、文献を読み、調査する根気と体力が必要。		

年 間 授 業 計 画	1. 授業ガイダンス、民俗藝能とは
	2. 民俗藝能とは
	3. }
	4. }
	5. }
	6. }
	7. }
	8. }
	9. }
	10. }
	11. }
	12. }
	13. 前期中に1回、課外でフィールドワークを行なう。
	14. 夏期課題(各自のフィールドワーク)について、各自報告。
	15. }
	16. }
	17. }
	18. }
	19. }
	20. }
	21. }
	22. }
	23. }
	24. 一年間のまとめ。

時宜に応じて、ビデオを用いて講義。

時宜に応じて、ビデオ等を用いて、講義又は発表。

科 目 名	地域文化研究（スペイン：歴史と文化）	担当者名	野々山 ミチコ
-------	--------------------	------	---------

講義の目標	闘牛とフラメンコの国だけではないスペインの実像にさまざまな側面からせまる。 スペイン語を学ぶ人々とはりわけスペインを正しく理解して語学の学習をいっそう有意義なものとしてほしい。前期はビデオを使用して、イメージの形成の一助とする。		
講義概要	前期はスペインの歴史をトピックにわけて学ぶ。 後期は現代スペインの社会問題にスポットをあてる。		
使用教材	テキスト	野々山 真輝帆著「すがおのスペイン文化史」東洋書店	
	参考文献	斎藤 孝編「スペイン・ポルトガル現代史」山川出版社 野々山 真輝帆著「アミーゴとつきあう法」晶文社	
評価方法	テスト		
受講者に対する要望など	外国を知ることによって自分の国について問題意識を持ってほしい。		
年間授業計画	1. スペインは陽気な国か？ 2. アンダルシアの魅力 3. アンダルシアの魅力 フラメンコ 4. アンダルシアの魅力 聖母マリア崇拜 5. " 6. レコンキスタ（国土再征服）の持つ意味 7. イスラム文化と女性 8. 結婚式・クリスマスの祝い方 9. 死と葬儀 10. " 11. アモール 18世紀の制度化した不倫 12. アモール フランコ時代の恋愛 13. 現代スペイン フランコ以後の価値観 宗教 14. " 女性 15. " " 16. ファンカルロス国王 17. スペインの若者 18. " 19. 麻薬問題 20. カタルニア 21. バスク 22. 老人問題 23. 映画 24. "		

科目名	地域文化研究(エピソードから考える韓国の歴史)	担当者名	朴 聖 雨
-----	-------------------------	------	-------

講義の目標	韓国人の生活や文化には5千年に近い歳月にわたる大陸諸国家や南方の日本との交流の中で育まれてきた奥深く秘められた独特の知恵とアイデアとパワーがある。本講義では韓国の国家成立時代から今日にいたる歴史を人物や事件等の具体的な実例やエピソードを紹介することで秘められた知恵やアイデアやパワーを体得させることを目的とします。		
講義概要	古朝鮮時代から三国時代、統一新羅時代、高麗時代、朝鮮時代、日本の植民地時代、大韓民国時代において、それぞれの時代を象徴する人物の事績や事件、発明、発見、国難克服物語等を中心にビデオ等映像資料を用いながら学習します。		
使用教材	テキスト	ソンミョンホ著『物語韓国史』(ソウル芸林堂) 1990、を翻訳しプリント配布	
	参考文献	『韓国人の情緒構造』、李圭泰著、尹淑姫他訳 新潮社、1996	
評価方法	毎時間の学習過程評価、出席状況、期末テストを総合して判定します。		
受講者に対する要望など	隣国である韓国の長い歴史は様々な卓越した人物を輩出してきました。その人物の知恵や意気をぜひ学んでいただきたいです。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 天神(ファンウン)の降臨と熊女との結婚による壇君始祖の誕生と朝鮮の開国。 2. 古朝鮮の八条の禁法(捉・おきて)と天を祭る行事 3. 中国漢の7代皇帝武帝の侵略に対する抗戦と楽浪文化の浸透 4. 高句麗始祖朱蒙の名弓と魚の群れが橋をなして軍隊を渡してくれる。乙支文徳將軍が隋の大軍を破る。 5. 百済の始祖温祚王の誕生と開国、近肖古王時代の日本への文化伝承 6. 新羅の始祖朴赫居世の卵生物語と新羅の「花郎道」の世俗五戒花郎官昌の壮烈な最後と三国統一、太宗武烈王の海中陵 7. 新羅の詩文「郷歌」の作品鑑賞 8. 新羅の巨人、元暁大僧正と黄巢の反乱を檄文で声討した崔到遠 9. 高麗太祖王建の人間度量の大きさと仏教による国家の鎮護 契丹、蒙古の侵略撃退と八万大蔵経、高麗磁器の秘密 10. " 11. 李成桂による近世朝鮮建国と無学大師の風水観でのソウル開都 12. 世宗大王の国家安保の拡充政策とハングル創製をはじめとする文化の高揚 13. 死をもって忠誠を尽くす、死六臣の壮烈な最後と儒教の教え 14. 朝鮮の儒教の文化と家庭道徳の基本となる「三綱五倫」 李朝白磁の優秀さ 15. 壬辰倭乱を克服した義兵の忠節 16. 清の侵略に対抗した儒士の心意気 17. 実学者群の出現と「実事求是」の活性化運動 18. 東学民衆革命運動と甲午更張 19. 日本の侵略と植民地下の解放運動 大韓民国臨時政府(上海)の樹立と安重根の活躍 20. 3.1独立運動の展開 21. 8.15の民族解放と大韓民国政府樹立 22. 朝鮮戦争の勃発と民族再生の努力 23. 朴正熙の祖国中興と近代化政策 24. 1988年のオリンピック開催とそれ以降の韓国 		

科 目 名	地域文化研究 (中洋(ネパール・インド・チベット)の社会と文化)	担当者名	三 本 茂
-------	-------------------------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>よく世界の文化を「西洋」と「東洋」の二つの地域に分け比較したりするが、両者の間にはそのいずれも属さない「中洋」とでも呼ばれるべき特有の文化を持つ広大な地域が広がっている。</p> <p>中洋はほぼトルコからバングラディシュあたりまでの地域を含んでいるが、担当者が訪れたことのあるネパール、インド、チベットの社会と文化の特徴を紹介し、それぞれの地域を結びつけている要因についても触れたい。</p> <p>また、地域文化間の交流のあり方についても考えてみたい。出来るだけ日本の社会と文化に関連付けながら述べたいと考えている。</p> <p>また、地域間の交流のひとつの形としての探検の事例についても触れる予定である。</p>		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参 考 文 献	必要に応じて紹介する。	
評 価 方 法	原則的には前期に提出するレポートと後期の筆記試験の結果を併せて評価するが、そのほかにレポートの提出を求めることもある。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	自分の体験や計画、興味のあることなどを授業で皆に伝えてもらいたい。		

1. 中洋の国々で出会ったこと、考えさせられたこと。
2. ネパールの歴史
3. - 5. ネパールの社会構造
6. ネパールの文化
7. ネパールの宗教
8. - 10. インドの歴史
11. インドの社会構造
12. インドの文化
13. 14. インドの宗教
15. 16. チベットの歴史
17. 18. チベットの社会構造
19. チベットの文化
20. - 22. チベットの宗教
23. 三つの地域文化を結ぶもの
24. 文化交流としての探検

科 目 名	比較文化論特殊講義A（カリブ海域の民族と文化）	担当者名	井 上 兼 行
-------	-------------------------	------	---------

講義の目標	日本からは、政治、経済、文化などあらゆる面で最も遠い位置にあるカリブ海域の民族と文化について、その特質をおおよそ知る。		
講義概要	カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもち、それを基礎に民族と文化が築かれている。そこで歴史をある程度時間をかけて明らかにし、その上に築かれた民族及び、文化の一つである言語について述べ、さらに他の文化についても言及して、その特徴や現代における問題点を探ってゆく。この間、ごく少数ではあるが、話の脈絡に沿った形でビデオを見てもらい、カリブ海域のイメージを把んでもらうようにする。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	登録者数による。ごく少数ならレポートのみでということもありうるが、基本的には、試験を行って評価する。10～30人規模なら、授業中での試験を加えることもある。		
受講者に対する要望など	なるべく2年生以上、また文化人類学の単位を取っていることが望ましい。		
年間授業計画	1. 序 - カリブ海域概観 2. 歴史 - (1) コロンブス到来。スペイン人による支配。 3. " (2) 16C 後半、英、仏などの新興勢力の侵入、植民地化。 4. " (3) 17C～18C 後半、砂糖きびプランテーションを通じての植民地の繁栄。 5. " (4) 砂糖貿易衰退、奴隷勢力の伸長、その一つの象徴としてのハイチ独立。 6. " (5) 19C 前半からの奴隷制廃止。外国からの労働力輸入。そして複雑な民族社会へ。 7. 民族構成からみたカリブ海域社会 (1) 8. " (2) 9. " (3) 10. " (4) 11. " (5) 12. 複雑な言語、また複雑な言語構成 (1) 13. " (2) 14. " (3) 15. " (4) 16. 以降は文化の各論である。テーマは未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24.		

科 目 名	比較文化論特殊講義A（東西文化比較）	担当者名	近 衛 秀 健
-------	--------------------	------	---------

講義の目標	われわれ日本人は140年前、従来の生活の仕組を捨ててヨーロッパの方式を急速にとり入れた。その後も色々あったが、50年前のアメリカ占領軍による制度改革とそれに対する反応は更に混乱を招ねている。われわれは1999年にこの日本で生活しなければならない。われわれはこの社会体制の何を理解し、何を誤解しているのだろうか。その中で精神生活はどうなっているのだろうか。皆でこれを考えていきたい。		
講義概要	毎日の情報から特徴あるものを取り出し、これに関する論評や、更に同じ事件の日本と主としてヨーロッパ（分派としてのアメリカを含む）との反応の違い、そこにみえてくる民族性の相違等を考えていきたい。又、毎日のNEWSはその日のTopicに限定され、事の継続性がおざなりにされている。これも追跡していこう。		
使用教材	テキスト	時折り、配布する。後日の請求には応じない。	
	参考文献		
評価方法	年二回りレポートを課す。他随時短いものを課すかも知れない。		
受講者に対する要望など	自分に興味あること、友人との話題になることその他にも世の中には色々なものがあることに気が付いて欲しい。		
年間授業計画	毎日の新聞（が多いと思う）の話題から出発、東西のものの見方の違い、そこから来る文化の相異と、その理解について話を進めて行く。		

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (ユダヤ教の歴史)	担当者名	高 橋 正 男
-------	-----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>唯一神<small>ゆいいつしん</small>ヤハウェ信仰を民族共同体存続の基本原理とするユダヤ人という名を冠せられる宗教的・民族的共同体は紀元前 6 世紀のバビロニア捕囚をとおして初めて成立し今日に至っている。したがってバビロニア捕囚前のヤハウェ信仰(古代イスラエルの宗教)をユダヤ教と呼ぶことは誤りである。本年度はユダヤ教の歴史にかかわる諸問題を多面的・立体的に理解させることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>唯一神教ユダヤ教の歴史にかかわる諸問題を時間の許す範囲で古代から現代までを扱う。講義は平明・概説的・重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・滝川義人著『ユダヤを知る事典』東京堂出版、1994 年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』(第 4 刷)時事通信社、1999 年 	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』時事通信社、1999 年 ・石田友雄著『ユダヤ教の歴史』(世界宗教史叢書 4)山川出版社、1980 年 ・吉見崇一編『ユダヤ教小辞典』リトン、1997 年 ・滝川義人著『ユダヤ解読のキーワード』(新潮選書)新潮社、1998 年 ・他随時紹介する。 	
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末のレポートもしくは筆記試験によって決める。小人数の場合はゼミナール形式で行う。 ・講義資料(年間約 50 枚)等は出席者のみに配布する。 		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユダヤ教・キリスト教・イスラーム(教) 2. ユダヤ人とは誰か 3. 日本人とユダヤ人、日本におけるユダヤ教史研究瞥見 4. 日本人とユダヤ人誤解の三点セットーユダヤ人の経済力・ユダヤ人の陰謀・日猶同祖論ー 5. ユダヤ教史研究の基本史料 6. 古代イスラエルの宗教（１）ー父祖アブラハムからバビロニア捕囚までー 7. 古代イスラエルの宗教（２） 8. ヤハウエ信仰の継承ーユダヤ人共同体の成立ー 9. ラビのユダヤ教（１）ーヘレニズムとの対決ー 10. ラビのユダヤ教（２）ーローマ帝国との対決ー 11. ユダヤ教の諸党派（１）ーサドカイ派・パリサイ派・エッセネ派・他ー 12. 前期まとめ・VIDEO 13. ユダヤ教の諸党派（２） 14. ユダヤ教暦と儀礼 15. クムラン宗教集団 16. ユダヤ人の食文化を禅食文化との比較 17. ユダヤ教の展開（１）ー離散時代ー 18. ユダヤ教の展開（２）ー異郷における圧制と迫害の時代ー 19. シオニズム(ツィオニズム)（１）ー運動の発端からイスラエル建国までー 20. シオニズム（２） 21. イスラエル建国・生存のための闘い 22. 現代ユダヤ人社会の諸問題（１）ーアメリカ・ヨーロッパ・アフリカ中東・他ー 23. 現代ユダヤ人社会の諸問題（２） 24. 後期まとめ・VIDEO
----------------------------	--

科目名	比較文化論特講 A (ラテンアメリカとアメリカ合衆国)	担当者名	佐藤 勘 治
-----	-----------------------------	------	--------

講義の目標	アメリカ合衆国におけるラティーノ(ラテンアメリカ系住民)人口は、まもなく黒人人口を超え、最大のマイノリティーになるといわれている。メキシコにおいても、1994年「北米自由貿易協定」発効以降、アメリカ合衆国との経済関係は一体化が進んでいる。同じ新世界に登場した二つの文化は、全く質を異にするものと考えられているのが普通だが、この二つの文化は、融合していくのだろうか。米国とラテンアメリカの関係史を論じることで、上記の問題を考えたい。		
講義概要	前期では問題意識の共有をはかるため導入の授業をおこなった上で、米国とラテンアメリカとの関係を歴史的に概観していく。後期では、メキシコと米国の国境地帯形成史を論じ、文化共存、文化融合について、受講者とともに考えたい。授業では、ビデオ映像、音楽、新聞記事をふんだんに使って、受講者の知識の増強をはかるほか、参加型の授業(昨年度の地域文化論では実現できなかった)も何回か試みたいと思う。		
使用教材	テキスト	授業中にプリントを配る	
	参考文献		
評価方法	授業中の発言、授業での発表およびレポート		
受講者に対する要望など	ラテンアメリカ・カリブ海地域入門の授業であった昨年度の地域文化論(ラテンアメリカ)の受講者の履修を歓迎する。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.(導入1) シラバスの説明 2.(導入2) 米メキシコ国境地帯の現状/ビデオ「国境紀行:ティファナ」 3.(導入3) 米メキシコ国境地帯の現状/ビデオ「米国の言語事情」スパングリッシュなど 4.(導入4) ラテンアメリカにとっての米国/映画「ウオーカー」ニカラグア大統領になった米国人 5.(導入5) プエルトリコ=米国の内なるラテンアメリカ 6. 討論 7. 米・ラテンアメリカ関係史1 米西キューバ戦争/カリブ海での覇権 8. 米・ラテンアメリカ関係史2 パナマ建国と運河建設 9. 米・ラテンアメリカ関係史3 マイアミ/キューバ革命と米国 10. 米・ラテンアメリカ関係史4 チリ・ニカラグア革命と米国 11. 討論 12. 予備 13. 米メキシコ国境地帯形成史1 「占領下のメキシコ」:テキサス独立 14. 米メキシコ国境地帯形成史2 米メキシコ戦争/カリフォルニア・アリゾナの形成過程 15. 米メキシコ国境地帯形成史3 メキシコ北部への米資本進出 16. 米メキシコ国境地帯形成史4 メキシコ革命と米国:メキシコ性の追求 17. 米メキシコ国境地帯形成史5 人の移動/「北米自由貿易協定」の意味すること 18. 討論 19. 米メキシコ国境地帯論1 アストランとチカーノ文化 20. 米メキシコ国境地帯論2 ニューメキシコの混合文化:ルドルフォ・アナヤなど 21. 米メキシコ国境地帯論3 創り出されるメキシコ性:ティファナ 22. 米メキシコ国境地帯論4 メキシコ北部の米化 23. 討論 24. 予備 		

科 目 名	比較文化論特殊講義A (能楽における中世武士の諸像)	担当者名	瀬 尾 菊 次
-------	-------------------------------	------	---------

講義の目標	中世に日本で誕生した能楽がそれ以後の日本の芸能にどのような影響を与えていったかを能の全体像を解明しながら考察する。また作品を通して日本史との接点をはかり、昔からの生活習慣・年中行事など日本人の風習も考察していく。		
講義概要	悲劇のヒーローとして膾炙されている源義経を主人公としてドラマ化された能「安宅」が歌舞伎・映画ではどのように表現されているかをビデオ鑑賞をとり入れながら比較していく。		
使用教材	テキスト	関連資料のコピーを配布	
	参考文献	紹介資料を配布	
評価方法	前期(能の史跡現地取材)・後期(講義まとめ)・舞台鑑賞 以上三点のレポートによる。		
受講者に対する要望など	講義による学問的解釈にとどまらないため能楽堂での見学鑑賞を体験してもらう。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年間講義のあらまし 2. 能の概説 3. 能楽のながれ 4. 能楽を演じる各役 5. 能舞台について 6. 年中行事(五節句)のはなし 7. 能の現行曲 8. 源義経の生涯を時代背景 その1 9. 源義経の生涯を時代背景 その2 10. 能のなかの義経 11. 能「安宅」の解釈と鑑賞 その1 本文解釈 12. " その2 舞台展開 13. " その3 ビデオによる鑑賞 14. 能を題材にした歌舞伎 15. 歌舞伎「勸進帳」の鑑賞(ビデオ) 16. 黒沢明監督作品による「安宅」(ビデオ) 17. 能「安宅」ビデオ鑑賞による再検討 18. 狂言に登場する山伏 19. 日本人の儀礼 その1 20. 能の作品構成・夢幻能と現在能 21. 夢幻能の解釈と鑑賞 その1 22. 夢幻能の解釈と鑑賞 その2 23. 日本人の儀礼 その2 24. まとめ 		

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (比較教育)	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>教育事象を比較と関係から考察し、各国や文化圏における教育を基本から支えている多様な特質を明らかにすることを目的とする。また今日の日本の教育課題を国際的視野の中で検討し、多様な現象の根底にひそむ普遍的な問題を把握することにも留意する。</p>		
講 義 概 要	<p>比較教育についての理解を深めるため、研究の目的、内容、方法等について話す。またアメリカ、フランス、イギリス、ドイツ各国の教育と文化の特質について明らかにし、日本との比較をすることで両国間の教育、及び欧米の教育との相違について理解を深める。</p> <p>後半は今日の教育課題について(カリキュラムや教授法、女性と教育、いじめ等)国際比較をし、問題の本質を分析して一定の傾向性を把握することにつとめる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	<p>権藤與志夫編著『二十一世紀をめざす世界の教育 - 理念・制度・実践』(九州大学出版会、1994年)</p> <p>石附実著『教育の比較文化誌』(玉川大学出版部、1995年)</p> <p>レ・タン・コイ著(前平泰史他訳)『比較教育学 - グローバルな視座を求めて』(行路社、1991年)</p>	
評 価 方 法	<p>前期と後期、2回のレポート提出を条件とする。</p> <p>討議における小レポートの提出も条件とする。</p> <p>これらのレポートを総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>教育と文化への関心をもつ人の参加を期待する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 比較教育学の概念</p> <p>2. 教育事象の国際比較研究の歩み</p> <p>3. 比較教育研究の現在</p> <p>4. アメリカの教育と日本の教育の比較 (1) 多様性と教育</p> <p>5. " " (2) 教育文化の比較</p> <p>6. イギリスの教育と日本の教育の比較 (1) 「自由」と「個性」の伝統</p> <p>7. " " (2) 教育改革の比較</p> <p>8. ドイツの教育と日本の教育の比較 (1) 文化連邦主義の伝統</p> <p>9. " " (2) 学校・家庭・地域社会の比較</p> <p>10. フランスの教育と日本の教育の比較 (1) 知性主義の伝統</p> <p>11. " " (2) 教育のシステムの比較</p> <p>12. 討議...各国との比較で明らかになった日本の教育について</p> <p>13. カリキュラムの国際比較 (1) アメリカ・イギリスと日本の比較</p> <p>14. " (2) 総合学習のカリキュラム</p> <p>15. 教育の方法の国際比較 (1) 日本とアメリカの授業比較</p> <p>16. " (2) 文字の教育方法と声の教育方法</p> <p>17. いじめ問題の国際比較 (1) データ比較からの視点</p> <p>18. " (2) 社会の深層からの視点</p> <p>19. 女性と教育の国際比較 (1) 各国の文化と伝統による女性の教育</p> <p>20. " (2) 国際的動向と女性の教育</p> <p>21. 討議...カリキュラムの国際比較から明らかになる本質的な問題と日本の課題</p> <p>22. 討議...教育方法の国際比較から明らかになる本質的な問題と日本の課題</p> <p>23. 討議...いじめの国際比較から明らかになる本質的な問題と日本の課題</p> <p>24. 討議...女性と教育の国際比較から明らかになる本質的な問題と日本の課題</p>
----------------------------	---

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (神話・説話の世界)	担当者名	肥田野 昌 之
-------	--------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	『古事記』『日本書紀』『風土記』『日本霊異記』などの古文獻をよみながら、古代の神話や説話について概観する。そして古代人の豊かな心をさぐるとともに、その文学的特質を考え、また日本周辺の神話・説話からさらにギリシア神話など世界各国の神話との類似性や世界大拡布の説話との関連性についても言及したい。		
講 義 概 要	前期は主として、黄泉国訪問・天の石屋戸・ヤマタのオロチ退治・海幸山幸などの神話について、古代祭や氏族伝承の問題などと関係させて解説したい。 後期には、昔話「蛇髻入」「鳥女房」と親近な関連にある三輪山型説話や羽衣説話など異類婚姻譚といわれるものを中心にして広く伝説や仏教説話について考察してみたい。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	阿蘇瑞枝他校註『古代説話』笠間書院	
	参 考 文 献	西郷信綱『古事記の世界』(岩波新書)	
評 価 方 法	授業への出席および年度末試験によって決定する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. 文献以前の歴史を概観するとともに、年間の講義概要を説明する。
2. 天地創造の神話 - 記紀を中心として、世界の創成神話についても言及する。
3. 黄泉国訪問 - オルベウス型との比較や呪的逃亡譚について。
4. 天の石屋戸神話 - 特に鎮魂祭儀礼との関連について。
5. 八俣大蛇退治 - ペルセウス・アンドロメダ型との比較や生贄伝説について。
6. 大国主神の神話 - 通過儀礼および死と復活・ジェソン型について考える。
7. 天若日子神話 - ニムロドの矢との関連および招魂の歌舞など。
8. 国譲りと天孫降臨 - 神々と神社について述べ、大嘗祭との関連についてもふれる。
9. 木花之佐久夜毘売 - 聖婚儀礼について考え、また世界各地の死の起源譚についても考える。
10. 海佐知昆古と山佐知昆古その - 失われた釣針型との比較や隼人舞の起源について
11. 海佐知昆古と山佐知昆古その - 蛇女房・竜女伝説との関連について。
12. 日本神話のまとめとして、その構造・特色や天孫系・出雲系あるいは北方系・南方系などについても考える。
13. 異類婚姻譚その - 三輪山型と昔話「蛇喰入」について。
14. 異類婚姻譚その - 丹塗矢型（賀茂社縁起）および蟹満寺縁起など。
15. 異類婚姻譚その - 羽衣説話（白鳥処女説話）と天人女房・鶴女房など。
16. 異類婚姻譚その - 浦島説話や竜宮女房や亀女房および信田妻・文化稲荷と狐女房・芦屋道満大内鑑など。
17. 沙本毘古と沙本毘売 - ヒメヒコ制やヲナリ信仰などについても説明する。
18. 倭建命 - 異常誕生・怪力・クマソ退治・悲劇的末路・神への転生など貴種流離譚との関連でも考える。
19. 天之日矛 - 日光感精説話や卵生説話について述べ、百濟・新羅・高句麗や中国説話との関連についても考える。
20. 赤猪子 - 赤猪子説話と皿々山説話について述べ、その歌謡についても考える。
21. 筑波と富士・蘇民将来 - 祖神巡行説話・外来者歓待譚および祇園社縁起について。
22. まとめとしてプリント四枚を配布し、年度末試験についての出題傾向とその対策を説明する。
23. 道場法師譚および力女譚について - 異常出生・異常な怪力・鬼退治など金太郎説話・桃太郎説話との類似についても考える。
24. 仏教説話 - 善悪現報を得る話など。

科 目 名	比較文化論特殊講義 A (古代ギリシャ社会における日常生活)	担当者名	古 川 堅 治
-------	-----------------------------------	------	---------

講義の目標	本年度は「古代ギリシア人の市民生活 ～生と死と～」と題し、都市国家（ポリス）アテナイの人々の日常生活をとくに生と死の視点から取り上げることによって、古代ギリシア社会の特質を考えてみたい。そのことはとりもなおさず、現代社会の特質をもその相違性において把え返すことにもつながる。そのようなパースペクティブの中で歴史を考えることが本講座の目的である。		
講義概要	講義は概説的に進めていくが、関係するテーマのビデオ、CD・LD、歴史小説などの映像資料や小説を使って理解を深める一助にしたい。毎回できるだけテーマごとに課題を設定して考えていくようにする。この講座は、記憶するとか、暗記するとかというものではないので、アト・ホームな雰囲気、自らの考え、感想などが自発的にわき上がるように期待する。		
使用教材	テキスト	特に使用することはない	
	参考文献	その都度指摘する	
評価方法	前・後期二回のレポートと数回の小レポートで評価。テーマ、枚数、〆切日等については、授業中に提示する。		
受講者に対する要望など	主体的、積極的な姿勢で参加してくれることを望む。		
年間授業計画	1. 「はじめに」 1 年間授業計画の概要 2 「日常生活史」の意義 2. (1) ポリスの構造 3. 1) 空間構造 2) 社会構造 4. (2) アゴラでの市民生活 1) 政治生活（政治活動、弁論術と裁判） 5. 2) 経済生活（市場、経済活動） 6. 3) 宗教生活（宗教と祭典） ディオニュシア祭（春の祭典 デイオニュシア祭と演劇） パンアテナイア祭（夏の祭典 パンアテナイア祭と市民の国家意識） 7. (3) 誕生（女性と子供） 8. (4) 市民の諸義務（戦争と政治） 9. (5) 結婚 婚約と結婚準備 10. 結婚式とその後 11. 結婚生活 12. 女の生活 13. 男の生活 14. 愛の諸様相 15. (6) アテナイ民主政と「帝国主義」 16. 1) 民主政の成立 17. 2) 民主政の構造 18. 3) デロス同盟とアテナイ帝国主義 19. 4) 支配の論理と抵抗の論理 20. (7) 死 葬礼と埋葬（葬礼演説） 21. 墓と墓碑 22. 相続をめぐる問題 23. 死生観 24. 「まとめ：一年間の総括」		

科 目 名	比較文化論特殊講義A（日韓文化事例の比較）	担当者名	朴 聖 雨
-------	-----------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>異文化の相互理解は国際社会の平和と安全保障に欠かせない要件であります。ただ異文化の正しい「理解」や「知識」はなによりもまず自文化（日本）を相対化し異文化（外国）と対等に比較・分析することを通じて得られるものです。</p> <p>本科目では日本文化（自文化）と韓国文化（異文化）の具体的事例を比較・考察することを中心に、相互依存の深まるグローバル社会をより深く理解する方法を身につけ、日本と韓国の文化の真のあり方を明らかにします。</p>		
講 義 概 要	<p>日韓両国の古代から現在にいたる次の共通事項をとりあげ対照吟味します。(1)日韓の神話の特徴の比較、(2)外来文化の受け入れ方の違い、(3)民話や伝統の相違、(4)詩歌・文芸・娯楽、(5)武士道と花郎道、(6)家、学校、会社、社会、国家のあり方、(7)衣・食・住、(8)経営と経済、(9)村八分と郷約、(10)対外交渉、(11)政治のしくみなどについて比較文化的手法で考察します。</p>		
使 用 教 材	テキスト	日韓間の文化比較の諸資料をプリントにして配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・李瑜煥著『韓国から見た日本文化』 五月書房、1991年 ・新田義之編『文化の諸相 - 比較文化を学ぶために』 大学教育出版、1997年 ・奥野弘著『カンヌマリコワヤ』 幻想社、1998年 ・種村完司他著『豊かな日本の病理』 青木書店、1996年 ・日本と韓国の習俗や行事に関するビデオ集 	
評 価 方 法	毎時間の過程評価、出席状況、期末テスト等を総合して判定します。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>具体的な事例を中心に考察をすすめて行くが、とくに日本人や日本社会の古くからの習俗やタブー、月並みな言動やしぐさなどについてその意義や意味を考え直してほしい。</p>		

科 目 名	比較文化論特殊講義A（アラブ文化・芸術）	担当者名	本 田 孝 一
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、アラブ文化、特にアラブの芸術を中心に、その特性を考えることを目的とします。またある意味で両端にあるともいえる日本文化とアラブ文化との対比を通して、21世紀の国際化時代の中で異文化間でどう共生していかなければならないかを考えます。</p>		
講 義 概 要	<p>講師の長年にわたるアラブとの関わり、特に講師のアラビア書道家としての活動を通して得た体験を中心にお話しします。また授業には映像（ビデオ、スライド等）を多用する予定。</p>		
使 用 教 材	テキスト	特にありません。	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。（できたら、それを受講生全員参加の作文集として一冊の本にまとめて印刷する予定です。有料）</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>本講座は人数的に多いことを望みません。具体的にはオリエンテーションの最初の時間に教室（中教室）の席に座れる人数だけを原則とします。受講したい人はその時間に早めに来て下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. Introduction
	2. アラブ全体について、「アラブとは何か」を考えます。
	3. アラブの言語であり、イスラム教の言語でもあるアラビア語について考察します。
	4. アラブの衣食住研究（1）
	5. アラブの衣食住研究（2）
	6. アラブの衣食住研究（3）
	7. アラブ文化の源である砂漠的文化について、その住民であるベトウインの生活を紹介します。
	8. 講師のサウジアラビア砂漠での体験を話します。
	9. アラブの芸術全体について、その特性を考えます。
	10. アラブ宗教である「イスラム教」について、その誕生の意味や教義について講師の実体験からお話します。
	11. 映画「アラビアのロレンス」を観ながらアラブと西欧の考え方の違いを探ります。
	12. 「アラビアのロレンス」の中でロレンスの実像と虚像を探り、彼のアウトサイダー的側面を考えます。
	13. アラブ芸術の中で最も中心的な位置を占めているアラビア書道芸術の入門（1）
	14. " (2)
	15. " (3)
	16. アラブの装飾美術（トルコやベルシャの細密画など）を鑑賞し、それが持っている意味を探ります。
	17. エジプト映画「バイナル・カスライン」（エジプトのノーベル賞受賞の小説）を観ながらアラブ社会のあり方を考察します。（1）
	18. " (2)
	19. " (3)
	20. 今世紀が生んだアラブ文学の異色作家、詩人であるハリール・ジブラーンについて、彼の代表作『プロフェット』（預言者）を通して紹介します。（1）
	21. " (2)
	22. アラブと関わりの深かった『星の王子さま』の著者、サン・テグジュペリについて、彼の代表作の一つ『人間の大地』を通して考察します。
	23. 受講生の作文集作成の準備。
	24. まとめ、講師自身のアラブとの、書道芸術を通しての将来的関わりをお話します。

科目名	日本語学概論	担当者名	金田一 秀 穂
-----	--------	------	---------

講義の目標	<p>母語である日本語を客観化するための視座を提供すること。日本語は、私たちの思考や感情を決定しているものかもしれない。その可能性や限界を少しでも明らかにしたい。</p> <p>ふだんの生活の中で言葉を使っている、それが講義の後で、ほんの少しでも違って感じられるようになったらいいな、と思います。</p>		
講義概要	<p>音声、語彙、文法と意味について各外国語との対照も適宜行う。意見や考えを求めながら、基本的な知識と、その応用的考え方を紹介したい。出発であり、まとめでありたい。</p>		
使用教材	テキスト	使用せず	
	参考文献	玉村文郎編 日本語を学ぶ人のために 世界思想社 工藤浩ほか 日本語要説 ひつじ書房 林大編 図説日本語 角川書店(古書)	
評価方法	後期レポートを予定。		
受講者に対する要望など	豊かな好奇心と柔軟な発想をもち、活発に発言してくれることを期待します。		
年間授業計画	1. 日本語の領域	国語学・言語学・共時態・通時態	
	2. 音声	シニフィアン・シニフィエ・拍(モーラ)の種類、数	
	3. 音声	モーラの構成・アクセントと弁別素	
	4. 音声	音声と意味・実現形	
	5. 語彙	一語意識・語彙の分類・出自	
	6. 語彙	外来語	
	7. 語彙	相対名詞・指示詞	
	8. 語彙	語構成・派生語	
	9. 語彙	数と語彙	
	10. 語彙	基本語彙・基礎語彙	
	11. 語彙	造語法・固有名詞	
	12. 語彙から文法へ	シンタックスと品詞	
	13. 文法	命題とモダリティー・コトとムード	
	14. 文法	格。ヴォイス 可能・受け身・使役	
	15. 文法	アスペクトモダリティー	
	16. 文法	文の種類	
	17. 意味	意味の分類	
	18. 意味	比喩	
	19. 意味	構造主義と認知意味論	
	20. 意味	発話の意味	
	21. 社会言語学	言語行動論の方法	
	22. 社会言語学	コードと発信者	
	23. 社会言語学	受信者と話題	
	24. 日本語教育	日本語教育の現在	

科 目 名	日本語教育概論	担当者名	井 口 厚 夫
-------	---------	------	---------

講義の目標	日本語教育とは何か、日本語教育に何が今起きているかを理解する。 日本語教師になる者だけを対象とした講義ではないので、語学教育や日本語を教えることに興味を持つ学生に広く受講してもらいたい。		
講義概要	このコースでは、日本語教育がどのようなものかを紹介し、概観する。併せて外国語教育に関連した諸々の問題にも触れる。 なお後期完結科目（週二回、4単位）として行うので、時間割をよく確認して履修すること。		
使用教材	テキスト	石田敏子「日本語教授法」大修館	
	参考文献	その都度指示。	
評価方法	気づきノート・レポート・後期試験の3つによって評価する。		
受講者に対する要望など	『日本語教授法』の前にこのコースを取ることが望ましい。日本語を外国人に教えることに興味を持つ者は、まずこの授業から入ること。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・日本語授業の実際 2. 日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育 3. 日本人なら日本語が教えられるか - 日本語と外国語（音） 4. 日本語と外国語（文法） 5. 日本語と外国語（文法2） 6. 君の日本語は大丈夫か - ら抜き言葉など 7. 日本語教育能力検定試験について 8. 辞書の話 9. 日本語学習者の姿・異文化理解とカルチャーショック 10. 日本語教育の歴史1（黎明～戦前） 11. 日本語教育の歴史2（戦後） 12. 教授法あれこれ - - その歴史的発展と特長 13. 教授法あれこれ - - その歴史的発展と特長 その2 14. 日本語教育の現状 15. 海外で教える・ケーススタディ 16. 海外で教える その2 17. 海外で教える その3 18. 外国人の日本語・外国人に通じる日本語 19. 日本語教師論1 20. 日本語教師論2 21. 日本語教育の抱える問題点 22. 日本語教育の将来 23. まとめ 24.（予備） 		

科 目 名	日本語教授法	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	--------	------	-----------

講 義 の 目 標	日本語教授法についての理解と実践的な方法を学ぶ。		
講 義 概 要	言語学習・習得理論、それに基づくさまざまな外国語教授法を紹介したのち、日本語教育に関し、教材開発、教案の書き方、教室活動のマネジメント、4技能のレベル別指導方法、評価方法、テストの作り方等、具体的に例を見せながら指導する。特に、言語教育には言語伝達能力の育成が重要であることを強調し、言語運用能力の教育を重視した教案・教材の作成を学習する。授業においてはグループワーク・ペアーを通じての言語教育の方法を理解且つ習得する。		
使 用 教 材	テキスト	中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ D.スタインバーグ 『言語心理学』 研究社 ・ A. C. Omaggio “Teaching Language in Context” ・ 名柄迪・茅野直子・中西家栄子 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルタ出版 ・ 『にほんごのきそ』、 - 教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ ピピアン・クック 米山朝二訳 『第2言語の学習と教授』研究社 	
評 価 方 法	1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%		
受 講 者 対 する 要 望 等	本クラスを取るまえに日本語教育概論又は日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。 <u>従って6回以上の欠席は認めない。</u>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の Variables 3. 言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い 4. 教材 - 1. 教科書の分析・教材・初級・中級の文型と語彙 2. その他の専門教材 5. 同上 6. 教室活動と授業分析・教案の書き方 7. 同上 8. 音声の指導法 (Video) と教材の作成 9. 聴解の教材作成と指導 1. 初級 2. 中級 3. 上級 10. 文字表記の指導と教材 1. 平仮名・片仮名の導入 2. 漢字圏・非漢字圏の学習者の指導 11. 同上 12. 同上 13. 読解力の育成 - 精読・スキミングと教材作成 1. 初級 2. 中級 3. 上級 14. 同上 15. 文法の指導と教材 - 意味と文型の導入 1. ドリルから応用へ 2. 絵教材・その他の教材の作成と検討 16. 同上 17. 同上 18. 会話指導と教材 19. 同上 20. Video 教材の紹介とその使用方法 21. 同上 22. 作文の指導法と評価の方法 23. 同上 24. 評価とテストの作成法
----------------------------	---

科 目 名	日本語教授法	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	--------	------	-----------

講義の目標	外国語としての日本語を教える方法を考え学ぶ。		
講義概要	日本語教育機関での実習を行うための完全に演習的な授業。従って、毎回学生による模擬授業が行われ、その授業観察を通じて、各人が授業内容、進め方、等について具体的に検討しあう。教案作成、様々な副教材の作成も科せられる。		
使用教材	テキスト	『しんにほんごのきそ 』・『しんにほんごのきそ ・教師用書』（スリーエーネットワーク）中級については未定。	
	参考文献	授業中に紹介する。	
評価方法	教案提出・模擬授業・教材発表 模擬授業（2回） 教材の提出 模擬授業の反省と自己分析 テストはなし 出席		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. オリエンテーション 2. 教材の研究・検討 3. 教案の書き方とオブザベーション 4. 模擬授業 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 中級における文法・表現項目 14. 教材の研究・検討 15. 模擬授業 16. 同上 17. 同上 18. 同上 19. 同上 20. 同上 21. 同上 22. 同上 23. 同上 24. 同上		

科 目 名	日本語文法論	担当者名	城 田 俊
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>伝統的な「助詞・助動詞論」に立って日本語の文法を把握しようとする江戸時代に開発された「活用」という概念に大きく頼らざるを得ない。そうなると、「未然形」という統一的理解が不可能な形態と「終止形」「命令形」という内容が明確な語形を混在させるところの「活用」とは一体何かという問題にぶつかる。しかし、この理解しにくい「活用」の概念なくしても日本文法の記述は可能である。可能というばかりではない。より明快な文法が現出する。</p>				
講 義 概 要	<p>下記のテキストに基本的に従い、日本文法の常識的知識を整理する。その上で、語のかたちという観点から、その意味・機能・用法をとらえるよう努める。特に、タペ\squareのような語尾のかたち、タベ$\underline{\text{サセ}}$(ル)のような語幹のかたち、<u>読ンデ</u> <u>イル</u>のような結合的なかたちの区別を学び、文法カテゴリー、テンス、アスペクト、ヴォイス、ムード、やり・もらい等の理解を深める。日本語の語尾形による体系、語幹の拡大によって示される文法形態の体系、語尾形と補助動詞との結合によって示される文法形態の体系をしっかりと把握する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td>城田 俊『日本語形態論』ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> 寺村秀夫『日本語のシンタクシスと意味』、 鈴木重幸『日本語文法形態論』むぎ書房 井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』パベル・プレス 吉川武時『日本語文法入門』アルク（NAFL選書6） </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	城田 俊『日本語形態論』ひつじ書房	参 考 文 献	寺村秀夫『日本語のシンタクシスと意味』、 鈴木重幸『日本語文法形態論』むぎ書房 井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』パベル・プレス 吉川武時『日本語文法入門』アルク（NAFL選書6）
テ キ ス ト	城田 俊『日本語形態論』ひつじ書房				
参 考 文 献	寺村秀夫『日本語のシンタクシスと意味』、 鈴木重幸『日本語文法形態論』むぎ書房 井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』パベル・プレス 吉川武時『日本語文法入門』アルク（NAFL選書6）				
評 価 方 法	<p>前期・後期定期試験期間中に一回試験を行う。授業態度も考慮する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>シラバスに記したものと授業とでは多少前後することがある。授業中受講者に質問することがある。積極的参加が望まれる。</p>				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：形態と形態論、文法的形態、文法形態の展望、ダロウと推量形、語の活用と文の活用、語尾活用と語幹活用 - 語尾形と語幹形、基本語幹活用と二次語幹活用、語的つらなり。 2. 文法的内容をとらえるめやす：ヒトと構成者 - 行為者・対象等、発話行為とその構成者 - 話し手・聞き手・第三者。語形：動詞と名詞、語彙語幹と助辞、語尾助辞と語幹助辞、子音語幹と母音語幹、結合子音と結合母音等。 3. 語尾形、語幹形、語幹形の語尾活用。語尾形：終止形 - 伝達話法と呼掛け話法、伝達話法 - 叙述語法と推量話法、叙述語法 - 現在形と過去形、推量話法。 4. 呼掛け話法 - 命令話法と意志・勧誘話法、命令話法（形成・意味・用法）、意志・勧誘話法（形成・意味・用法）、連用形：接続形（形成・意味・用法）、条件形（形成・意味・用法）、例示形（形成・意味・用法）。 5. 汎用形〔いわゆる連用形〕（形成・意味・接続形との競合、移動の目的表示、強調表現、二次語幹形のもととなる汎用形、語的つらなりのもととなる汎用形、語形成を行う汎用形 - 複合動詞、名詞形成、否定汎用形）。 6. 語幹形：基本語幹形（否定語幹の後行特性、使役・受身態、使役・可能態、受身・可能態）。 7. 二次語幹形：動詞語幹 - 過剰相スギル（形成・意味・用法）、尊敬ナサル、オ + 汎用形 + ナサル等、願望態形容詞タイ（形成・意味・用法）、願望態動詞タガル（形成・意味・用法）、傾向・容易態形容詞ヤスイ。 8. 傾向態状詞ガチ・ギミ（形成・意味・用法）、可能態動詞エル・カネル（意味・用法）、動作相 - 段階相動詞の形成・意味・用法（始メル・始マル・ダス等、カエル、カカル、オエル、オウル、ヤメル、ヤム、サス等）。 9. 様態相動詞の形成・意味・用法（続ケル・続ク・ツケル、ナレル・ナラワス、オボエル、タテル、マクル、チラス、マワル、アルク、ツメル、ハテル、シメル、スエル、返ス、タス、加工ル、タリル、ツカレル等）。 10. 将前相状詞の形成・意味・用法（ソウダ） 関連〔タクシス〕：ナガラ、ツツ、ツイデニ、ガテラ、カタガタ、シダイ等。 11. 結合形、汎用形ベースの結合形 - 形成・意味・用法、尊敬汎用形ベースの結合形、接続形ベースの結合形：テシマク（形成・意味・用法）、テイル（形成・意味・用法）、テイクノクル、テミル等。 12. テクレル、テヤル、テモラウ（形成・意味・用法）、前期試験への注意。 13. 文形、文の活用、語法文尾助辞と待遇文尾助辞、文形変化、かわり文形、文のバラダイム、文形の語形変化、語法体系、語法 - 叙述話法と推量話法、叙述話法 - 平叙話法と既定話法（いわゆるノダ文）。 14. 平叙話法（形成・意味・用法・待遇） 既定話法（形成・意味・用法、語話用、ノダッタ、ノデ、ノデ + 主文とカラ + 主文、ノデの共起制限、ニとは何か、状態汎用形、語的つらなり - ノデアル、ノデナイ、スコープ）。 15. 推量話法、無確信話法 - 無準拠無確信話法と準拠無確信話法、無準拠無確信（カモシレナイ）文形（形成・意味・用法・語活用、他の文形の無準拠無確信文形化）、準拠無確信（ソウダ）文形（形成・意味・用法等）。 16. 確信話法、無準拠話法、無準拠弱確信（ダロウ）文形（形成・意味・用法、他の文形のダロウ文形化）、無準拠強確信（ニチガイナイ）文形（形成・意味・用法、他の文形のニチガイナイ文形化、語活用、結合形）。 17. 準拠話法、内在準拠確信（ヨウダ）文形（形成・意味・用法、語活用、語的つらなり、他の文形の内在準拠確信文形化）、外在準拠確信（ラシイ）文形（形成・意味・用法、語活用、結合形等）。 18. 待遇 - 通常待遇と丁寧待遇（形成、動詞文 + デスの使用制限、デスとマス、語活用、デシタとタデス、ナイデスとマセンとシマセン、ダ・ダロウ、デス・デショウ等の二重性、デ・ニ・ナラ等の諸問題）。 19. 主語撲滅論について、主語と術語、ガ格の優位性、文法格と副詞格、一次機能と二次機能、ヲ、ガ、ニ、デ、カラ、ト（1）、ト（2）、ヘ、マデ、ヨリカ、ノ、連用補語と連用修飾語の区別、不定格。 20. 副助詞、完全副助詞、不完全副助詞。 21. 体言とは、正常体言、名詞とは、ダナニ状詞、ダノニ状詞、ダノゼロ状詞、不完全体言、ダナ状詞、ダノ状詞、タルト状詞、純副詞、連体詞。 22. 日本文法への形態音素論的注解。 23. 文法論（語論と文論） 形態素論の可能性、国文法における「活用」の概念、語幹変化か語形変化か。 24. 復習・整理・まとめ。後期試験に関する注意。
----------------------------	---

科 目 名	日本語音声学	担当者名	城 田 俊
-------	--------	------	-------

講 義 の 目 標	日本語音声の实践的・構造的把握をめざす。それは正しい日本語をみずから話すためばかりでなく、外国人に正しい標準的日本語を教え、発音上の誤りを矯正するのに役立つ。また、事象を構造的に、理論的にとらえるためにも音声の理論的把握は必要である。哲学的・思想的立場としてある構造主義も、また、現在人文科学で広く用いられる構造主義的手法も言語音声の研究成果を出発点としている。				
講 義 概 要	<p>調音音声学の基礎を講じ、それを基盤にして日本語の子音・母音を調音面から解説する(講義の形態をとるが、時に受講者を指名して、発音練習を行うことがある)。次に音節に話しを進め、それがなす体系には基本体系と第二体系が併存し、その異なりと発展のメカニズムを明らかにする。アクセントの正しい学び方・教え方に話しを及ぼす。</p> <p>第二部としてある音素論では、位置の差に着目しながら子音体系・母音体系をとらえ、日本語にはいかなる子音音素・母音音素があるかを論じる。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>城田俊 『日本語の音(おと) 音声学と音韻論』 ひつじ書房(テスト版)</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社(文庫クセジュ) ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店 </td> </tr> </table>	テキスト	城田俊 『日本語の音(おと) 音声学と音韻論』 ひつじ書房(テスト版)	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社(文庫クセジュ) ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店
テキスト	城田俊 『日本語の音(おと) 音声学と音韻論』 ひつじ書房(テスト版)				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社(文庫クセジュ) ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』5『音韻』 岩波書店 				
評 価 方 法	<p>前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。</p> <p>受講態度も考慮する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	授業への積極的参加を望みたい。				

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 部 音声学、単音、ことばの音（おと） 1 単音か 2 単音か。 2. 発音記号、調音器官。 3. 子音と母音（テキスト 1・2・3 併せて 1 - 25 頁） 4. 子音の分類、調音点による分類、調音方法による分類、無音子音・有声子音。 5. 非口蓋化子音、口蓋化子音、有気音、無気音、重ね子音。 6. 子音の調音、閉鎖音（1） 7. 閉鎖音（2） 8. 弱い閉鎖音、摩擦音（テキスト 4・5・6・7・8 併せて 26 - 52 頁） 9. 弱い摩擦音、破擦音。 10. 鼻音。 11. はじき音、ふるえ音、側面音（テキスト 9・10・11 併せて 52 - 64 頁）。 12. 前期講義の要点の復習。前期試験の概要の説明。 13. 母音、母音の分類、舌の位置、唇の丸め、ジョーンズの「基本母音」。 14. 母音の調音。 15. 長母音、無声化母音、鼻音化母音（テキスト 13・14・15 併せて 65 - 79 頁）。 16. 日本語の音節、基本体系（伝承された体系、閉鎖体系）〔 e 〕〔 i 〕に関する規制、〔 t 〕〔 ts 〕〔 d 〕に関する規制、〔 h 〕〔 〕に関する規制、〔 w 〕に関する規制。 17. 第二体系（革新体系、開放体系） 両体系の差。 18. 長音節、促音付き音節、撥音付き音節、引き音付音節、イ音付音節、拡大長音節、拍、日本語音節の特徴（テキスト 16・17・18 併せて 80 - 112 頁）。 19. アクセント、共通語のアクセント、その体系の把握。 20. 他言語との対照、高さアクセント・強さアクセント、統語機能、固定アクセントと自由アクセント、意味機能、アクセント核（テキスト 19・20 併せて 113 - 124 頁） 21. 第 部 音韻論、音素論（ ） 母音音素、音素の定義、母音の分布、母音音素。 22. 音素論（ ） 子音の分布と子音音素。 23. 基本体系と第二体系、文化の問題、「開かれた受容性」と「同化による閉鎖性」。 24. 後期講義の要点の復習。全体の展望。後期試験の概要の説明。
----------------------------	--

科 目 名	対照言語学	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	-------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>1) 日本語学習者の誤用の原因について学び、日本語教育への応用を考える。 2) 学習者の母語と日本語の相違を学ぶとともに、2言語の体系的な知識を習得する。</p>		
講 義 概 要	<p>2言語（日英）の共時的な比較対照を行い、そこでの結果をいかに日本語教育に応用するか、練習問題の作成等を検討しあう。日本語を学ぶ場合、学習者の母語と日本語の相違がどのような影響を与えるかを比較対照することによってかなりのことが予測できる。また、日本語の誤用の原因もその相違によって説明できることが多い。母語からの干渉が影響を与えるか、前期は講義を通じて、後期は学生の発表を中心に据えていきたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	無し。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。	
	参 考 文 献	<p>安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』大修館書店 森田良行『日本語の視点』創拓社 水谷信子『日英比較話し言葉の文法』くろしお出版 国広哲弥編『日英語比較講座 1 - 4巻』大修館書店 吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版 『講座日本語学』外国語との対照 10、11、12 くろしお出版</p>	
評 価 方 法	<p>1) 中間・期末テスト 30% + 30% 2) レポートの発表と提出 30% 3) 出席 20% 欠席6回以上は認めない。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめておくこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. オリエンテーション	・ 語順 (説明)
	2. 語順 ・ 所有格 (説明)	・ 無生物主語の構文 (説明)
	3. 無生物主語の構文 所有格	・ 人称代名詞・指示代名詞 (説明)
	4. 人称代名詞・指示代名詞	・ Of + 名詞 (説明)
	5. Of + 名詞 ・ 比較級・最上級 (説明)	・ 形容詞・副詞 (説明)
	6. 比較級・最上級 形容詞・副詞	・ 自動詞文・他動詞文 (説明)
	7. 自動詞文・他動詞文	・ 否定 (説明)
	8. 否定	・ 受動態 (説明)
	9. 受動態	・ 連体修飾 (説明)
	10. 連体修飾	
	11. 連体修飾 ・ 話法 (説明)	・ 仮定法 (説明)
	12. 仮定法	・ 時制・接続詞
	13. ・ 課題発表	
	14. ・ 各テーマについての誤用分析	
	15.	
	16.	
	17.	
	18.	
	19.	
	20.	
	21.	
	22.	
	23.	
	24.	

科目名	日本語史	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標	日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度も語彙をとりあげ、その史の変遷を辿ることを目的とする。		
講義概要	講述にあたって時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。		
使用教材	テキスト	山口明穂他編『日本語の歴史』(東大出版会)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・亀井孝他編『日本語の歴史』1～7 (平凡社) ・永山勇『国語史概説』(風間書房) ・国語学会編『国語の歴史』(改訂版)(刀江書院) ・講座解釈と文法1～7(明治書院) ・山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』(宝文館) ・土井忠生編『日本語の歴史』(至文堂) その他 	
評価方法	前期・後期にレポート各1本		
受講者に対する要望など	日本史の基礎知識をもっていること。および国語学を履修した上で受講することがのぞましい。		

年
間
授
業
計
画

1. 国語史のための時代区分
2. 国語史の資料
3. 国語史の概要 音韻史(1)
4. 国語史の概要 音韻史(2)
5. 国語史の概要 文字史(1)
6. 国語史の概要 文字史(2)
7. 国語史の概要 文字史(3)
8. 国語史の概要 文法史(1)
9. 国語史の概要 文法史(2)
10. 国語史の概要 外来語
11. 語彙史概要
12. 上代の語彙(1)
13. 上代の語彙(2)
14. 中古の語彙(1)
15. 中古の語彙(2)
16. 中古の語彙(3)
17. 中世の語彙(1)
18. 中世の語彙(2)
19. 中世の語彙(3)
20. 中世の語彙(4)
21. 近世の語彙(1)
22. 近世の語彙(2)
23. 近代の語彙(1)
24. 現代語の展望

科 目 名	日本語学特殊講義 A	担当者名	井 口 厚 夫
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	日本語文法の知識を深めると共に、自分で考える力を養う。		
講 義 概 要	<p><日本語文法の規則と例外> 日本語に中上級を教えていると、文法書に書いてあることでは説明できない例が度々出てきて教師を悩ますことがある。</p> <p>規則には例外がある。文法も学者が後から作った規則であるから、当然の事ながら例外がある。本講義では日本語文法を中心とするいくつかの項目について原則を講義するが、その後受講者諸君に実例に当たってもらい、その原則がどの程度通用するか調べてもらう。例外が出てきたら、どうしてそのような例外が生ずるのか考えていきたい(例外にもそれなりの理由があることがあるのである)。日本語教育で中上級を教える際には役立つと思う。</p> <p>例外を探す際には実例データを当たってもらう。データ、またはその検索方法については講義の中で提供するが、パソコンを使える学生が二名ほどいると助かります。</p> <p>なお週 2 回の後期完結科目として行うので時間割に注意して履修してもらいたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	その都度指示する。	
	参考文献		
評 価 方 法	レポートと授業への貢献度。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講師と文法書をまず疑ってかかる態度。</p> <p>そして自分なりの考えをまとめ、証明するための数十分の努力。</p>		

年
間
授
業
計
画

1. オリエンテーション「～中」
2. 品詞
3. (続き)
4. 活用
5. (続き)
6. 連体修飾
7. (続き)
8. とばたらなら
9. (続き)
10. ようそうらしい
11. (続き)
12. はずだ
13. 短縮語
14. (続き)
15. アスペクト
16. テンス
17. (続き)
18. 間接受身「頭を殴られた」
19. 省略
20. 数量詞移動「三匹の子豚」
21. のだから・のだった
22. (続き)
23. 地図を頼りに
24. (続き)

科 目 名	日本語学特殊講義 A	担当者名	中 西 家 栄 子
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	外国人の書いた日本語についての文献を原書で読む練習を通じて日本語について様々な考え方及び知識を深める。		
講 義 概 要	外国人による日本語学関係の文献を原文で読み、理解するとともに、その記述内容について検討していく。原文は英文のものに限られるが、本講義の目的は主に海外での日本語教育に従事する学生のため英文で日本語の文献を読み、視点を変えることによって、日本語をとらえ直し日本語の指導に役立てることを目指す。数年ごとに文献を入れ替えるが、本年度取り上げるの”An Introduction to Japanese Phonology” by T.J. Vance とする。教師による講義、学生からの発表などの方法で授業を進める。また、必要に応じて関連の論文なども読んで行きたい。		
使 用 教 材	テキスト	”An Introduction to Japanese Phonology” by T.J. Vance 入手不可能の場合はプリントで対応。	
	参考文献	1) 「語形成と音韻構造」 窪園晴夫 日英語対照研究シリーズ くろしお出版 その他は授業中に指導	
評 価 方 法	中間・後期テスト・出席		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	特に無し。		

1 . Orientation	
2 . Chapter 1 & 2	Introduction & Articulatory Setting
3 . Chapter 2 & 3	Articulatory Setting
4 . Chapter 3	Vowels
5 . Chapter 4	Consonants
6 . Chapter 4	Consonants
7 . Chapter 4	Consonants
8 . Chapter 5	Mora Consonants
9 . Chapter 6	Vowel Devoicing
10 . Chapter 7	Syllables and Moras
11 . Chapter 7	Syllables and Moras
12 . Chapter 8	Accent
13 .	Mid-term Exam
14 . Chapter 8	Accent
15 . Chapter 8	Accent
16 . Chapter 9	The Velar Nasal
17 . Chapter 9	The Velar Nasal
18 . Chapter 10	Sequential Voicing
19 . Chapter 10	Sequential Voicing
20 . Chapter 11	Other alternations
21 . Chapter 11	Other alternations
22 . Chapter 12	Verb Morphology
23 . Chapter 12	Verb Morphology
24 .	Final Exam

科 目 名	ドイツ語	担当者名	飯 沼 隆 一
-------	------	------	---------

講義の目標	最初の授業で説明		
講義概要			
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			
年 間 授 業 計 画	1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 . 9 . 10 . 11 . 12 . 13 . 14 . 15 . 16 . 17 . 18 . 19 . 20 . 21 . 22 . 24 .		

科 目 名	フランス語	担当者名	前 川 久美子
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	フランス語の基礎を学ぶ		
講 義 概 要	科目の性格上、教科書に沿った文法事項の学習が中心となる。		
使 用 教 材	テキスト	未定。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	平常点とテスト。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	復習に力を入れ、習ったことは、その都度よく理解し、記憶していくよう心がけてほしい。		

科 目 名	フランス語	担当者名	若 森 瀧 樹
-------	-------	------	---------

講義の目標	フランス語の初級文法の知識を得て、簡単なテストが読めるところまで、学生諸君を導きたいと思う。ただし、学生諸君の希望によっては、より会話的な授業を行ってもよい。		
講義概要	フランス語の文法の概略を学ぶ。動詞の活用などについては小テストを行なうことがある。		
使用教材	テキスト	ふらんす文法手帖（中條屋、永見、西澤、吉川著、白水社）	
	参考文献	授業中に指示する。	
評価方法	前後期 2 回の試験の結果及び平常点		
受講者に対する要望など	予習すること		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の発音と綴りの読み方（ 1 ） 2. " (2) 3. 名詞の性、形容詞の一致 4. 動詞（avoir , être）の直説法現在 5. 規則動詞の直説法現在の変化 6. 不規則動詞の変化、命令形、種々の形容詞 7. 関係代名詞、強調構文、人称代名詞 8. 複合過去、受動態 9. 単純未来、前未来 10. 代名動詞 11. 種々の形容詞（所有形容詞、指示形容詞 etc） 12. 比較級、最上級 13. 数詞、指示代名詞 14. 代名動詞、過去分詞の用法 15. 直説法半過去、直説法大過去 16. 中性代名詞、le , en , y 17. 関係代名詞 18. 時制の一致、直接的法と間接的法 19. 条件法、現在分詞、ジェランディフ 20. 直説法単純過去、前過去 21. 接続法現在、過去（ 1 ） 22. " (2) 23. 復習（ 1 ） 24. 復習（ 2 ） 		

科 目 名	スペイン語〔総合〕	担当者名	野々山 ミチコ 北 岸 団
-------	-----------	------	------------------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問の依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p>		
講 義 概 要	<p>この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。点過去まで進みたい。日常的によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは第1課から第6課までである。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p><i>¡Hola, amigos!</i> (芸林書房)</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>スペイン語 総の進行にあわせて口頭練習をおこなうスペイン語 L が用意されているので、同時履習を要望する。</p>		

科目名	スペイン語Ⅰ〔LL〕	担当者名	ホセ L. ベラスコ
-----	------------	------	------------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総を補う授業である。テープおよびビデオ教材を使って、自然なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅰ総と同じテキストとテープ、およびビデオ教材などを使い、スペイン語Ⅰ総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅰ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。ビデオ教材も使って、耳からだけではなく映像を通してテキストを補う場合がある。進度については、スペイン語Ⅰ総のシラバスを参照のこと。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>¡ Hola, amigos !</i> (芸林書房)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ総との組み合わせで受講すること。</p>		

科 目 名	スペイン語Ⅱ〔総合〕	担当者名	細 野 ソニア
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語Ⅰ総の続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象として、より進んだ文法の習得と、その文法内容をつかうより進んだ聴取力、理解力、口述能力の習得を目的とする。</p>	
講 義 概 要	<p>主な文法項目は、線過去、命令、動詞の原形の使い方、現在分詞、過去分詞および接続法である。また形容詞、冠詞、前置詞など既習事項についてより高度な使い方の練習をおこなう。テキストの第7課から第12課を予定している。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>	
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>¡ Hola, amigos !</i>
	参 考 文 献	
評 価 方 法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>スペイン語ⅡⅠとの組み合わせで受講することを要望する。</p>	

科 目 名	スペイン語Ⅱ〔LL〕	担当者名	高 松 明 子
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語ⅠLの続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象として、スペイン語Ⅱ総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>	
講 義 概 要	<p>スペイン語Ⅱ総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を使い、スペイン語Ⅱ総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また別のビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補う場合もある。進度についてはスペイン語Ⅱ総のシラバスを参照のこと。具体的には、開講時に担当者が説明をおこなう。</p>	
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>¡ Hola, amigos !</i>
	参 考 文 献	
評 価 方 法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および小テストによって評価する。</p>	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>スペイン語Ⅱ総との組み合わせで受講すること。</p>	

科 目 名	スペイン語〔講読〕	担当者名	北 岸 団
-------	-----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>スペイン語の比較的簡単な読み物を読むことで、入門的な総合授業では扱いきれなかったスペイン語の文章構造に対するより深い理解や語彙の不足を補うことを目的とする。また、スペインあるいはラテンアメリカの文化・社会への理解を深めることも目的とする。</p>		
講 義 概 要	<p>受講者には、スペインや中南米に関する教材を使い、それをもとに授業を進める。教材用テキストではなく一般の出版物を使用するため、入門的な授業では扱わなかった文法事項がでてくるが、必要に応じて既修・未修の文法説明を行いながら授業を進める。授業の性格上、受講者は毎回訳読することになる。具体的には、開講時に各担当者が説明をおこなう。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>担当者が指示する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>出席および訳読発表状況、年2回の定期試験等によって判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>自主的・積極的な姿勢で授業に臨むこと。最初はあまり解からない者でも、継続して予習・発表を繰り返すうち、必ず理解は進むようになるので、根気よく取り組んでもらいたい。</p>		

科 目 名	スペイン語 [総合]	担当者名	佐藤 勘 治
-------	------------	------	--------

講 義 の 目 標	<p>接続法、未来形、過去未来など新しい動詞の活用と使い方を学ぶほか、前置詞、関係代名詞など練習が不十分な文法項目を補う。また、語彙の充実にもつとめ、場面に合った十分なスペイン語会話能力の養成をおこなう。また、定着のために、新しい単語を使った復習もおこなう。またラテンアメリカ・スペイン文化社会理解を深める授業にしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>文法事項の補いをおこなった後、ビデオ教材とテキストを用いて、運用力の増強をおこなう。ビデオ教材は、聞く力の養成に役立つとともに、構文の使われ方を知るのに最適である。特定の文法事項については、書き言葉に頻出するものがあるので、授業の半分は、上級スペイン語テキストを使う。復習もしつつ、スペイン語力の総合的向上に努めたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	開講時に担当者が用意する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	授業への積極的参加、およびテスト		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	スペイン語 [総合]を受講している人、また受講済の学生の積極的参加を希望する。		

科 目 名	スペイン語〔LL〕	担当者名	J. フェレーラス
-------	-----------	------	-----------

講義の目標	<p>これまで学んだ文法項目について、スペイン語会話の運用力を身につける。場面設定に従った基本的会話文を学び、語彙力を高めるとともに構文の復習をおこなっていく。このことで、依頼の会話、許可を求める会話、出来事を伝える会話など場面ごとに最低限必要な基本構文をはなせ、また聞き取れることができるようにしたい。また、接続法、前置詞、関係代名詞などまだ十分に練習がおこなえていない文法事項についても練習する。さらに、スペインあるいはラテンアメリカの文化理解を深める場ともしたい。</p>		
講義概要	<p>ビデオ教材などを用い、単に見てなにが言われているか理解できるだけでなく、能動的な発話ができるよう、練習をおこなう。詳しくは授業の最初に指示する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・担当者が用意する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業への積極的参加、およびテスト</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	スペイン語〔講読〕	担当者名	野々山 ミチコ
-----	-----------	------	---------

講義の目標	文法を復習しながら、スペイン・ラテンアメリカの近代文学について学ぶ。短編小説を用いる。		
講義概要	最初は教科書用にやさしく書き直したものをを用いるが徐々にレベル・アップし、最後は少々むづかしい原文に挑戦する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にそのつどコピーを配付。 ・野々山真輝帆著「スペイン語のトレーニング」(白水社) 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・とくになし 	
評価方法	授業への参加、貢献度を重視する。		
受講者に対する要望など	毎回授業に出席し、宿題とされた箇所を予習してくること。		
年間授業計画	1.	スペイン短編	ベッケル
	2.	"	"
	3.	"	"
	4.	"	クラリン
	5.	"	"
	6.	"	ウナムーノ
	7.	"	"
	8.	"	パロツハ
	9.	"	"
	10.	"	アソリン
	11.	"	"
	12.	"	"
	13.	"	"
	14.	ラテンアメリカ短編	キロガ
	15.	"	"
	16.	"	"
	17.	"	ルベン・ダリオ
	18.	"	"
	19.	"	"
	20.	"	コルタサル
	21.	"	"
	22.	"	"
	23.	"	"
	24.	"	"

科 目 名	基礎ポルトガル語 (97年度、98年度入学生)	担当者名	コガ・エウニセ
-------	-------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	ポルトガル語の会話力および理解力の養成と同時に、ブラジルの社会・文化を紹介する。		
講 義 概 要	ブラジル入門：ブラジル・ポルトガル語の会話を中心にした授業であり、日常的な会話を実際に用いながらポルトガル語のボキャブラリーを増やし、文法力及び読解力を養成する。また、ブラジルの歴史・社会・文化・習慣をビデオやスライドなどの映像を通して紹介する。		
使 用 教 材	テキスト	書名：“AVENIDA BRASIL：Curso básico de Português para estrangeiros” イタ 著者：Lima, Emma Eberlein O.F. (et al.) 出版社：Editora Pedagógica e Universitária Ltda. (São Paulo) 出版年：1991	
	参考文献		
評 価 方 法	ポルトガル語の会話（授業参加）及び筆記試験		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	ポルトガル語及びブラジルに興味のある人。		

年 間 授 業 計 画	<p>*ブラジルのビデオ"BRASIL CULTURAL - Nosso Pais"、その他 (各授業で約10分間ビデオ及びスライドを見る)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ポルトガル語のアルファベット 2. 動詞: ar , SER / ESTAR 3. 名詞の性 (女性名詞・男性名詞) 4. 主格人称代名詞 (Pronomes pessoais) 5. 動詞: er 6. 前置詞 (Preposição) 7. 動詞: ir 8. 形容詞 9. 所有格人称代名詞 (Pronomes possessivos): dele , dela 10. 比較文 (Comparação) 11. 不規則動詞 (Verbos Irregulares) 12. 主語と動詞 (1): 複数・単数の場合 13. 主語と動詞 (2): 複数・単数の場合 14. 主語と動詞 (3): 複数・単数の場合 15. 動詞の時制 (Tempos Verbais) 現在形、過去形、未来形 (1) 16. 動詞の時制 (Tempos Verbais) 現在形、過去形、未来形 (2) 17. 動詞の時制 (Tempos Verbais) 現在形、過去形、未来形 (3) 18. 動詞: 過去形の種類 (Pretérito Perfeito / Pretérito Imperfeito) 1 19. 動詞: 過去形の種類 (Pretérito Perfeito / Pretérito Imperfeito) 2 20. 動詞: 未来形の種類 (Futuro do Presente / Futuro do Pretérito) 1 21. 動詞: 未来形の種類 (Futuro do Presente / Futuro do Pretérito) 2 22. 関係代名詞: 不定法、限定法 (Indefinidos / Definidos) 23. 短文作成 1 24. 短文作成 2
----------------------------	---

科 目 名	ロシア語	担当者名	井 上 幸 義
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ロシア語は単語の活用が多く、取っ付きにくい言語であると言われている。本講座ではロシア語の骨組みをつかみ、初等文法を習得することによって少しでもロシア語に慣れることを目指す。本講座は全くの初学者を対象としており、アルファベット(キリル文字)、発音から始める。文法事項の理解を深めるために会話形式も取り入れ、反復練習することによって最も基本的な構文が理解でき、使えるようにする。</p>		
講 義 概 要	<p>全くの初学者を対象としており、アルファベット、発音から始める。最も基本的な文法事項を概説した教科書を教材として使い、名詞の格変化、動詞の現在人称変化、過去時称形、未来形、形容詞の用法など、単純な構文・表現から少しずつ複雑な構文、表現へとステップアップしながら基本的構文が理解でき、実際に使えるようにする。講義はゆっくりと進め、いかに進める。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	「初めてのロシア語」(桑野 隆著 白水社)	
	参 考 文 献	「博友社ロシア語辞典」	
評 価 方 法	前後期それぞれ1回ずつ試験を行い、それに基づき評価を下す。参考として出欠をとる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

1. 前期は、キリル文字のつづり、発音から始め動詞の不定形と現在人称変化、名詞の格変化を学ぶ。後期は過去時称形、未来系、形容詞の用法を学ぶ

科 目 名	ロシア語	担当者名	井 上 幸 義
-------	------	------	---------

講 義 の 目 標	ロシア語 で習得した学力をレベルアップし、実際に簡単な表現によるやりとりができるようにする。様々なシチュエーションを想定し、そこで使われる日常会話表現を文化的事項の裏付けとともに習得していく。これらの学習を通してロシアの文化や社会に関する理解を深める。
講 義 概 要	ロシア語 を昨年履修した学生を対象とする。想定される様々なシチュエーションに応じて文法事項を組み合わせ、効率的な会話表現の習得を行う。その中心となる、重要な概念である動詞の体（完了体・不完了体）命令法、定動詞、不定動詞、無人称文などを学んでいく。講義はゆっくりていねいにすすめる。
使 用 教 材	テキスト 「新ロシア語教程」(狩野 亨、A . アキーシナ共著、ナウカ株式会社)
	参 考 文 献 「博友社ロシア語辞典」
評 価 方 法	前後それぞれ 1 回ずつ試験を行いそれに基づき評価を下す。参考として出欠をとる。
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	

年
間
授
業
計
画

1. 前期は簡単な自己紹介の表現、あいさつの表現、現在、過去・未来の形を使った日常会話表現を学ぶ。後期は動詞の不完了体・完了体による表現、所有表現などを学ぶ

科目名	中国語Ⅰ	担当者名	張 繼 濱
-----	------	------	-------

講義の目標	入門から始めて、総合的な語学能力を養成することを目標とします。		
講義概要	前期は発音から始め、基本文型を使って聴解、応答などの練習をします。今後の中国語学習への興味及びより一層能力をつけるためにも発音は大変重要なので、正しく発音できるまでしっかり練習します。 文法解説などは、必要最小限にとどめることにして、習得した文型や単語を用いて作文をしっかりと、口頭練習をしっかりとします。		
使用教材	テキスト	「ベーシック・チャイニーズ」	
	参考文献		
評価方法	授業中の学習態度、出席、テストなどを総合評価する。		
受講者に対する要望など	予習、復習を行うこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一回の授業中に指示する 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 		

科目名	中国語	担当者名	陳 跡
-----	-----	------	-----

講義の目標	この講義の内容は、中国語の基礎知識（発音、文法、文の構造等）の習得を中心として、聴く力と会話力の学習を第一目標とする。		
講義概要	発音は初心者にとって最も難しい課題である。中国語独特の音声で、日本語の音声体系にないもの、つまり、四声 - 四種の調子音や、その他の特に注意すべき子音と母音の読み方を、集中的に練習する、言葉はコミュニケーションの手段の一つである。初級中国語の授業は簡単で実用的な言葉や短い会話を用いて行く。		
使用教材	テキスト	見る・聞く・話す 中国語ネットワーク 荒屋 勸 / 尹 景春 / 岡部 謙治 朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	成績評価に当たっては、平常点と最終試験をほぼ均等に扱う		
受講者に対する要望など	履修者の出席と復習を期待します		

科目名	中国語	担当者名	秦 敏
-----	-----	------	-----

講義の目標	<p>昨年中国語を履修した学生、あるいは同等の語学力を持つ学生を対象とします。授業は中国語の基本的な構文を会話を通して習得し、さらにそれを発展させることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>講義は理解し得る範囲内で中国語を行う。また、中国の文化、習慣、ものの考え方等を紹介したいと考えています。</p>		
使用教材	テキスト	沈国威・中川正之『ブラッシュアップ中国語』朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>復習と予習することを望みます。</p>		

科目名	朝鮮語	担当者名	朴 聖 雨
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>朝鮮語を初めて学ぶ人を対象に朝鮮語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住等のストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>		
講義概要	<p>(1)朝鮮語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 朝鮮語の特徴、特に「ハングル」の構造を日本語およびその文字との比較からわかりやすく説明する。</p> <p>(2)朝鮮語の文字、文章の理解と解読 辞書の活用による「ハングル」の解読、「ハングル」による表現、「ハングル」の音韻的法則を指導する。</p> <p>(3)実用会話 基本会話文（あいさつ、自己紹介、基本的感情表現、ショッピング、食事の注文等の日常生活に必要な表現）を厳選し学習者同士が役割を変えながら問答型の反復練習をする。</p>		
使用教材	テキスト	『韓国語学習 - 基礎から完成まで』朴勇俊（プリント）	
	参考文献	参考書や辞書は後日指定する。	
評価方法	評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。		
受講者に対する要望など	外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、持続的努力を一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 朝鮮語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 2. 朝鮮語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 3. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読 4. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読 5. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読 6. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読 7. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読 8. 朝鮮語の文字・文章の理解と解読 9. 様々な場面を想定した基本会話（あいさつ） 10. 様々な場面を想定した基本会話（家族） 11. 様々な場面を想定した基本会話（職業） 12. 中間試験 13. 様々な場面を想定した実践会話・読解（故郷） 14. 様々な場面を想定した実践会話・読解（バス、タクシー） 15. 様々な場面を想定した実践会話・読解（教室） 16. 様々な場面を想定した実践会話・読解（事務室） 17. 様々な場面を想定した実践会話・読解（食堂） 18. 様々な場面を想定した実践会話・読解（図書館） 19. 様々な場面を想定した実践会話・読解（書店） 20. 様々な場面を想定した実践会話・読解（下宿） 21. 様々な場面を想定した実践会話・読解（友人） 22. 様々な場面を想定した実践会話・読解（電話） 23. 様々な場面を想定した実践会話・読解（ホテル） 24. 期末試験
----------------------------	--

科目名	朝鮮語	担当者名	朴 聖 雨
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>日常の朝鮮語会話を正確に聞きとれるようにし、多様な状況、場面に応じて適切な会話表現が可能になるべく指導する。また辞書を使用しながら長い文章を読み、書くことができるようにする。</p> <p>映画やテレビ、ラジオ等の朝鮮語を聞いて理解できるようにし、実際のドラマの脚本等にそって実演することを通して生きた会話ができるように練習する。</p>
講義概要	<p>日常生活で遭遇する多様な状況を教室に設定し、実体験にみあう会話を身につけるようにする。</p> <p>また朝鮮語は単なる意思疎通の用具にとどまらず、朝鮮人の習俗や伝説や文化の結晶体であることを実感させ、朝鮮の歴史や文化や生活の諸相について関心を高め、理解を深めて行く。個別指導を基本とし、自学自習が可能なテキストによって講義を進めて行く。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>『韓国語学習 - 基礎から完成まで』朴勇俊（プリント）</p>
	<p>参考文献</p> <p>参考書や辞書は後日指定する。</p>
評価方法	<p>評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。</p>
受講者に対する要望など	<p>外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、持続的努力を一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組んでほしい。</p>

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義に対する紹介、概要説明、注意点について 2. 様々な場面を想定した実践会話・読解（入国審査） 3. 様々な場面を想定した実践会話・読解（税関） 4. 様々な場面を想定した実践会話・読解（ビザの延長） 5. 様々な場面を想定した実践会話・読解（両替） 6. 様々な場面を想定した実践会話・読解（予約便の確認） 7. 様々な場面を想定した実践会話・読解（国際電話） 8. 様々な場面を想定した実践会話・読解（伝言） 9. 様々な場面を想定した実践会話・読解（地下鉄利用） 10. 様々な場面を想定した実践会話・読解（忘れ物） 11. 様々な場面を想定した実践会話・読解（旅館） 12. 中間試験 13. 様々な場面を想定した実践会話・読解（観光） 14. 様々な場面を想定した実践会話・読解（韓国料理） 15. 様々な場面を想定した実践会話・読解（名刺交換） 16. 様々な場面を想定した実践会話・読解（出身地） 17. 様々な場面を想定した実践会話・読解（伝統的行事） 18. 様々な場面を想定した実践会話・読解（余暇） 19. 様々な場面を想定した実践会話・読解（ショッピング） 20. 様々な場面を想定した実践会話・読解（引っ越し） 21. 様々な場面を想定した実践会話・読解（趣味） 22. 様々な場面を想定した実践会話・読解（誕生日） 23. 様々な場面を想定した実践会話・読解（記念日） 24. 期末試験
----------------------------	---

科 目 名	基礎タイ語 (97年度、98年度入学生)	担当者名	江 藤 双 恵
-------	----------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>タイ語の基礎を 1、文字の表記と発音 2、会話 3、文法 の3点を中心に学習しながら、サバイバル可能なレベルのタイ語を習得する。サバイバル可能なレベルとは、タイ語を母語とする人々との間にある程度の意味疎通ができるという意味であり、そのためには、タイ人の行動様式やものの考え方などを理解しようとする姿勢が不可欠である。そこで本講義では、単に道具としての言葉の習熟にとどまらず、タイ語を通じて、その背景にある文化的・社会的特徴ないし、タイ的な世界観にも触れることをめざす。</p>		
講 義 概 要	<p>前半はタイ文字の表記と発音方法についてテキストやオーディオ教材を用いた講義を行う。タイ文字の子音、母音、数字および各種記号の表記方法、発音方法についてマスターした後、挨拶、数、年月日と時間など日常会話に最低限必要な表現を学ぶ。後半は、さまざまな状況に応じた表現例を学びながら、その背景にあるタイ人の行動様式や考え方についても理解する。また、基礎文法を身につけ、簡単な作文能力や、辞書を用いて公文書レベルのタイ文を自力で読めるような力をつける。さらに、随時、タイ映画などのビジュアル教材を通じて生きたタイ語に触れる機会をもち理解を深める。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	「やさしいタイ語 文字の読み書き」(宇戸清治著 大学書林発行) プリント	
	参 考 文 献	講義中に紹介する。	
評 価 方 法	<p>学期末に試験を行い、その点数と受講態度を加味して評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>やる気のある学生の受講を希望します。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：現代タイの政治経済状況と、そこに反映される伝統的な価値観などについての概論、今タイ語を学ぶ意義は？ 2. タイ文字の成立と種類、タイ語の特徴についての概説、ローマ字表記の方法、数字の発音 3. 文字の読み書き 1（中子音・高子音・低子音と長母音） 4. 文字の読み書き 2（真正二重子音・平音節・促音節・さまざまな末子音の読み方） 5. 文字の読み書き 4（声調符号・短母音） 6. 文字の読み書き 5（低子音の高子音化と中子音化） 7. 文字の読み書き 6（疑似二重子音、一字再読字） 8. 文字の読み書き 7（特殊な発音と綴り字、さまざまな符号、略語、年月日・時間に関する表現、例外）辞書の使い方 9. タイ文化入門（映画などビジュアル教材を用いる予定） 10. 会話 1（挨拶・家族に関する表現）文法 1（疑問文・否定文・疑問文への答え方）タイ語を聞いて書く 11. 会話 2（職業や所属に関する表現）文法 2（存在・所有動詞の用法、繋辞の用法）タイ語を聞いて書く 12. 会話 3（食べ物に関する表現）文法 3（一般動詞の用法）タイ語を聞いて書く 13. 会話 4（移動に関する表現）文法 4（可能・不可能）タイ語を聞いて書く 14. 会話 5（買い物）文法 5（類別詞の用法、比較）タイ語を聞いて書く 15. 会話 6（電話のかけ方）文法 6（時制に関する表現）タイ語を聞いて書く 16. 会話 7（病気のと看）文法 7（義務・当然・意志・期待・願望などに関する表現）タイ語を聞いて書く 17. 文法 8（勧誘・依頼・許可・禁止・命令などに関する表現）タイ語を聞いて書く 18. タイ文化入門（ことわざなどの教材通じてタイ的な価値観に触れる） 19. 文法 9（副動詞を用いた表現）簡単な物語などを読む 20. 文法 10（授受・使役に関する表現）簡単な物語などを読む 21. 文法 11（関係詞・接続詞の用法など）簡単な物語などを読む 22. 文法 12（前置詞の用法など）公文書などを読む 23. 文法 13（伝聞・引用の表現）公文書などを読む 24. タイ文化入門（タイ映画などビジュアル教材の鑑賞）
----------------------------	---

科 目 名	アラビア語	担当者名	本 田 孝 一
-------	-------	------	---------

講義の目標	アラビア語は中東21カ国の国語であり、世界のイスラム教徒の共通語です。また国連で定められている6つの公用語の1つでもあります。しかし日本においては明治以来の西欧語偏重の風潮の中でアラビア語というと、あの「虫の這ったような」文字とだけで片づけられてしまいます。本講義ではそのような偏重を打破し、世界のメジャーな言語としてのアラビア語の重要性を認識し、アラビア語の世界に親んでもらうことを目的とします。		
講義概要	本講義は会話と文法を交互に学んでいきます。その他アラブ世界に広く親んでもらうようアラブ文化のさまざまな側面も紹介していこうと考えています。		
使用教材	テキスト	『アラビア語入門』（改訂版）（本田孝一著、白水社）	
	参考文献	『パスポート初級アラビア語辞典』（本田孝一、石黒忠昭著、白水社）	
評価方法	学年末に簡単な会話をやってもらいます。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. Introduction 2. (会話) アラブ人と友達になろう 1 3. (会話) アラブ人と友達になろう 2 4. (文法) アラビア文字に挑戦! 1 5. (文法) アラビア文字に挑戦! 2 6. (会話) アラブ人と友達になろう 3 7. (会話) アラブ人と友達になろう 4 8. (文法) アラビア文字をつなげてみよう 1 9. (文法) アラビア文字をつなげてみよう 2 10. (会話) 友達を紹介しよう 1 11. (会話) 友達を紹介しよう 2 12. (文法) アラビア文字はどう読むのだろう 1 13. (文法) アラビア文字はどう読むのだろう 2 14. (文法) アラビア語基本単語 100 15. (会話) 「これは何ですか」の表現 1 16. (会話) 「これは何ですか」の表現 2 17. (文法) 「私は日本人です」 1 人称代名詞(主格) 18. (文法) 「私は日本人です」 2 人称代名詞(属格) 19. (会話) 「空港でアラビア語を使ってみよう」 1 20. (会話) 「空港でアラビア語を使ってみよう」 2 21. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 1 22. (文法) アラブ諸国の名前を読んでみよう 2 23. 期末の会話テストの準備 24. 会話テスト		

科 目 名	アラビア語	担当者名	本 田 孝 一
-------	-------	------	---------

講義の目標	前年度アラビア語を受講した人を原則的に対象とし前年度のつづきを勉強します。 目的としては、受講生のひとりひとりがアラブ世界に関心を抱き、各自で興味の対象を見つけ、将来的にそれを伸ばしていけるようにすること。		
講義概要	授業は必ずしも、テキスト通りに進行させるということではありません。受講生の希望に従ってバラエティに豊かな授業にしたいと考えています。		
使用教材	テキスト	『アラビア語の入門』(改訂版)(本田孝一著、白水社)	
	参考文献	『ステップアップアラビア語』(本田孝一著、白水社) 『パスポート初級アラビア語辞典』(本田孝一、石黒忠昭著、白水社)	
評価方法	学年末に簡単な会話をやってもらいます。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. 復習 2. 復習 3. (会話) ご出身はどちらですか 1 4. (会話) ご出身はどちらですか 2 5. (文法) 「持つ」の表現 1 6. (文法) 「持つ」の表現 2 7. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 1 8. (会話) アラビア語で買い物をしてみよう 2 9. (文法) of の表現 10. (文法) 双数、複数 11. (会話) いろいろな数量を表わし方 1 12. (会話) いろいろな数量を表わし方 2 13. (文法) 動詞(完了形)の使い方 1 14. (文法) 動詞(完了形)の使い方 2 15. (会話) 「きのうあなたは何をしましたか」の表現 1 16. (会話) 「きのうあなたは何をしましたか」の表現 2 17. (文法) 動詞(未完了形)の表現 1 18. (文法) 動詞(未完了形)の表現 2 19. (会話) カイロの街角での会話 1 20. (会話) カイロの街角での会話 2 21. (文法) 命令形の作り方 1 22. (文法) 命令形の作り方 2 23. 期末の会話テストの準備 24. 会話テスト		

科 目 名	古典ギリシア語	担当者名	古 川 堅 治
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>一年間の授業を通して、古典ギリシア語を着実に読み、書き、理解することができるようになることを主目的とする。そのためには、テキストの練習問題を確実にこなして、1つ1つステップアップしていく手法をとる。また、古典ギリシア語の学習を通して、古代ギリシアの文化や歴史、さらには、現代ギリシアの文化や社会にも触れることにしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>毎回、単元を1～2つずつ学習するペースで進む。授業は、アト・ホームな雰囲気、気軽に行ないたい。ビデオなどを交えて、視覚にうったえながら理解を深めることもする。出席は必ず毎回するように心掛けること。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門改訂版』（岩波全書、1648円）、第1回目の授業までに購入しておくこと。</p>	
	参 考 文 献	<p>とくに使用せず</p>	
評 価 方 法	<p>出席者による練習問題の解答を繰り返し行なうので、特別にテストや試験は行わない（平常点による評価）</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>誰でも一年間、真面目に学ぶならば、古典ギリシア語はマスターできる。未知で貴重な古典語を気軽に学んで欲しい。ビデオやCDなどでギリシア文化にも触れるので興味のある人の来講を拒まない。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. I. 字母・発音・音韻などの分類 (独特のギリシア語字体に魅せられる。)</p> <p>2. II. 音節・アクセント・句読点 (古典ギリシア語の単語がもう読めるようになる。)</p> <p>III. 動詞変化・現在直説法能動相 (単文章が理解でき、含蓄に富むギリシア人の知恵が共有できるようになる。以下同じ)</p> <p>3. IV. 名詞の第一変化(1)(2)</p> <p>4. V. 名詞の第一変化(3)(4)と動詞の未来直接法能動相</p> <p>5. VI. 未完了過去直接法能動相</p> <p>6. VII. 名詞の第二変化</p> <p>7. VIII. 形容詞の変化(第一、第二変化)</p> <p>8. IX. 前置詞</p> <p>9. X. アオリスト直接法能動相</p> <p>10. XI. 現在完了、過去完了直接法能動相</p> <p>11. XII. 指示代名詞と強意代名詞</p> <p>12. XIII. 直接法能動相本時称と副時称の人称語尾 (新約聖書が簡単に理解できるようになる。)</p> <p>13. XIV. εἰμι、φημιの現在直接法</p> <p>14. XV. 疑問代名詞と不定代名詞</p> <p>15. XVI. 直接法中動相の現在・未完了過去・未来</p> <p>16. XVII. 直接法中動相のアオリスト・現在完了、過去完了・未来完了</p> <p>17. XVIII. 人称代名詞</p> <p>18. XIX. 再帰代名詞・相互代名詞・所有代名詞</p> <p>19. XX. 第二アオリスト直接法能動相と中動相</p> <p>20. XXI. 直接法受動相</p> <p>21. XXII. 第三変化の名詞(1)</p> <p>22. XXIII. 第三変化の名詞(2)</p> <p>23. XXIV. 能相欠如動詞と約音動詞(1) (ほとんどの文章が辞書を片手に理解できるようになる。)</p> <p>24. XXV. 約音動詞(2)</p> <p style="text-align: center;">まとめ</p>
----------------------------	--

科 目 名	ラテン語	担当者名	松 田 治
-------	------	------	-------

講義の目標	古典ラテン語は難しそうに見えますが、語尾変化などの約束ごとを理解すればわりあい簡単です。多くの例文を読むことで約束ごとは身につきます。そうすると逆に自分でラテン語の文章を書くこともできるようになります。知識が深くなれば近代語とのかかわりもつかめるようになります。古代ローマ人のようにラテン語を読み、彼ら同様にラテン語を書き、その過程で彼らの文化を味わう、このあたりを目標にしましょう。		
講義概要	名詞の変化、動詞の活用を中心に勉強し、語の機能表示の方法や文の構造を把握するような形で授業を進めます。とりわけ動詞の活用は大事で、直説法や接続法などのモードによる変化、過去・現在・未来といった時制による変化、能動・受動のヴォイスによる変化など、ラテン語形態論の基本をしっかり押さえないといけません。折にふれて近代語とのかかわり、特に近代語の語源考察に時間をさきます。		
使用教材	テキスト	小林 標「独習者のための 楽しく学ぶラテン語」(大学書林)	
	参考文献		
評価方法	どれだけ積極的に授業に参加したかを重視します。試験の成績だけでなく、総合的に判断します。		
受講者に対する要望など	精神的かつ時間的にユトリのある諸君、つまり予習できる人を歓迎します。予習できないことが予め分かっている人はご遠慮ください。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概説 2. ラテン語の読み方 3. sum 動詞の現在 4. 規則動詞(1) 5. 規則動詞(2)、possum の活用 6. 名詞変化(1) 7. 名詞変化(2) 8. 形容詞(1) 9. 形容詞(2) 10. 規則動詞(3)(4) 11. 人称代名詞、再帰代名詞 12. 前置詞 13. 未完了過去 14. 不規則動詞 15. 名詞変化(3) 16. 形容詞(3) 17. 指示代名詞・形容詞 18. 動詞の未来、現在分詞 19. 疑問文、疑問詞 20. 関係代名詞 21. 命令法 22. 完了(1) 23. 完了(2) 24. 受動態、形式受動態 		

科 目 名	総合講座A	担当者名	三 本 茂
-------	-------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>学部共通科目中の総合部門の一つとしての講義。本講義に一貫するテーマは「文化と人間」である。</p> <p>学部共通科目（1 - 4 - 2 科目）の担当者が中心となって、現代文化の諸側面で生じている問題を様々な角度から取り上げ、受講生がこれらの問題に対する理解を深め、問題と対決する方法を学習する事を目指す。テーマは年度ごとに異なるが、初年度は以下のとおりである。</p>		
講 義 概 要	<p>- 諸文化における「誕生」と「死」 -</p> <p>人間はある社会集団に生まれ、やがて死とともに去っていくが、それぞれの社会には独自の「誕生」と「死」についての意味付けや行事がある。これらは一つの文化として社会規範や宗教あるいは習慣・伝承などの形で人々の生活に根づいている。各講師による様々な地域における「誕生」と「死」についての理解と経験を聞くことにより、生と死に関する知識を上げ、それぞれの文化の中で生と死の観念が異なることを学ぶ。</p> <p>なお、講師の都合等により、順序が変更になる場合あり。</p>		
使 用 教 材	テキスト	なし。	
	参考文献	各担当者から提示する。	
評 価 方 法	出席状況と各講義についてのレポートによる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	多彩な内容を自分自身の生活体験を関連づけて理解して欲しい。		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 講座の目指すもの。「文化」と「生活」。</p> <p>2. 3. - 未開社会における「誕生」と「死」 - 井上 兼行 人間における「誕生」と「死」は、無論その生物学的側面が契機になっているが、そこからのみ理解できるものではない。「誕生」も「死」も人間関係のなかに、あるいは世界観のなかに位置づけられその社会独自の意味を持っている。それは未開社会に特に顕著である。ここでは「誕生」にまつわる伝承や儀礼を媒介にして、その位置づけや意味を考えてゆく。</p> <p>4. 5. - ギリシヤにおける誕生と死(古代と現代) - 古川 堅治 はじめに「古代ギリシヤにおける誕生・死・母性」でジェンダー論として古代ギリシヤの女性の生活を、結婚・出産・育児と家政という視点から論じ、墓碑にみられる女性像の分析から古代ギリシヤ社会の内部で女性の占める役割りの重要性和その意義を扱う。 次に「現代ギリシヤにおける誕生と死」でギリシヤ正教にみられる独特の洗礼、命名と洗礼名の二つの名前の付け方、葬礼にみられる深い哀悼の表現の仕方等、宗教色の色深く残る諸観光とその社会的・文化的意味を扱う。</p> <p>6. 7. - マングローブ林の利用 - 犬井 正 マングローブは潮間帯の気水域に生育する植物の総称であり、陸と海の両者に関わる豊かな生態系を創り出している。 マングローブ域で生活する人々は、そこから豊かな「海の幸と山の幸」を得て暮らしている。しかし、先住の人々はそうした資源を根絶やしにすることなく、一種のアニミズムに支えられた循環的で持続的な利用法を築き上げている。日本の沖縄県西表島、ベトナム、エクアドルといった環太平洋のマングローブ域を例にしなから、人とマングローブの関わりを考察していく。</p> <p>8. 9. - 日本文化における誕生と死 - 飯島 一彦 日本の文化には、「人は一生の間に何度も自分自身の誕生と死を迎える」という観念の存在を示す様々な事象を見出せるが、それは日本人の靈魂観を心理の深層で深く結びついている。そのような事例を、広く文学・儀礼・習俗・古典芸能・民俗芸能から取り出し、無意識のうちにそのような観念の枠組みの中で行動し、いかにして感覚的価値観の体系を作り上げているかを、アジア・西欧との比較を交えて明らかにする。</p> <p>10. 11. - 王としての「誕生」と「死」 - 城田 俊 カスピ海近くにあったハザールという国では、王(可汗)は即位するに当たり、絹の小ぎれで気を失う寸前迄首が絞められたとの記録されている。このようにして王は新しく「誕生」するのである。また、敗戦、失政、旱魃等があると王は人民によって弑虐され、新しい王が立てられたという記録もある。敗戦等は王国の衰弱と理解され、精気のある新王を立てることにより、国の衰弱がくい止められると考えられたのであろう。ここでは、組織の指導者の「誕生」と「死」について、二・三の例に当たり考察したいと考える。</p> <p>12. 13. 14. - ネパールにおける「誕生」と「死」の連関性 - 三本 茂 ネパールは、北海道の2倍程度の国土に30以上の民族が住んでいる。ヒンドゥー教を国教としているが、実態は仏教と精霊信仰と混淆した重層信仰の社会である。多くの日本人との違いは、大多数のネパール人の生活が神仏に帰依し信仰が生活の基盤となっていることである。また、誕生と死が輪廻転生という一連の過程としてとらえられていることでもある。主として平野に住むヒンドゥー教徒と山岳部に住むチベット仏教徒および中間の丘陵地帯の住民たちのそれぞれが、「誕生」と「死」に対してどの様に対応するか、そしてその意味するものは何かについて比較考察する。</p> <p>15. 16. 17. - 日本人の死の迎え方および葬祭儀礼の変化 - 有吉 広介 かつては、人の死は家族・親族・地域社会の人にとって社会的な事件であり、従って、葬儀まで、葬儀、そして死後の供養の諸行事がすべて伝統的儀礼に従い近い親戚縁者・近隣の人々によって行われた。しかし、長寿化・少子化および生活の合理化が進む現代では、大抵の人は成人病によって死を迎えるが、死に至る過程は医療や福祉のシステムによって管理される。しかも生活の個別化は、死の意味も個人的なものにして、葬祭の自由や死後の自己決定権が主張される一方、葬祭儀礼もサービス消費の形態をとる。 このような現状をふまえて「日本人にとっての死」について再考してみたい。</p> <p>18. 19. - スペイン文化・ギリシヤにおける「誕生」と「死」 - 野々山 ミチコ (1) スペインにおけるセレモニーとしての死と誕生 葬儀、誕生の儀式的行い方、エチケットなどについて講義する。また儀式と関連させて食文化についても触れる。 (2) スペイン文学に現れた死生観 中世から現代まで、特に死について思索した詩人、小説家、劇作家などの死生観を解説し、その特殊性を考える。</p> <p>20. 21. - ヨーロッパと日本の魂の出会い - 小島 幸枝 人間は死後、どこへ行き、そこはどんな世界なのだろうか。生まれた以上、誰にでも必ず訪れる死の問題を、宗教はさまざまな表現で説く。15世紀末にはじまり、16世紀にピークを迎えた大航海時代に、日本と日本人の魂にゆさぶりをかけたキリスト教とヨーロッパ人は、死後をどのように説明したか。神道の国であり、仏教もすでに流布していた日本において、日本人はこの死後の世界をどう受けとめたのか。 400年前に日本語に翻訳されたキリシタン文献をもとに、このことを紹介しよう。</p> <p>22. この他外来講師を予定</p>
----------------------------	--

科目名	共通演習	担当者名	青柳多恵子
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>「スポーツ文化学」を主題に、今年度は東洋と西洋の国々の歴史的生活とその中で培われたスポーツ文化・健康文化を中心課題として採り上げる。日本・中国・イギリス・ドイツ・アメリカ・東南アジアを中心にスポーツと生活・健康や健康の為として考えられてきた芸能・祭り等を通してどのような考え方をし、どのような生活をしてきたか研究していく。また大学で学ぶ「ゼミナール」の入門として、どのような形で「ゼミ」が進められるかもこの講座で学ぶことができます。</p>		
講義概要	<p>「ゼミナール」の運営の仕方、各テーマの報告と討論を中心に行う。 今年度はオリンピック開催年であると共に、日本（長野）で開催されるという記念の年といえよう。「オリンピック」を主にスポーツ文化が如何なる発展と変化を為したか、解説を加えながら。各スポーツの歴史の変遷を検索し、その誕生当時の社会状況と、特にスポーツを行う服装（スタイル）や用具の変化を通して「スポーツ文化」の意味とその及ぼす社会的意義を解明していく。またオリンピックの全世界的な「祭り」としての意義と経済的影響はもとより、記録としての伸びへの影響等研究していく。研究の成果を作成していくことは勿論だがゼミとしても楽しくしていきたい。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しない。	
	参考文献	その都度、指摘・提示する。	
評価方法	出席と報告・討議への参加など総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	スポーツ・健康学に興味を積極的に取り組む姿勢を期待したい。		

1. 年間のゼミとしての進め方と具体的内容について説明。
2. スポーツ文化の誕生と発展 文化としてのスポーツとは？
3. 中国人の健康思想 古代中国人と現代中国人の生活様式とその違い
4. 健康意識の変遷
5. 生活・芸能・式典・文化・スポーツ
6. 日本人の健康歳時記と生活（江戸期・明治期・昭和期）
7. 生活意識の変容と健康
8. 文化の中の芸能・スポーツの位置

科目名	共通演習	担当者名	有吉広介
-----	------	------	------

講義の目標	<p>現代の英国社会を学ぶ 現代の英国社会では、従来の社会構造に基礎を置く生活様式と、新しく起こってきた社会構造および文化に対応する生活様式とが混じりあって、ときには社会問題も生まれている。そこで、英国の社会構造や文化に関する社会学的分析を中心に、英国人の行動様式や生活文化を深く理解することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>まず現代イギリスにおける家族と家庭生活を取り上げて、社会が変化するなかで、伝統的なタイプとは違うさまざまな家族とその生活が生まれていて、そして人々が結婚や家庭生活に関して不安感をいだくようになっているのを見る。第二に、英国の都市生活を取り上げて、都市とその周辺部との間に生活機会の不平等問題が起こっていたり、あるいは都市の機能が、物質文明の中心地としてよりもサービス文化のメッカに変貌しつつある様子をさぐる。第三に、現代の英国の教育制度を取り上げて、社会や文化を再生産する場である学校が、職業教育の場あるいはエリート選別の場になっている点を見る。最後に、階級社会といわれる英国の社会構造を取り上げて、英国人の生活の多様性を見る。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを配布する。	
	参考文献	適宜指示する。	
評価方法	前・後期の終りに求めるレポートにて評価する。		
受講者に対する要望など	講義に出席し、そこで要点を把握すること。		

年
間
授
業
計
画

1. 日英の家族構造の比較
2. 同上
3. 英国における家族構造の階級差
4. 近年における家族の多様化
5. 田園地域の生活
6. 都市生活の新しい傾向
7. 同上
8. 教育制度
9. 教育と経済的生産との関係
10. 隠れたカリキュラム
11. 教育における不平等
12. 社会的および文化的再生産
13. 英国の階級社会の概観
14. 最近の職業構造
15. 階級構造の図解
16. 所得および資産の分布状況
17. 貧困の問題
18. 労働階級の姿
19. 同上
20. 新しい労働者は出現したか
21. 中間階級の多様性
22. サービス階級
23. 英国の上流階級
24. まとめ

科目名	共通演習	担当者名	飯島一彦
-----	------	------	------

講義の目標	<p>日本各地に現在でも無数に伝承されている民俗藝能について取り組み、そこに潜む「日本人」の価値観・感覚・感情・発想の原型、及びそれらを根底に置いた人間関係・社会組織・行動規範・様々な人生の様態等を、具体的に伝承の現場を体験・実感することを中心にして認識する。従って、少なくとも全体で一回以上、個人では数度にわたる現地調査を遂行する。</p>		
講義概要	<p>アプローチの方法は三つ。第一に民俗学の基礎的知識と分析の方法の獲得である。民俗伝承全体の中で藝能の伝承及びそれに対する追求がどの様に位置付けられるのか、講義及び参加者個々に課せられるリサーチによって構成される。これは前期前半に集中的に行なう。</p> <p>第二はどの民俗藝能を具体的な対象とするかの検討と決定である。これはすでに発行されている記録・報告類・各市町村で把握している情報、演習参加者が個人的に得ている情報等を元に行なわれる。前期中に行なう。</p> <p>第三は具体的な現地調査、及びその報告と検討である。後期をこれに費やす。現地調査は夏期もしくは秋期の予定。</p>		
使用教材	テキスト	『日本民俗学』（弘文堂入門双書、弘文堂、1984、東京、ISBN4-335-57029-5、1340円税込）	
	参考文献	<p>主要なものについては最初の時間にその一覧を配布する。その他については、時間中にその都度指示する。</p>	
評価方法	<p>前期にレポートを一回、後期に現地調査のまとめ（レポート）を提出。及び平常点（出席点ではない）</p>		
受講者に対する要望など	<p>民俗藝能に関する予備知識を必ずしも必要としない。ただし、みずから調査し参加する意志を持たないものは出席しても無駄である。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習の内容・年間予定の概要説明。民俗・民俗学・民俗藝能・民俗藝能を研究することの意義等について概説。参考文献一覧を配布、解説。 2. 民俗藝能の研究手法・研究史について概説。参加者各個人の担当リサーチのテーマを決定。 3. 日本民俗学史・学の構成・最近の問題意識等について概説。参加者各個人の対象とする民族藝能に関する調査の報告。 4. リサーチ報告「社会伝承」。参加者各個人の対象とする民俗藝能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。 5. リサーチ報告「経済伝承」。参加者個人の対象とする民俗藝能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。 6. リサーチ報告「儀礼伝承」。参加者個人の対象とする民俗藝能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。 7. リサーチ報告「信仰伝承」。参加者個人の対象とする民俗藝能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。 8. リサーチ報告「言語伝承」。参加者個人の対象とする民俗藝能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。 9. リサーチ報告「藝能伝承」。参加者個人の対象とする民俗藝能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。 10. 実施調査の実例の説明（例として：八潮市の民俗藝能概説。「三匹獅子舞」概説）。夏期もしくは秋期の民俗藝能調査の対象を決定。夏期休暇中の課題決定。 11. 実地調査の実例の体験（例として：八潮市の民俗藝能）現地実地調査（フィールドワーク） 12. 参加者各個人の対象とする民俗藝能に関する事前調査の報告、及びそれらの検討と、夏期もしくは秋期の民俗藝能調査の対象を決定することに関しての予備日。 13. 夏期休暇中の課題の報告、及び検討。参加者各個人の対象とする民俗藝能に関する実地調査の報告、補完調査の内容、及び調査報告（レポート）の形式・内容について検討。 14.) 15.) 16.) 17.) 18.) 19.) 20.) 21.) 22.) 23.) 24. 各自の調査報告の提出。年間のまとめ。
----------------------------	---

科 目 名	共通演習	担当者名	城 田 俊
-------	------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>エッセーを読み、エッセーを書き、スピーチを行う。日本語習練の実践を具体的に行う。朗読が上手に行え、スピーチができるようになり、エッセーが書けるようになる、というのが終局的目的である。</p>		
講 義 概 要	<p>担当者をあらかじめ定め、テキストを朗読し、全員が感想を述べ合う（内容のみならず担当者の朗読も含めて）。スピーチを行い、エッセーを書き、それを朗読し、全員が感想を述べ合う。テキストの語彙の解説も担当者が行う。スピーチ原稿、エッセーの清書（完成稿）は提出して貰う。</p>		
使 用 教 材	テキスト	『挨拶はむづかしい』丸谷 オー著（朝日文庫）朝日新聞社	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>前期・後期定期試験期間中に各一回行う。レポート、エッセー、学習研究態度を見て総合的に判定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>参加者全員がエッセーを書き、スピーチを実際に行い、全員でそれを批評する。積極的参加が望まれる。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方の説明。テキスト「新郎は一種の天才で…」全員の感想発表。語彙の研究。役割の分担。発表の順序。 2. テキスト「君は最上の人生を生きた。」感想発表。語彙の研究。参加者の自己紹介。 3. テキスト「民語の主人公のような一生」。感想発表。語彙の研究。参加者（１）のスピーチ。全員の批評。参加者（２）のエッセー。全員の批評。 4. テキスト「ジョイスづくしで華燭の典」。感想発表。語彙の研究。参加者（２）のスピーチ。全員の批評。参加者（３）のエッセー。全員の批評。 5. テキスト「文学者としての荒畑寒村」。感想発表。語彙の研究。参加者（３）のスピーチ。全員の批評。参加者（４）のエッセー。全員の批評。 6. テキスト「息子の『尊敬する人物』」。感想発表。語彙研究。参加者（４）のスピーチ。全員の批評。参加者（５）のエッセー。全員の批評。 7. テキスト「エム先生の大きい恩恵」。感想発表。語彙の研究。参加者（５）のスピーチ。全員の批評。参加者（６）のエッセー。全員の批評。 8. テキスト「万葉集も祝ふ婚礼」。感想発表。語彙の研究。参加者（６）のスピーチ。全員の批評。参加者（７）のエッセー。全員の批評。 9. テキスト「恐い人柄」。感想発表。語彙の研究。参加者（７）のスピーチ。全員の批評。参加者（８）のエッセー。全員の批評。 10. テキスト「結婚とは二人で思ひでを作る作業」。感想発表。語彙の研究。参加者（８）のスピーチ。全員の批評。参加者（９）のエッセー。全員の批評。 11. テキスト「義理のある文学者」。感想発表。語彙の研究。参加者（９）のスピーチ。全員の批評。参加者（１０）のエッセー。全員の批評。 12. テキスト「愛誦される詩人の幸福」。感想発表。前期まとめ。前期試験の概要説明。 13. テキスト「日本型プロ野球を書く」。感想発表。語彙の研究。参加者（１０）のスピーチ。全員の批評。参加者（１１）のエッセー。全員の批評。 14. テキスト「新しい価値の教師」。感想発表。語彙の研究。参加者（１１）のスピーチ。全員の批評。参加者（１２）のエッセー。全員の批評。 15. テキスト「芭蕉から『知床旅情』まで」。感想発表。語彙の研究。参加者（１２）のスピーチ。全員の批評。参加者（１３）のエッセー。全員の批評。 16. テキスト「牛肉と洋書と漢籍」。感想発表。語彙の研究。参加者（１３）のスピーチ。全員の批評。参加者（１４）のエッセー。全員の批評。 17. テキスト「空を飛ぶ薬罐」。感想発表。語彙の研究。参加者（１４）のスピーチ。全員の批評。参加者（１５）のエッセー。全員の批評。 18. テキスト「色事に向けた顔」。感想発表。語彙の研究。参加者（１５）のスピーチ。全員の批評。参加者（１６）のエッセー。全員の批評。 19. テキスト「月光浴の楽しみ」。感想発表。語彙の研究。参加者（１６）のスピーチ。全員の批評。参加者（１７）のエッセー。全員の批評。 20. テキスト「十九の年からの先生」。感想発表。語彙の研究。参加者（１７）のスピーチ。全員の批評。参加者（１８）のエッセー。全員の批評。 21. テキスト「スターとは何か」。感想発表。語彙の研究。参加者（１８）のスピーチ。全員の批評。参加者（１９）のエッセー。全員の批評。 22. テキスト「葡萄酒に当り年があるように」。感想発表。語彙の研究。参加者（１９）のスピーチ。全員の批評。参加者（２０）のエッセー。全員の批評。 23. テキスト「ジャーナリズムの文体を変へた男」。感想発表。語彙の研究。参加者（２０）のスピーチ。全員の批評。参加者（１）のエッセー。全員の批評。 24. テキスト「(対談)日本人の挨拶」。感想発表。後期まとめ。全体のまとめ。後期試験の概要説明。
----------------------------	--

科 目 名	共通演習	担当者名	高橋正男
-------	------	------	------

講義の目標	<p>「遠藤周作を読む」</p> <p>イエスの生涯に関する伝承は同時代の他の人物に較べて比較的正確であるといわれるが、イエスの誕生に関する記録は今日われわれの用いる意味での科学的検討に耐え得るものではない。</p> <p>本年は遠藤周作(1923 - 96)の作品を精読し乍ら「史的イエス像」を探究する。『イエスの生涯』から読みはじめる。必要に応じて英語版を併読する。併せて学習作法を懇切に伝授する。</p>		
講義概要	<p>『イエスの生涯』(1973年)は『波』に「聖書物語」として連載した作品を加筆・補訂して上梓した労作である(国際ダグ・ハマーショルド賞受賞)、『死海のほとり』と表裏一体をなす。本書には著者の理解するユダヤ人イエスの生涯の一端が描かれていて、キリスト教に無縁な読者にも実感をもって理解できるように工夫されている。著者は一貫して日本の精神風土とキリスト教の問題を追求してきた。「遠藤氏が示したイエス像こそが、長い歲月かかって自分の身体に合うように氏が仕立てあげた和服に他ならない。」(井上洋治)</p> <p>講義概要は年間授業計画表を参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤周作著『イエスの生涯』(新潮文庫) ・塚本虎二訳『新約聖書 福音書』(岩波文庫ワイド版) 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・森禮子著『イエス』講談社(必読書) ・G=ベシエール著 小河陽監訳『イエスの生涯』(「知の再発見」双書44)創元社 ・他その都度紹介する。 	
評価方法	平常点による。		
受講者に対する要望など	毎週休まずに積極的に参加できるよう生活設計をたてることを強く希望する。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福音書概観（１） 2. 福音書概観（２） 3. イエス時代のユダヤ教諸党派 4. 以下『イエスの生涯』を読む。 第１章 ナザレの日々を捨てて 5. 第２章 死海のほとり 6. 第３章 危険なる初期時代 7. 第４章 ガリラヤの春 8. V I D E O 9. 第５章 スパイたち 10. 第６章 人の子には枕するところもない 11. 第７章 無力なるイエス 12. 前期まとめ・V I D E O 13. イエス時代のエルサレム（１） 14. イエス時代のエルサレム（２） 15. V I D E O 16. 第８章 ユダ、哀しき男 17. 第９章 エルサレムよ、エルサレムよ 18. 第１０章 逮捕の夜 19. 第１１章 裁く人たち 20. 第１２章 主よ、み手に委ねたてまつる 21. 第１３章 謎 22. イエス伝研究史（１） 23. イエス伝研究史（２） 24. 後期まとめ・V I D E O
----------------------------	--

科 目 名	共通演習	担当者名	中西栄子
-------	------	------	------

講義の目標	英語文を日本語文に翻訳する作業を通じ、英語と日本語における様々な表現方法の相違を捉え、さらに日本語の表現力をつける。		
講義概要	英語文をより自然な日本語文に置き換えていくためには具体的にどのような操作が必要か、対照言語学的な見地からその相違を検討した上で具体的な翻訳の作業を行う。前期は典型的な訳例を見せ、注意ポイントを説明する。学生は注意ポイントを理解した上で、短文・長文の翻訳をする。後期には前期で学んだこと的应用で、短編・中編小説（文学）をそれぞれが分担し、本の全訳をする。		
使用教材	テキスト	プリント配布。	
	参考文献	特にない。但し、辞書類に関しては英英辞典、英和大辞典、（日本語の）類義語辞典、「大辞林」や「国語大辞典」（小学館）等々必携。	
評価方法	出席。与えられた課題を果たすこと。		
受講者に対する要望など	この授業では自分で訳文を実際に書いていかなければ何の成果も得られない。従って参加者は最低限翻訳した上で授業に参加すること。欠席は4回以内とする。		
年間授業計画	1. オリエンテーション	語順（説明）	
	2. 語順	無生物主語の構文（説明） 所有格（説明）	
	3. 無生物主語の構文 所有格	人称代名詞・指示代名詞（説明）	
	4. 人称代名詞・指示代名詞	Of + 名詞（説明）	
	5. Of + 名詞	形容詞・副詞（説明） 比較級・最上級（説明）	
	6. 比較級・最上級 形容詞・副詞	自動詞文・他動詞文（説明）	
	7. 自動詞文・他動詞文	否定（説明）	
	8. 否定	受動態（説明）	
	9. 受動態	連体修飾（説明）	
	10. 連体修飾		
	11. 連体修飾	仮定法（説明） 話法（説明）	
	12. 仮定法	時制・接続詞	
	13. クラスでの訳例		

科 目 名	共通演習 (Die vergleichende Forschung über die Ski-Instruktion von Österreich und Japan)	担当者名	松 原 裕
-------	--	------	-------

講 義 の 目 標	<p>前期は、オーストリアと日本のアルペンスキー指導法を比較する作業の中で、オーストリアと日本のスポーツ文化について考える。</p> <p>後期は、インラインスケートを利用したスキートレーニングについて、学内で実践し、実際にスキーを体験学習する。</p>		
講 義 概 要	<p>前期は、オーストリアのスキー教師養成コースのうち、SCHILEHRER-ANWÄRTER KURSEの資料を中心に、オーストリア・チロル州インスブルック周辺のスポーツ文化についても紹介しながら講義する。</p> <p>後期は、インラインスケートを使用して、基本的な滑走技術、バランス感覚、ストックワーク、回転のメカニズムを紹介する。また、実際にスキーに行ってオーストリアの初心者指導を紹介する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	そのつど紹介する。	
	参考文献	そのつど紹介する。	
評 価 方 法	毎時間の出席、態度、アルペンスキーに対する理解度などを総合して評価。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	スキーへの関心、学究心、公正な態度、コミュニケーション		

年 間 授 業 計 画	1.	1. オリエンテーション 個人票の作成 (写真 4×3 cm 1 枚添付) 授業実施上の諸注意
	2.	Skilehrer - Anwärter Skripten (ドイツ語)
	3.	"
	4.	"
	5.	"
	6.	"
	7.	"
	8.	"
	9.	"
	10.	"
	11.	"
	12.	"
	13.	インラインスケート サイズ合わせ
	14.	" 基本滑走
	15.	" 基本滑走 + ストップ
	16.	" スラローム滑走
	17.	" 回転弧のリズム変化
	18.	" ショートターン
	19.	" スtockワーク
	20.	" フォーメーション滑走
	21.	" 総合滑走
	22.	" 初心者指導
	23.	" "
	24.	" "

科目名	共通演習	担当者名	三本 茂
-----	------	------	------

講義の目標	<p>- ルポルターージュを書く -</p> <p>交通手段やコミュニケーションの方法が多様化し、様々な地域を訪れる機会も多くなった。しかし、せっかく体験したことも他人や外部に伝える方法が身につけていなければ、知識として共有される機会が失われてしまう。</p> <p>この演習では、すぐれたルポルターージュ（現地報告）に触れることを通じてルポルターージュの書き方についての基礎的知識と技術を身につけることを目的とする。</p> <p>文章だけでなく、写真やビデオなどの映像による記録の方法についても実習する。</p>		
講義概要	<p>本多勝一著「ルポルターージュの書き方」（朝日文庫）を使用し、ルポを書く際に必要な基礎知識を学習する。次いで、彼の書いた「憧憬のヒマラヤ」「カナダエスキモー」などを読み解きながら実際の書き方を体得してゆく。</p> <p>この他のテキストとして「日本語の作文技術」を書く過程で絶えず参照して欲しい。</p> <p>以後、各人が短いルポルターージュを書き、お互いに批評し合いながら進めてゆく。カメラを用いた映像によるルポルターージュの方法も試みる。</p>		
使用教材	テキスト	本多勝一「ルポルターージュの方法」「日本語の作文技術」他	
	参考文献	その都度、文献や記事などを指示、提供する。	
評価方法	提出されたルポルターージュ（特に夏休みと大学祭を題材にしてまとめたルポルターージュを作成する）と授業への参加の内容により評価する。		
受講者に対する要望など	とにかく出席し、行動しなければ演習は進まないの、積極的に参加し、発言し、ルポを書くことを期待している。		

1. - 5. 「ルポルタージュの方法」を読む
6. - 9. フィールドに出て取材する ルポルタージュを書いてみる
10. 11. 幾つかのルポルタージュを読んで批評する
12. 夏休み中にある程度の長さのルポルタージュを書く
13. ルポルタージュを書いて互いに批評する
14. 映像による記録の実習
15. - 19. 大学祭のルポルタージュを作る
20. 書く、撮る、描く、語る等の方法の違いについて考える

